

学校法人 日本赤十字学園
日本赤十字豊田看護大学

Japanese
Red Cross
Toyota
College of
Nursing
Graduate School

シラバス
大学院看護学研究科

平成30年度

授 業 概 要

(SYLLABUS)

日本赤十字豊田看護大学
大学院看護学研究科

目 次

I 学年暦・時間割	
平成 30 年度 学年暦	5
平成 30 年度 修士課程時間割【前期】	6
平成 30 年度 修士課程時間割【後期】	7
II 修士課程看護学専攻 専任教員・非常勤講師一覧	
平成 30 年度 教員一覧《専任教員》	9
平成 30 年度 オフィスアワー《専任教員》	10
平成 30 年度 教員一覧・オフィスアワー《客員教授・非常勤講師》	11
III 修士課程看護学専攻 教育課程	
平成 29・30 年度入学生 教育課程	13
平成 27・28 年度入学生 教育課程	14
IV 修士課程看護学専攻 シラバス	
必修共通科目	15
看護理論	17
看護研究Ⅰ（量的研究）	19
看護倫理	21
赤十字の歴史と国際人道法	23
選択共通科目	25
看護社会学	27
医療経営学	28
病態生理学	30
臨床薬理学	31
ヘルス・アセスメント	32
統計学	34
看護研究Ⅱ（質的研究）	35
コンサルテーション論	37
看護政策論	39
看護教育原論	41
看護教育方法論	42
看護管理学	43
看護管理学特論	45
人的資源管理論	47
看護管理学演習Ⅰ	49
看護管理学演習Ⅱ	50
臨床実践看護学・成人急性期看護学	51
周手術期看護論	53
感染予防看護論	54
急性期機能回復援助論	55
成人急性期看護学演習	56
臨床実践看護学・母性看護学	57
母性看護学特論	59
母性看護学援助特論	60
周産期看護特論	61
母性看護学演習	62

学年暦
時間割

修士課程
教員一覧

修士課程
教育課程

修士課程
必修共通科目

修士課程
選択共通科目

修士課程
看護管理学

修士課程
成人看護学

修士課程
母性看護学

修士課程
小児看護学

修士課程
精神看護学

修士課程
地域看護学

修士課程
災害看護学

修士課程
研究

博士課程
教員一覧

博士課程
共通科目

博士課程
専門科目

博士課程
演習科目

博士課程
合同研究

博士課程
特別研究

	周産期看護援助方法論演習	64
	周産期看護高度実践演習	66
	周産期看護管理演習	68
	周産期看護事例検討演習	70
	周産期看護管理実習	72
	周産期看護高度実践実習	74
	臨床実践看護学・小児看護学	77
	小児看護学成長発達論Ⅰ	79
	小児看護学成長発達論Ⅱ	81
	小児看護学展開理論	83
	小児看護学評価方法論	85
	小児看護学演習	87
	小児 CNS 機能と役割演習	89
	小児看護支援論	91
	小児 CNS 機能と役割実習	93
	小児看護高度実践実習	94
	臨床実践看護学・精神看護学	95
	精神保健医療論	97
	精神健康行動評価論	99
	精神健康行動ケア特論	101
	精神科治療と看護	103
	心身の健康と環境看護論	105
	精神看護学教育論	107
	精神看護学原論	109
	メンタルヘルスと司法看護学	111
	精神科治療と看護演習	113
	精神健康行動評価演習	115
	精神看護援助方法の開発演習	118
	精神 CNS 機能と役割実習	120
	精神看護学高度実践実習	122
	地域生活看護学	125
	地域生活看護学特論	127
	地域保健統計学	128
	地域生活看護学Ⅰ（地域高齢者ケアシステム論）	129
	地域生活看護学Ⅱ（高齢者療養看護論）	130
	地域生活看護学Ⅲ（認知症ケア論）	131
	地域生活看護学演習Ⅰ	132
	地域生活看護学演習Ⅱ	133
	災害看護学	135
	災害看護学概論	137
	災害と法律・制度	139
	災害看護学対象論	141
	災害看護学援助論	143
	災害看護学教育・管理論	145
	災害看護学演習Ⅰ	147
	災害看護学演習Ⅱ	148
	災害看護学演習Ⅲ	150

災害看護学演習Ⅳ	152
災害看護学実習Ⅰ	153
災害看護学実習Ⅱ	154
研 究	155
課題研究	157
特別研究	159
V 後期3年博士課程共同看護学専攻 教員一覧	
2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字北海道看護大学]	161
2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字秋田看護大学]	162
2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字豊田看護大学]	163
2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字広島看護大学]	164
2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字九州国際看護大学]	165
VI 後期3年博士課程共同看護学専攻 シラバス	
共通科目	167
看護理論	169
赤十字人道援助論	170
科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	171
科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	172
科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	173
科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	174
科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	175
科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	176
臨床倫理論	177
専門科目	179
看護人材開発特論	181
実践看護学特論	182
療養生活看護学特論	183
生涯発達看護学特論	184
広域連携看護学特論	185
災害救護特論	186
健康科学特論	187
演習科目	189
看護学演習	191
合同研究ゼミナール科目	195
合同研究ゼミナール	197
特別研究科目	199
特別研究	201

学年暦
修士課程 教員一覧
修士課程 教育課程
修士課程 必修共通科目
修士課程 選択共通科目
修士課程 看護管理學
修士課程 成人看護學
修士課程 母性看護學
修士課程 小児看護學
修士課程 精神看護學
修士課程 地域看護學
修士課程 災害看護學
修士課程 研究
博士課程 教員一覧
博士課程 共通科目
博士課程 専門科目
博士課程 演習科目
博士課程 合同研究
博士課程 特別研究

I 学年暦・時間割

平成30年度 学年暦

年月	週数	月	火	水	木	金	土	日	行事等	
									修士課程	博士課程
H.30 4月	1	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	1	4/4 入学式・オリエンテーション 4/5 前期授業開始 4/7 新入学生・在学生サテライトキャンパスオリエンテーション	
	2	2	3	4	5	6	7	8		
	3	9	10	11	12	13	14	15	4/4～11 前期履修登録期間	4/9～13 前期履修登録期間 4/13 研究計画書提出①
	4	16	17	18	19	20	21	22		
	5	23	24	25	26	27	28	29	4/17 定期健康診断	4/21 CINAHL 講習会
5月	6	30	1	2	3	4	5	6	5/1 日本赤十字社創立記念日(休校) 5/2 休校(10/8の振替休日) 5/24～26 いとすぎ祭	
	7	7	8	9	10	11	12	13		
	8	14	15	16	17	18	19	20	5/25 【9月】修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日(17時)	5/18～20 研究計画審査① 5/18～19 合同ガイダンス
6月	9	21	22	23	24	25	26	27		
	10	28	29	30	31	1	2	3		
	11	4	5	6	7	8	9	10	6/22 【9月】修士論文・課題研究論文提出期日(17時) 6/25～8/3 【9月】修士論文・課題研究論文審査及び 最終試験	6/15 研究計画書提出②
7月	12	11	12	13	14	15	16	17		
	13	18	19	20	21	22	23	24		
	14	25	26	27	28	29	30	1	7/3 【夏】発表会資料提出期限(17時) 7/13 【夏】研究計画発表会(13時～) 7/13～8/31 【夏】研究計画審査申請期間 7/20 【9月】修士論文・課題研究論文発表会(13時～)	7/9～7/10 研究計画審査②
	15	2	3	4	5	6	7	8		
	16	9	10	11	12	13	14	15		
8月	17	16	17	18	19	20	21	22		
	18	23	24	25	26	27	28	29		7/21 オープンキャンパス
	19	30	31	1	2	3	4	5	8/11～9/30 夏季休暇期間 (8/11～8/15 全館休館)	
	20	6	7	8	9	10	11	12		8/17 オープンキャンパス
	21	13	14	15	16	17	18	19		
9月	22	20	21	22	23	24	25	26	8/30 【9月】学位授与判定結果の公示(10時)	8/17～8/31 後期履修登録期間
	23	27	28	29	30	31	1	2		
	24	3	4	5	6	7	8	9	9/1～9/7 後期履修登録期間	9/14 研究計画書提出③
	25	10	11	12	13	14	15	16	9/25 第1回大学院入試 ※ 9/26 学部保健師教育課程選抜試験 ※	
	26	17	18	19	20	21	22	23	9/27 【9月】修了式	
10月	27	24	25	26	27	28	29	30	10/1 後期授業開始 10/5 【1年生】仮研究テーマ(仮研究課題)提出期日 (17時)	10/1 後期授業開始
	28	1	2	3	4	5	6	7		
	29	8	9	10	11	12	13	14		10/8 祝日開講
	30	15	16	17	18	19	20	21		10/19～10/20 合同ゼミナール 10/19～10/21 研究計画審査③
	31	22	23	24	25	26	27	28		
11月	32	29	30	31	1	2	3	4		
	33	5	6	7	8	9	10	11	11/22 【3月】修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日(17時)	11/1 博士論文・審査願提出 11/30 博士論文審査
	34	12	13	14	15	16	17	18		
12月	35	19	20	21	22	23	24	25		
	36	26	27	28	29	30	1	2		
	37	3	4	5	6	7	8	9	12/1 学部推薦入試 ※ 12/28～1/3 冬季休暇期間	
	38	10	11	12	13	14	15	16		
	39	17	18	19	20	21	22	23	12/21 【3月】修士論文・課題研究論文提出期日(17時) 12/25～2/15 【3月】修士論文・課題研究論文審査及び 最終試験	
H.31 1月	40	24	25	26	27	28	29	30		
	41	31	1	2	3	4	5	6	1/8 【冬】発表会資料提出期限(17時) 1/18 【冬】研究計画発表会(13時～) 1/18～2/28 【冬】研究計画審査申請期間 1/25 【3月】修士論文・課題研究論文発表会(13時～)	
	42	7	8	9	10	11	12	13		
	43	14	15	16	17	18	19	20		
	44	21	22	23	24	25	26	27		
2月	45	28	29	30	31	1	2	3	2/2 学部一般入試 ※ 2/23 電気設備法定点検(全館停電) 2/26 第2回大学院入試	
	46	4	5	6	7	8	9	10		
	47	11	12	13	14	15	16	17	2/28 【3月】学位授与判定結果の公示(10時)	2/15 研究計画書提出④ 2/15 特別研究報告書提出(2年生)
3月	48	18	19	20	21	22	23	24		
	49	25	26	27	28	1	2	3	3/2 学部センター利用後期入試 ※ 3/1～3/31 春季休暇期間 3/18 【3月】修了式	
	50	4	5	6	7	8	9	10		
	51	11	12	13	14	15	16	17		
	52	18	19	20	21	22	23	24		3/15～3/16 研究計画書審査④
53	25	26	27	28	29	30	31			

【夏】【冬】：研究計画審査 【9月】は9月修了、【3月】は3月修了：論文審査
※前日および当日、大学への立ち入りに制限があります。詳細は別途お知らせします。

平成 30 年度 修士課程時間割【前期】

曜日	時限	時間	共通科目			専門科目			
			科目名	講義日	教室	科目名	講義日	教室	
月	I	9:00～10:30				特別研究	4/9～7/30	指導教員に確認してください。	
	II	10:40～12:10				特別研究	4/9～7/30		
	III	13:00～14:30				特別研究	4/9～7/30		
	IV	14:40～16:10							
	V	16:20～17:50							
	VI	18:00～19:30	看護社会学	4/16、5/7、21、6/4、18、7/2、23、8/6	小講義4	精神保健医療論	4/9、23、5/14、28、6/11、25、7/9、30		ゼミ11
	VII	19:40～21:10	看護社会学	4/16、5/7、21、6/4、18、7/2、23	小講義4	精神保健医療論	4/9、23、5/14、28、6/11、25、7/9		ゼミ11
火	I	9:00～10:30				課題研究	5/8～6/26	指導教員に確認してください。	
	II	10:40～12:10				課題研究	5/8～6/19		
	III	13:00～14:30							
	IV	14:40～16:10							
	V	16:20～17:50							
	VI	18:00～19:30				小児看護支援論	4/10～24、5/8～7/17		ゼミ10
	VII	19:40～21:10	看護教育原論	4/10、24、5/8、22、6/5、19、7/3、17	ゼミ9	小児看護学成長発達論Ⅱ	7/24～8/7、8/21		ゼミ10
水	I	9:00～10:30							
	II	10:40～12:10							
	III	13:00～14:30							
	IV	14:40～16:10				母性看護学特論	5/16、5/30～6/20、7/4、18		ゼミ7
	V	16:20～17:50				感染予防看護論	4/18、5/9、16、6/6、13、7/4、7/18～8/8		ゼミ8
	VI	18:00～19:30	統計学	4/11、18、5/9、16、5/30～6/20	ゼミ9 情報処理室	看護管理学特論	4/18、5/9、30、6/13、7/4、18、8/1		ゼミ2
	VII	19:40～21:10	統計学	4/11、18、5/9、16、5/30～6/13	情報処理室	母性看護学特論	5/9、16、5/30～6/20、7/4、18		ゼミ7
木	I	9:00～10:30							
	II	10:40～12:10							
	III	13:00～14:30							
	IV	14:40～16:10				周手術期看護論	4/26、5/10、31、6/14、28、7/12、26、8/9、16		ゼミ8
	V	16:20～17:50				周手術期看護論	4/26、5/10、31、6/14、7/12、8/9		ゼミ8
	VI	18:00～19:30	臨床薬理学	4/12、26、5/10、24、6/7、21、7/5、19	サテライト	地域生活看護学特論	4/19		ゼミ13
	VII	19:40～21:10	臨床薬理学	4/12、26、5/10、24、6/7、21、7/5	サテライト	小児看護学成長発達論Ⅰ	4/5、19、5/17、31、6/28、7/12、7/26、8/2		ゼミ10
金	I	9:00～10:30							
	II	10:40～12:10							
	III	13:00～14:30							
	IV	14:40～16:10				母性看護学援助特論	4/6、13、27、5/11、25、6/8、22、29		ゼミ7
	V	16:20～17:50				母性看護学援助特論	4/6、13、27、5/11、25、6/8、22		ゼミ7
	VI	18:00～19:30	看護研究Ⅰ(量的研究)【必修】	4/6、13、27、5/11、25、6/8、22、29	ゼミ9				
	VII	19:40～21:10	看護研究Ⅰ(量的研究)【必修】	4/6、13、27、5/11、25、6/8、22	ゼミ9				
土	I	9:00～10:30	看護理論【必修】	4/14、21、5/12、6/9、16、30、7/28、8/4	ゼミ16				
	II	10:40～12:10	看護理論【必修】	4/14、21、5/12、6/9、16、30、7/28	ゼミ16				
	III	13:00～14:30				看護管理学特論	7/14		サテライト
	IV	14:40～16:10				看護管理学特論	7/14		サテライト
	V	16:20～17:50							

【注意】 教員都合により変更となることがあります。詳細は、担当教員へ確認してください。

平成 30 年度 修士課程時間割【後期】

曜日	時間	共通科目			専門科目		
		科目名	講義日	教室	科目名	講義日	教室
月	I 9:00～10:30				特別研究	10/1～1/21	
	II 10:40～12:10				特別研究	10/1～1/21	指導教員に確認してください。
	III 13:00～14:30				特別研究	10/1～1/21	
	IV 14:40～16:10						
	V 16:20～17:50						
	VI 18:00～19:30	ヘルス・アセスメント	10/1、22、11/5、1/7、1/21～2/4、25 12/10～24	ゼミ3 サテライト	地域保健統計学 小児看護学評価方法論	10/15～12/3 10/8、29、11/12～26、2/18、3/4	院生情報処理室 ゼミ8
	VII 19:40～21:10	ヘルス・アセスメント	12/3～24	サテライト	地域保健統計学 小児看護学評価方法論	10/15～11/26 10/1、8、1/7、1/21～2/4、2/18、25	院生情報処理室 ゼミ8
火	I 9:00～10:30				周産期看護特論	10/2～12/25、1/8、15	ゼミ10
	II 10:40～12:10				課題研究	10/2～11/20	指導教員に確認してください。
	III 13:00～14:30				課題研究	10/2～11/13	
	IV 14:40～16:10						
	V 16:20～17:50				人的資源管理論	12/11	ゼミ9
	VI 18:00～19:30				人的資源管理論 精神健康行動ケア特論 地域生活看護学Ⅰ(地域高齢者ケアシステム論) 地域生活看護学Ⅲ(認知症ケア論)	10/2、16、30、11/13、27 10/2、16、30、11/13、27、12/11、25、1/15 10/9、23、11/6、20、12/4、18、1/8、22 10/2、16、30、11/13、27、12/11、25、1/15	ゼミ9 ゼミ11 ゼミ13 ゼミ13
	VII 19:40～21:10				人的資源管理論 精神健康行動ケア特論 地域生活看護学Ⅰ(地域高齢者ケアシステム論) 地域生活看護学Ⅲ(認知症ケア論)	10/2、16、30、11/13、27 10/2、16、30、11/13、27、12/11、1/15 10/23、11/6、20、12/4、18、1/8、22 10/2、16、30、11/13、27、12/11、1/15	ゼミ9 ゼミ11 ゼミ13 ゼミ13
水	I 9:00～10:30						
	II 10:40～12:10						
	III 13:00～14:30				看護管理学演習Ⅱ	10/3～17、10/31～11/14、12/5、12	ゼミ9
	IV 14:40～16:10				看護管理学演習Ⅱ	10/3～17、10/31～11/14、12/5	ゼミ9
	V 16:20～17:50						
	VI 18:00～19:30	医療経営学 看護教育方法論	10/3～11/21 10/3、17、31、11/14	サテライト ゼミ9			
	VII 19:40～21:10	医療経営学 看護教育方法論	10/3～11/14 10/3、17、31、11/14	サテライト ゼミ9			
木	I 9:00～10:30						
	II 10:40～12:10				成人急性期看護学演習	10/4、11、25、12/6～27、1/10	ゼミ2
	III 13:00～14:30				急性期機能回復援助論 成人急性期看護学演習	10/18、11/1、15、29、1/17、31、2/14、28 10/4、11、25、12/6～27、1/10、24、2/7、21、3/7、14	ゼミ2 ゼミ2
	IV 14:40～16:10	看護政策論	10/4、11、25、11/8、12/6、13、27、1/10	ゼミ9	急性期機能回復援助論 成人急性期看護学演習 母性看護学演習	10/18、11/1、15、29、1/17、31、2/14 1/24、2/21、3/7、14 10/4～11/18、11/22～12/27、1/10～24	ゼミ2 ゼミ2 ゼミ10
	V 16:20～17:50	看護政策論	10/11、25、11/8、12/6、13、27、1/10	ゼミ9	成人急性期看護学演習 母性看護学演習	1/24、2/21、3/7 10/4～11/18、11/22～12/27、1/10～24	ゼミ2 ゼミ10
	VI 18:00～19:30	看護倫理【必修】 看護研究Ⅱ(質的研究)	10/11、25、11/8、29、12/3、27、1/17、31 10/4、18、11/1、22、12/6、20、1/10、24	ゼミ2 ゼミ16			
	VII 19:40～21:10	看護倫理【必修】 看護研究Ⅱ(質的研究)	10/11、25、11/8、29、12/3、27、1/17 10/4、18、11/1、22、12/6、20、1/10	ゼミ2 ゼミ16			
金	I 9:00～10:30				人的資源管理論	10/26	サテライト
	II 10:40～12:10				人的資源管理論	10/26	サテライト
	III 13:00～14:30				人的資源管理論	10/26	サテライト
	IV 14:40～16:10				人的資源管理論	10/26	サテライト
	V 16:20～17:50						
	VI 18:00～19:30				心身の健康と環境看護論 小児看護学展開理論	10/5、19、11/2、12/14、21、1/4、11、2/8 10/5、12、10/26～11/16、12/21、28	ゼミ11 ゼミ8
	VII 19:40～21:10				心身の健康と環境看護論 小児看護学展開理論	10/5、19、11/2、12/14、21、1/4、11 10/5、12、10/26～11/16、12/21	ゼミ11 ゼミ8
土	I 9:00～10:30	コンサルテーション論	10/6、20、11/10、12/8、22、1/12 11/17	ゼミ16 サテライト			
	II 10:40～12:10	コンサルテーション論	10/6、20、11/10、12/8、15、22、1/12 11/17	ゼミ16 サテライト			
	III 13:00～14:30	赤十字の歴史と国際人道法【必修】	10/6、20、11/10、24、12/15、1/5、26、2/16	ゼミ2			
	IV 14:40～16:10	赤十字の歴史と国際人道法【必修】	10/6、20、11/10、24、12/15、1/5、26	ゼミ2			
	V 16:20～17:50						

【注意】 教員都合により変更となることがあります。詳細は、担当教員へ確認してください。

修士課程
看護学専攻

**Ⅱ 修士課程看護学専攻
専任教員
非常勤講師一覽**

平成30年度 教員一覽《専任教員》

領域・分野	職位	氏名	研究室	メールアドレス	
学長	教授	鎌倉 やよい	管理棟3階 学長室	y-kamakura@rctoyota.ac.jp	
研究科長	教授	山田 聡子	5階 研究室1	s-yamada@rctoyota.ac.jp	
共通	教授	三木 研作	5階 研究室10	k-miki@rctoyota.ac.jp	
	准教授	中島 佳緒里	5階 研究室7	k-nakajima@rctoyota.ac.jp	
専門科目	看護管理学	教授	山田 聡子	5階 研究室1	s-yamada@rctoyota.ac.jp
		教授	小林 洋子	5階 研究室4	y-kobayashi@rctoyota.ac.jp
	成人急性期看護学	教授	東野 督子	6階 研究室13	tokuko@rctoyota.ac.jp
		准教授	石黒 千映子	6階 研究室12	c-ishiguro@rctoyota.ac.jp
		准教授	河相 てる美	6階 研究室19	t-kawai@rctoyota.ac.jp
	母性看護学	教授	野口 眞弓	6階 研究室21	noguchi@rctoyota.ac.jp
		准教授	長田 知恵子	6階 研究室20	c-osada@rctoyota.ac.jp
	小児看護学	教授	大西 文子	6階 研究室16	fonishi@rctoyota.ac.jp
		准教授	岡田 摩理	6階 研究室14	m-okada@rctoyota.ac.jp
	精神看護学	教授	村瀬 智子	7階 研究室23	tmurase@rctoyota.ac.jp
		准教授	原田 真澄	7階 研究室24	m-harada@rctoyota.ac.jp
		講師	大島 泰子	7階 研究室26	y-oshima@rctoyota.ac.jp
	地域生活看護学	教授	長谷川 喜代美	7階 研究室30	k-hasegawa@rctoyota.ac.jp
		教授	小林 尚司	6階 研究室18	namimo@rctoyota.ac.jp
		教授	森田 一三	5階 研究室9	i-morita@rctoyota.ac.jp
		准教授	大谷 喜美江	7階 研究室28	k-otani@rctoyota.ac.jp
	災害看護学	教授	小林 洋子	5階 研究室4	y-kobayashi@rctoyota.ac.jp
		講師	長尾 佳世子	5階 研究室2	k-nagao@rctoyota.ac.jp

平成30年度 オフィスアワー 《専任教員》

領域・分野		職位	氏名	研究室	オフィスアワー	
学長		教授	鎌倉やよい	管理棟3階 学長室	月 12:10～13:00	
研究科長		教授	山田 聡子	5階 研究室1	木 12:10～13:00	
共通		教授	三木 研作	5階 研究室10	金 12:10～13:00	
		准教授	中島佳緒里	5階 研究室7	前期 月・水 12:10～13:00 後期 水 12:10～13:00	
専門科目	看護管理学	教授	山田 聡子	5階 研究室1	木 12:10～13:00	
		教授	小林 洋子	5階 研究室4	月・水～金 12:10～13:00	
	臨床実践看護学	成人急性期看護学	教授	東野 督子	6階 研究室13	木 12:10～13:00
			准教授	石黒千映子	6階 研究室12	木 12:10～13:00
			准教授	河相てる美	6階 研究室19	木 12:10～13:00
	母性看護学	教授	野口 眞弓	6階 研究室21	金 12:10～13:00	
		准教授	長田知恵子	6階 研究室20	金 12:10～13:00	
	小児看護学	教授	大西 文子	6階 研究室16	月～水 12:10～13:00 金 12:10～13:00	
		准教授	岡田 摩理	6階 研究室14	月～水 12:10～13:00 金 12:10～13:00	
	精神看護学	教授	村瀬 智子	7階 研究室23	月～金 12:10～13:00	
		准教授	原田 真澄	7階 研究室24	実習期間中: 金 12:20～12:50 実習期間外: 月～金 12:20～12:50	
		講師	大島 泰子	7階 研究室26	水(実習中を除く) 12:40～13:30	
	地域生活看護学	地域生活看護学	教授	長谷川喜代美	7階 研究室30	実習期間中 水 12:10～13:00 実習期間外 月～金 12:10～13:00
			教授	小林 尚司	6階 研究室18	金 12:10～13:00
			教授	森田 一三	5階 研究室9	月曜日 12:10～13:00、 17:00～18:00
			准教授	大谷喜美江	7階 研究室28	月～金 12:10～13:00 実習期間外 在室時随時対応
	災害看護学	災害看護学	教授	小林 洋子	5階 研究室4	月・水～金 12:10～13:00
			講師	長尾佳世子	5階 研究室2	実習期間中 木 12:10～13:00 実習期間外 月・木・金 12:10～13:00

平成30年度 教員一覧・オフィスアワー《客員教授・非常勤講師》

平成30年度4月1日現在

担当科目	氏名	オフィスアワー
赤十字の歴史と国際人道法	大川 四郎	授業前後に講義教室で質問を受け付けるとともに、 随時（講義開講期間中）、電子メールで質問を受け付ける。
看護倫理	井篁 理江	授業終了後に講義教室で質問を受け付けるとともに、 随時（講義開講期間中）電子メールで質問を受け付ける。
看護社会学	嶋守さやか	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
医療経営学	米本 倉基	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
臨床薬理学	池田 義明	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
臨床薬理学 精神科治療と看護	山田 浩雅	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
ヘルス・アセスメント	山内 豊明	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
コンサルテーション論	井上さよ子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
コンサルテーション論	木全美智代	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
コンサルテーション論	長尾 大地	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
看護管理学特論	片岡笑美子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
人的資源管理論	勝原裕美子	授業開始前に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護特論 周産期看護高度実践演習	久野 尚彦	授業終了後に講義教室で質問を受け付けるとともに、 随時（講義開講期間中）電子メールで質問を受け付ける。
周産期看護特論 周産期看護高度実践演習	鬼頭 修	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護特論 周産期看護高度実践演習 周産期看護管理演習 周産期看護事例検討演習	真野真紀子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護特論 周産期看護高度実践演習 周産期看護管理演習 周産期看護事例検討演習	平岩 美緒	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護援助方法論演習	早瀬麻観子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護援助方法論演習	立松 あき	随時（講義開催期間中）電子メールで質問を受け付ける。
周産期看護特論 周産期看護高度実践演習 周産期看護事例検討演習	鈴木美哉子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
周産期看護管理演習	山口みちる	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
小児 CNS 機能と役割演習	江見たか江	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
小児 CNS 機能と役割演習	後藤 芳充	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
小児看護学評価方法論 小児 CNS 機能と役割演習	太田 有美	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
小児 CNS 機能と役割演習	田崎あゆみ	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
小児 CNS 機能と役割演習	深谷 基裕	随時（講義開催期間中）電子メールで質問を受け付ける。
小児看護支援論	山崎 嘉久	随時（講義開講期間中）、電子メールで質問を受け付ける。
精神健康行動評価論 精神健康行動ケア特論 精神看護援助方法の開発演習	服部 希恵	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
精神健康行動ケア特論	牛山喜久恵	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
精神科治療と看護 メンタルヘルスと司法看護学	加藤 明美	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
精神科治療と看護 精神科治療と看護演習	客員教授 平野 千晶	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
災害看護学概論 災害と法律・制度 災害看護学対象論	花木 芳洋	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
災害と法律・制度	山崎 栄一	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。
災害看護学援助論 災害看護学演習Ⅱ	小原真理子	授業終了後に講義教室で質問を受け付ける。

Ⅲ 修士課程看護学専攻 教育課程

平成 29・30 年度入学生 教育課程

修士課程
教育課程

領域	分野	授業科目	形態：単位数（時間数）			履修及び修了要件	履修方法						
			講義	演習	実習		1年生	2年生	①	②	③	④	
共通科目	必修共通科目	看護理論	2	(30)		各領域分野共通 8 単位	2						
		看護研究 I（量的研究）	2	(30)			2						
		看護倫理	2	(30)				2					
		赤十字の歴史と国際人道法	2	(30)				2					
	選択共通科目	看護社会学	2	(30)		(研究・教育者コース) 選択共通科目または領域・分野以外の講義科目から 10 単位以上ただし、看護管理学分野は選択共通科目ま たは領域・分野以外の講義科目から「医療経営学」、「看 護政策論」を含み 12 単位以上、精神看護学分野・災 害看護学分野は、選択共通科目または領域・分野以外 の講義科目から 6 単位以上 (専門看護師コース) 「コンサルテーション論」、「看護管理学特論」、「看護 政策論」、「看護教育原論」、「看護教育方法論」の中か ら 4 単位以上	2						
		医療経営学	2	(30)			2						
		病態生理学	2	(30)			2						
		臨床薬理学	2	(30)			2						
		ヘルス・アセスメント	2	(30)			2						
		統計学	2	(30)			2						
		看護研究 II（質的研究）	2	(30)			2						
		コンサルテーション論	2	(30)			2						
		看護政策論	2	(30)			2						
		看護教育原論	1	(15)			1						
看護教育方法論	1	(15)		1									
看護管理学	看護管理学	看護管理学特論	2	(30)		分野必修 6 単位	2						
		人的資源管理論	2	(30)			2						
		看護管理学演習 I		1	(30)		1						
		看護管理学演習 II		1	(30)		1						
	成人急性期看護学	周手術期看護論	2	(30)		分野必修 8 単位	2						
		感染予防看護論	2	(30)			2						
		急性期機能回復援助論	2	(30)			2						
		成人急性期看護学演習		2	(60)		2						
		母性看護学特論 ※※	2	(30)			2						
		母性看護学援助特論 ※※	2	(30)			2						
		産褥期看護学特論 ※※	2	(30)			2						
		母性看護学演習 *		2	(60)		2						
		産褥期看護学援助方法論演習 ※		1	(30)		1						
		産褥期看護学高度実践演習 ※		2	(60)		2						
産褥期看護学管理演習 ※		1	(30)	1									
産褥期看護事例検討演習 ※		2	(60)	2			2						
産褥期看護管理実習 ※			2	(90)	2								
産褥期看護学高度実践実習 ※			4	(180)				4					
小児看護学	小児看護学成長発達論 I ※※	2	(30)		分野 (研究・教育者コース) 必修 8 単位 ※科目 (専門看護師コース) 必修 20 単位 ※科目	2							
	小児看護学成長発達論 II ※※	2	(30)			2							
	小児看護学展開理論 ※※	2	(30)			2							
	小児看護学評価方法論 ※	2	(30)			2							
	小児看護学演習 ※		2	(60)		2							
	小児 CNS 機能と役割演習 ※		2	(60)		2							
	小児看護支援論 ※※	2	(30)			2							
	小児 CNS 機能と役割実習 ※			2		(90)			2				
	小児看護学高度実践実習 ※			4		(180)				4			
	精神看護学	精神保健医療論 ※※	2	(30)			分野 (研究・教育者コース) 必修 6 単位 ※科目、選択 6 単位以上 (専門看護師コース) 必修 20 単位以上 ※科目	2					
精神健康行動評価論 ※		2	(30)		2								
精神健康行動ケア特論 ※※		2	(30)		2								
精神科治療と看護 ※※		2	(30)		2								
心身の健康と環境看護論		2	(30)		2								
精神看護学教育論		2	(30)			2							
精神看護学原論		1	(15)			1							
メンタルヘルスと司法看護学		2	(30)			2							
精神科治療と看護演習 ※			2	(60)	2								
精神健康行動評価演習 ※			2	(60)	2								
精神看護学援助方法の開発演習 ※			2	(60)	2								
精神 CNS 機能と役割実習 ※				2	(90)	2							
精神看護学高度実践実習 ※				4	(180)					4			
地域生活看護学		地域生活看護学特論	2	(30)		分野 地域生活看護学特論・地域生活看護学演習 I・II を含 む 8 単位以上		2					
	地域保健統計学	2	(30)		2								
	地域生活看護学 I（地域高齢者ケアシステム論）	2	(30)		2								
	地域生活看護学 II（高齢者療養看護論）	2	(30)		2								
	地域生活看護学 III（認知症ケア論）	2	(30)		2								
	地域生活看護学演習 I		1	(30)	1								
	地域生活看護学演習 II		1	(30)	1								
災害看護学	災害看護学概論 *	2	(30)		分野必修 12 単位以上 ※科目	2							
	災害と法律・制度	2	(30)			2							
	災害看護学対象論 *	2	(30)			2							
	災害看護学援助論 *	2	(30)			2							
	災害看護学教育・管理論 *	2	(30)			2							
	災害看護学演習 I *		1	(30)		1							
	災害看護学演習 II *		1	(30)		1							
	災害看護学演習 III		1	(30)		1			1				
	災害看護学演習 IV *		1	(30)		1							
	災害看護学実習 I *			1		(45)				1			
	災害看護学実習 II			1		(45)				1			
研究	課題研究		2	(60)	専門看護師コース必修 2 単位					2			
	特別研究		6	(180)	研究・教育者コース必修 6 単位					6			
修了要件						研究・教育者コース 32 単位以上 母性看護学専門看護師コース 32 単位以上 小児看護学・精神看護学専門看護師コース 34 単位以上							

※日本赤十字豊田看護大学大学院学則 別表 1 をより分かりやすく記載しております。

平成 27・28 年度入学生 教育課程

修士課程
教育課程

領域	分野	授業科目	形態：単位数（時間数）			履修及び修了要件	履修方法				
			講義	演習	実習		1 年生		2 年生		
							①	②	③	④	
共通科目	必修共通科目	看護理論	2 (30)			各領域 分野共通 8 単位	2				
		看護研究 I（量的研究）	2 (30)				2				
		看護倫理	2 (30)					2			
		赤十字と看護の歴史	2 (30)					2			
	選択共通科目	看護社会学	2 (30)			(研究・教育者コース) 選択共通科目または領域・分野 以外の講義科目から10 単位以上 ただし、精神看護学分野、災害 看護学分野は、選択共通科目ま たは領域・分野以外の講義科目 から6 単位以上 (専門看護師コース) コンサルテーション論・看護人 的資源活用論・看護政策論・看 護教育原論・看護教育方法論の 中から4 単位以上	2				
		医療経営学	2 (30)					2			
		国際人道法	2 (30)					2			
		病態生理学	2 (30)					2			
		臨床薬理学	2 (30)					2			
		ヘルス・アセスメント	2 (30)						2		
		統計学	2 (30)					2			
		看護研究 II（質的研究）	2 (30)						2		
		コンサルテーション論	2 (30)						2		
		看護師の感情管理	2 (30)						2		
		看護政策論	2 (30)						2		
		看護教育原論	1(15)					1			
		看護教育方法論	1(15)						1		
		専門科目	看護管理学	看護人的資源活用論	2 (30)				分野 必修 8 単位	2	
危機管理	2 (30)					2					
看護情報論と評価	2 (30)						2				
看護管理学演習 I				1 (30)		1					
看護管理学演習 II				1 (30)			1				
成人急性期看護学	周手術期看護論		2 (30)			分野 必修 8 単位	2				
	感染予防看護論		2 (30)				2				
	急性期機能回復援助論		2 (30)					2			
	成人急性期看護学演習			2 (60)				2			
	母性看護学特論 ※※		2 (30)					2			
	母性看護学援助特論 ※※		2 (30)					2			
	周産期看護特論 ※※		2 (30)					2			
	母性看護学演習 *			2 (60)				2			
	周産期看護援助方法論演習 ※			1 (30)				1			
	周産期看護高度実践演習 ※			2 (60)				2			
小児看護学	周産期看護管理演習 ※			1 (30)		(研究・教育者コース) 必修 8 単位 ※科目 (専門看護師コース) 必修 18 単位 ※科目				2	
	周産期看護事例検討演習 ※			2 (60)							
	周産期看護管理実習 ※				2 (90)						2
	周産期看護高度実践実習 ※			4 (180)						4	
	小児看護学成長発達論 I ※※	2 (30)			分野 (研究・教育者コース) 必修 8 単位 ※科目 (専門看護師コース) 必修 20 単位 ※科目		2				
	小児看護学成長発達論 II ※※	2 (30)					2				
	小児看護学展開理論 ※※	2 (30)						2			
	小児看護学評価方法論 ※	2 (30)						2			
	小児看護学演習 ※		2 (60)					2			
	小児 CNS 機能と役割演習 ※		2 (60)					2			
小児看護支援論 ※※	2 (30)					2					
小児 CNS 機能と役割実習 ※			2 (90)					2			
小児看護高度実践実習 ※			4 (180)						4		
精神看護学	精神保健医療論 ※※	2 (30)				分野 (研究・教育者コース) 必修 6 単位 ※科目、 選択 6 単位以上 (専門看護師コース) 必修 20 単位以上 ※科目	2				
	精神健康行動評価論 ※	2 (30)			2						
	精神健康行動ケア特論 ※※	2 (30)					2				
	精神科治療と看護 ※※	2 (30)					2				
	心身の健康と環境看護論	2 (30)					2				
	精神看護学教育論	2 (30)						2			
	精神看護学原論	1(15)							1		
	メンタルヘルスと司法看護学	2 (30)							2		
	精神科治療と看護演習 ※		2 (60)					2			
	精神健康行動評価演習 ※		2 (60)						2		
	精神看護援助方法の開発演習 ※		2 (60)						2		
	精神 CNS 機能と役割実習 ※			2 (90)					2		
	精神看護学高度実践実習 ※			4 (180)						4	
地域生活看護学	地域生活看護学特論	2 (30)			分野 地域生活看護学特論・地域生活 看護学演習 I・II を含む 8 単位 以上	2					
	地域保健統計学	2 (30)					2				
	地域生活看護学 I（地域高齢者ケアシステム論）	2 (30)					2				
	地域生活看護学 II（高齢者療養看護論）	2 (30)					2				
	地域生活看護学 III（認知症ケア論）	2 (30)						2			
	地域生活看護学演習 I		1 (30)				1				
	地域生活看護学演習 II		1 (30)					1			
災害看護学	災害看護学概論 *	2 (30)			分野 必修 12 単位以上 ※科目	2					
	災害と法律・制度	2 (30)				2					
	災害看護学対象論 *	2 (30)				2					
	災害看護学援助論 *	2 (30)				2					
	災害看護学教育・管理論 *	2 (30)					2				
	災害看護学演習 I *		1 (30)					1			
	災害看護学演習 II *		1 (30)					1			
	災害看護学演習 III		1 (30)						1		
	災害看護学演習 IV *		1 (30)					1			
	災害看護学実習 I *			1 (45)					1		
	災害看護学実習 II			1 (45)					1		
	研究	課題研究		2 (60)			専門看護師コース必修 2 単位				2
特別研究			6 (180)		研究・教育者コース必修 6 単位				6		
修了要件						研究・教育者コース 32 単位以上 母性看護学専門看護師コース 32 単位以上 小児看護学・精神看護学専門看護師コース 34 単位以上					

※日本赤十字豊田看護大学大学院学則 別表 1 をより分かりやすく記載しております。

IV 修士課程看護学専攻 シラバス

必修共通科目

看護理論

(共通科目／必修共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	必修	30

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護知識体系の構造とその意義を理解し、より科学的で良質な看護実践ができるようモデルや理論を活用できること、及びより臨床志向の実践的な理論構築の目を培うことをめざす。

【到達目標】

1. 看護知識体系の構造とその意義を説明できる。
2. 看護概念モデルを選択し、そのモデルについて概要を説明できる。
3. 選択した看護概念モデルまたは理論を事例に適用できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	看護知識の体系化とその意義、理論と理論の範囲	村瀬 智子
2・3	看護モデル・理論開発の系譜	村瀬 智子
4	主要な看護モデルと理論の特徴と適用 1. 生活統合モデル概説とそれに基づく実践事例の発表と質疑	村瀬 智子
5	2. ヘンダーソン看護論	村瀬 智子
6	3. オレム看護論	村瀬 智子
7	4. ロジャーズ看護論	村瀬 智子
8	5. ロイ看護適応モデル	村瀬 智子
9	6. ペプロー対人関係理論	村瀬 智子
10	7. M. ニューマン健康理論	村瀬 智子
11	8. レイニンガー文化的ケア 2～8についても1と同様に各看護論の概説と事例適用について学生の 選択学習による発表と、質疑・検討を行う	村瀬 智子
12	中範囲理論としての役割理論の概説と看護実践へのモデル適用事例の検討	村瀬 智子
13	小範囲理論としての看護診断モデルの検討	村瀬 智子
14	理論の研究への活用：調査票作成	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

III 授業方法

講義、演習

IV 時間外学習

看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として成り立っています。それらを含めて看護理論を理解するためには、理論書を読むことが必要です。そのため、理論の概要を理解するだけでも、予習・復習を含めて1講義につき2週間程度の時間外学習は必要になります。

V 教科書

『看護理論家の業績と理論評価』 筒井真優美編 医学書院 2015 [N01/Ts93]

VI 参考図書

『看護理論家とその業績』 第3版 A.M.トメイ& M.R.アリグット編著 都留伸子監訳 医学書院 2004 [N01/Ma52/3rd]

『フォーセット 看護理論の分析と評価』 新訂版 J.フォーセット著 太田喜久子、筒井真優美監訳 医学書院 2008 [N01/F16]

『看護における理論構築の方法』 L.O.Walker & K.C.Avant 著 中木高夫、川崎修一訳 医学書院 2008 [N01/W38]

『看護診断のためのよくわかる中範囲理論』 第2版 黒田裕子監修 学研 2015 [N01/Ku72/2nd]

Ⅶ 評価方法

課題レポート (40%)、プレゼンテーション (20%)、グループワーク (20%)、課題の提出 (10%)、受講態度 (10%)

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

看護研究Ⅰ（量的研究）

（共通科目／必修共通科目）

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	必修	30

担当教員

野口 眞弓、森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護研究の重要性とその意義、研究倫理、研究課題の明確化、文献検討、研究計画書の作成など看護実践や教育の場で共通して活用できる看護研究の基礎的知識を深める。

【到達目標】

データ収集方法、臨床現場でどのようにエビデンスを使い（研究結果の応用）、エビデンスを作って（看護実践への有用性や適応の開発）いくのかに焦点をあて、質的研究・量的研究に必要な技術・知識の基礎を習得する。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	看護研究とは何か、看護研究の重要性とその意義 看護研究の倫理と研究結果の応用	野口 眞弓
2	研究課題の明確化と絞り込み作業 研究の仮説と前提、研究計画書	野口 眞弓
3	文献検討の意義とその方法（医学文献データベースの利用法）	野口 眞弓
4	EBMとEBN、エビデンスを使う、エビデンスを作る	野口 眞弓
5	概念枠組みと理論の役割	野口 眞弓
6	研究デザインⅠ：実験研究、質的研究	野口 眞弓
7	質的研究と量的研究の相違とそれぞれの強み、 Mixed Method について	野口 眞弓
8	研究デザインⅡ：量的研究 母集団と標本	森田 一三
9	標本抽出（無作為抽出、有意抽出）	森田 一三
10	調査方法Ⅰ（訪問面接法、集団記法、配布回収法、その他）	森田 一三
11	調査方法Ⅱ（郵送法、電話法、インターネット、その他）	森田 一三
12	質問紙の作成（ワーディング）	森田 一三
13	尺度開発Ⅰ（信頼性）	森田 一三
14	尺度開発Ⅱ（妥当性）	森田 一三
15	まとめ	野口・森田

III 授業方法

第1回～第14回：講義・討論、第15回：講義・討論

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。（適宜）

V 教科書

『看護研究原理と方法』第2版 D.F. ポーリット、C.T. ベック著 近藤潤子監訳 2010〔N07/P76/2nd〕

VI 参考図書

『黒田裕子の看護研究 Step by Step』第5版 黒田裕子著 医学書院 2017〔N07/Ku72/5th〕
その他、適宜紹介する。

VII 評価方法

参加の状況（20％）プレゼンテーション（60％）レポート（20％）により総合評価する。

VII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

VIII その他

特になし

看護倫理

(共通科目／必修共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	必修	30

担当教員

小林 洋子、井篁 理江

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

今日の看護倫理の潮流から、その考え方や利点・欠点を理解する。その上で看護実践・研究・教育における今日の原則や概念を知る。さらに現場で遭遇する倫理的問題やジレンマ事例について検討することにより、問題またはジレンマ解決力や倫理的感觉を培う。

【到達目標】

1. 看護倫理に関する様々な考えとそれらの利点・欠点を説明できる。
2. 看護実践・研究・教育における倫理原則や概念を説明できる。
3. 看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例を検討方略を使って検討できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	現代の看護倫理：原則主義	小林 洋子
2	現代の看護倫理：ナラティブ	小林 洋子
3	現代の看護倫理：ケアリング、フェミニズム倫理学	小林 洋子
4	倫理原則と看護倫理概念	小林 洋子
5	専門職能団体と看護倫理綱領 1. ICN	小林 洋子
6	専門職能団体と看護倫理綱領 2. 日本看護協会	小林 洋子
7	看護実践の場によくみられる倫理的問題	小林 洋子
8	看護実践の場における倫理的問題と検討方略	小林 洋子
9	看護実践に伴う倫理的ジレンマ事例の検討（閉鎖的な環境におかれた精神科事例）	井篁 理江
10	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：緩和医療の場合	小林 洋子
11	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：DNR 指示	小林 洋子
12	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：医療者のパターンリズム	小林 洋子
13	看護実践に伴う倫理的ジレンマ：患者と家族の意見の違い	小林 洋子
14	看護研究・教育における倫理	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回～第2回：講義、第3回～第15回：発表・討議・講義

IV 時間外学習

授業参加の準備、復習、およびプレゼンテーションの準備を行い、理解を深める。（適宜）

V 教科書

『看護倫理学－看護実践における倫理的基盤－』 松木光子著 ヌーヴェルヒロカワ 2010 [N01.1/Ma78]

VI 参考図書

『臨床倫理ベーシックレッスン』 石垣靖子、清水哲郎 日本看護協会出版会 2012 [N0.1.1/I73]

『看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド』 第3版 サラ.T.フライ著 片田範子、山本あい子訳 日本看護協会出版会 2010 [N01.1/F89/3rd]

『看護者の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理』 2017年版 日本看護協会編 日本看護協会出版会 2017 [N62/ka54/17]

『臨床倫理学』 第5版 Jonsen 他 赤林朗他訳 新興医学出版社 2006 [490.15/J72/5th]

『看護倫理のための意思決定 10のステップ』 Thompson, J.E., Tohmppson, H.O.

ケイコ・イマイ・キシ監訳 日本看護協会出版会 2004 [N01.1/Th6]

Ⅶ 評価方法

レポート（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業への参加（10%）を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

赤十字の歴史と国際人道法

(共通科目／必修共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	必修	30

担当教員

大川 四郎

I 授業目的及び到達目標

【授業目標】

赤十字と国際人道法は、アンリ・デュナンが『ソルフェリーノの思い出』で提案したことをもとにしており、ほぼ同時期に発生し、以降、相互に影響を与えながら発展してきた。赤十字の歴史は、国際人道法と密接につながっている。

この講義では、赤十字の歴史を明らかにし、あわせて、赤十字の活動を支えてきた国際人道法に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、赤十字における看護師教育および看護師の活動の歴史的展開と、国際人道法に規定される看護師をはじめとした救護員の役割について理解する。

【到達目標】

1. 赤十字の歴史について、赤十字史料を実際に読みながら、理解することができる。
2. 赤十字の活動の基盤となる国際人道法について理解することができる。
3. 歴史的・法的な観点から赤十字における看護活動について理解することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	はじめに：赤十字活動と看護従事者	大川 四郎
2	赤十字国際委員会の創設：夢想家アンリ・デュナンと実務家ギュスターヴ・モワニエの相克	大川 四郎
3	博愛社の創設：パリ・ウィーン両万博における佐野常民と赤十字パビリオンとの出会い、岩倉使節団に対するスイス側からのはたらきかけ	大川 四郎
4	日本赤十字社の活動の変遷：日本政府によるジュネーヴ条約調印・批准、博愛社から日本赤十字社への改組	大川 四郎
5	日本赤十字社における看護婦の活動：救護看護婦養成の開始とその根本方針	大川 四郎
6	日本赤十字社における戦時活動（1）：日清戦争、日露戦争	大川 四郎
7	日本赤十字社における平時の活動：衛生思想の普及、災害救護活動	大川 四郎
8	日本赤十字社における戦時活動（2）：第1次世界大戦、第2次世界大戦	大川 四郎
9	国際人道法の成立と基本的事項：両大戦の経験から1949年のジュネーヴ条約大改正	大川 四郎
10	国際人道法の適用状況：国家間の紛争から地域紛争、内戦へも適用範囲を拡大	大川 四郎
11	国際人道法の保護対象：戦闘員から文民・内戦犠牲者へ保護対象を拡大（第一追加議定書、第二追加議定書）	大川 四郎
12	赤十字の救護活動と国際人道法：ジャン・ピクテと赤十字基本原則	大川 四郎
13	医療職と国際人道法：有事関連法下での医療従事者の保護	大川 四郎
14	赤十字標章：様々な標章から赤十字標章、赤新月標章、赤の水晶標章、そして「赤のクリスタル標章」（2005年）へ	大川 四郎
15	おわりに：看護従事者は赤十字活動とどのように連携していくべきか	大川 四郎

III 授業方法

講義形態で進める。

IV 時間外学習

事前に指定した箇所を教科書で読んでおいてほしい。

赤十字、国際人道法に関する内外の報道に日頃から関心を払ってほしい。

V 教科書

『戦争と国際人道法 - その歴史と赤十字のあゆみ』 井上忠男著 東信堂 2015年 [R0.12/I57]

VI 参考図書

- 『新版 国際人道法』 藤田久一著 有信堂 2003年〔R0.12/F67〕
- 『日本赤十字社と人道援助』 黒沢文貴、河合利修共編 東京大学出版会 2009年〔R1.02/Ku76〕
- 『新版 世界と日本の赤十字－世界最大の人道機関の活動』 榎居孝、森正尚共著 東信堂 2014年〔R0.7/Ma67〕
- 『赤十字標章の歴史－“人道のシンボル”をめぐる国家の攻防』 フランソワ・ブニヨン著 井上忠男訳 東信堂 2012年〔R0.11/B85〕
- 『戦争と人道支援－戦争の被災をめぐる人道の政治』 上野友也著 東北大学出版会 2012年〔319/Ka37〕
- 『戦争と看護婦』 川嶋みどり、川原由香里、山崎裕二、吉川龍子共著 図書刊行会 2016年〔N02.9/Ka84〕
- 『解説 赤十字の基本原則－人道機関の理念と行動規範』 第2版 ジャン・ピクテ著 井上忠男訳 東信堂 2010年〔R0.1/P65/2nd〕
- From Solferino to Tsoushima - History of the International Committee of the Red Cross, vol.1, by Boissier (pierre), Henry Dunant Institut, Geneva, 1985〔R02/H76/1〕
- From Sarajevo to Hiroshima - History of the International Committee of the Red Cross, vol.2, by Durand (Andre), Henry Dunant Institut, Geneva, 1984〔R02/H76/2〕

VII 評価方法

レポート (80%)、平常点 (20%)。

VIII フィードバック

授業内あるいは授業後の学生からの質問をも、平常点として評価する。
レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

IX その他

なし。

選択共通科目

看護社会学

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

嶋守 さやか

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

現代の社会学理論や哲学（現象学）の中から代表的な理論をいくつか取り上げ、人間存在のあり方や人間関係のとらえ方を探求する。具体的には、社会学理論や哲学にみられる基本的な概念や論理のあり方、人間存在論、他者関係論を検討し、医療に関わる研究領域の中から、いくつかの主要な論点を取り上げ考察する。

【到達目標】

1. 現代の社会学理論や哲学（現象学）にみられる人間存在のあり方や人間関係のとらえかたにかかわる諸論点が理解できる。
2. 病と医療に関わる自身の研究領域において、社会学的な論点から考察することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション	嶋守 さやか
2	映像資料による演習——記録と記憶	嶋守 さやか
3	社会学史概説——コントからパーソンズまで	嶋守 さやか
4	デュルケム —— 「もの」としての社会	嶋守 さやか
5	パーソンズ① —— システムという考え方（秩序による秩序）	嶋守 さやか
6	パーソンズ② —— 社会システムのクラスター分析	嶋守 さやか
7	パーソンズ③ —— 神への回帰（逃れられない循環）	嶋守 さやか
8	ウェーバー① —— 社会は意味を欠いている	嶋守 さやか
9	ウェーバー② —— 資本主義の精神	嶋守 さやか
10	ウェーバー③ —— 実在根拠と認識根拠	嶋守 さやか
11	カント① —— 思惟物としての先験的理念	嶋守 さやか
12	カント② —— 社会は対象としてない	嶋守 さやか
13	ヘーゲル① —— 存在と無と生成	嶋守 さやか
14	ヘーゲル② —— 無限判断	嶋守 さやか
15	まとめ	嶋守 さやか

III 授業方法

講義

IV 時間外学習

授業中に適宜指示する。主に、その時限の講義テーマにまつわる社会現象についての調査を行なう課題を提示する。（適宜）

V 教科書

『社会の実存と存在：汝を傷つけた槍だけが汝の傷を癒す』 柿本昭人、嶋守さやか 世界思想社 1998 [361/Ka25]

VI 参考図書

授業中に適宜指示する。

VII 評価方法

提出されたレポート、授業中のプレゼンテーション（40%）およびテスト（60%）評点により総合評価する。

VIII フィードバック

提出レポートに採点して返却する。

IX その他

なし

医療経営学

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

米本 倉基

I 授業目的と到達目標

【授業目的】

近年、DPC制度など医療経営環境の変化の加速が著しい。本講義ではその医療政策の動向をふまえて、病院において質の高い医療サービスをより効率的に安定して供給できるマネジメントの在り方を経営学の体系に沿って学ぶ。同時に、今日、病院で導入され成果を得ている具体的事例を解説しつつ、その成功の鍵と課題について検討し、マネジメント・リーダーとしての実践力を養う。

【到達目標】

1. 医療経営を体系的に理解できる。
2. 医療機関の経営課題を分析できる。
3. 経営課題に対する現代的解決施策を理解している。
4. 改善実施時の留意点に配慮できる。
5. 医療経営・政策研究の枠組みが理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	イントロダクション 医療経営の全体像	米本 倉基
2	医療経済学と医療経営学	米本 倉基
3	我が国の医療システム	米本 倉基
4	DPC時代の病院経営	米本 倉基
5	病院経営の基本戦略	米本 倉基
6	病院の財務・会計	米本 倉基
7	病院の運営	米本 倉基
8	医療マーケティング	米本 倉基
9	病院の組織と人的資源管理	米本 倉基
10	病院のリスクマネジメント	米本 倉基
11	医療と社会のコンフリクト・マネジメント	米本 倉基
12	医療従事者のキャリア・マネジメント	米本 倉基
13	医療従事者のメンタル・ヘルス	米本 倉基
14	医療政策の動向とマネジメント	米本 倉基
15	まとめ	米本 倉基

III 授業方法

スライドを映写し解説する講義形式を中心とし、テーマごとに双方向ディスカッションを加える。

IV 時間外学習

毎回のテーマごとに、実際の医療機関のなかでマネジメント課題を発見し、それに対して経営諸理論がどう適応できるか考え、講義中に自分の意見として発言できるようにすること。(適宜)

V 教科書

毎回プリントを配布

VI 参考図書

『入門医療政策』 真野俊樹 中公新書 2012 [080/C64/2177]

VII 評価方法

授業内(発言内容と発表)評価 50%、授業内での口述試験 50% の総合評価。

Ⅷ フィードバック

授業内で学生に課題に関するプレゼンテーションをしてもらい、その場でコメントをフィードバックする。

Ⅸ その他

特になし

病態生理学

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

三木 研作、石黒 千映子、河相 てる美、鎌倉 やよい

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

病態生理学は、解剖学や生理学などで学習する正常な構造や機能を基礎に、正常な機構の破綻により発生した各種疾患の成り立ちについて学習する学問である。病態生理を学ぶことによって、多種多様な疾患の理解につながり、症状、症候をはじめとした臨床情報に基づいてなされるアセスメントの基本を学ぶことができる。

【到達目標】

1. 病態生理学的な考え方を学ぶことができる。
2. その上で、各臓器、器官系、あるいは全身にまたがる様々な疾患の大枠を理解することができる。
3. さまざまな疾患の病態の理解をもとに、臨床情報から診断に至る過程を理解することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1～3	脳神経に関する解剖生理とその疾患・病態推論	三木 研作
4～5	肝臓・胆嚢・膵臓に関する解剖生理とその疾患・病態推論	三木 研作
6～7	呼吸器に関する解剖生理とその疾患・病態推論	三木 研作
8～10	事例検討：循環器系疾患に関する病態推論	三木・河相
11～13	事例検討：内分泌・代謝系疾患に関する病態推論	三木・石黒
14・15	事例検討：消化器系疾患に関する病態推論	三木・鎌倉

III 授業方法

講義・演習（内容ごとに、1回目には教員が講義を行い、2又は3回目には受講生がプレゼンテーションを担当し主に病態について討議を行う。担当は開講後に指示する。）

IV 時間外学習

受講に当たっては、参考図書等を紐解き、病態生理学で扱う内容の概要を把握する。これまでの学習の中で興味や疑問を持った内容を解決しようとする姿勢が重要である。復習は、授業の内容を成書で確認し、研究や臨床、実践の中で生かせる知識とする。予習・復習は講義ごと各1時間程度とする。

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

『症状の基礎からわかる病態生理』 第2版 松尾理監訳 メディカルサイエンスインターナショナル [491.6/Si4/2nd]

『一目でわかる病態生理』 松野一彦 メディカルサイエンスインターナショナル [491.6/Ma83]
そのほか適宜紹介する。

VII 評価方法

受講態度 30点、レポート 70点

VIII フィードバック

プレゼンテーション・討議に対してその場でフィードバックする。

IX その他

なし

臨床薬理学

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

池田 義明、山田 浩雅

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践看護師として薬物療法に貢献するために、薬物の働きを体系的に学習する。また、医療チームの一員として治療計画の立案や見直し、患者やその家族との相談や指導など一連のプロセスに貢献するために、主要疾患の薬物療法の概要と使用する薬剤の作用・副作用等を理解する

【到達目標】

1. 薬理学の基礎知識や薬物の体内動態を説明することができる。
2. 主要疾患の薬物療法の概要を説明することができる。
3. 使用する薬剤の作用・副作用等を説明することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	第1章：総論 薬理学の概念	池田 義明
2	第1章：総論 小児・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の管理	池田 義明
3	第2章：末梢神経作用薬 自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	池田 義明
4	第3章：中枢神経作用薬 麻酔、疼痛、不眠症、神経症、気分障害	池田 義明
5	第3章：中枢神経作用薬 統合失調症、癲癇、パーキンソン病、認知症	池田 義明
6	第4章：心臓血管作用薬 抗高血圧薬、心臓作用薬、輸液・腎臓作用薬、血液・造血器系作用薬	池田 義明
7	第5章：抗炎症薬	池田 義明
8	第6章：呼吸器系作用薬	池田 義明
9	第7章：消化器系作用薬	池田 義明
10	第8章：ホルモン系・生殖器系作用薬	池田 義明
11	第9章：抗感染症薬	池田 義明
12	第10章：抗悪性腫瘍薬 第11章：漢方薬	池田 義明
13	薬物治療と高度実践看護の役割	山田 浩雅
14	神経精神疾患治療薬	山田 浩雅
15	臨床薬理学関連の研究課題報告（プレゼンテーション）	池田 義明

III 授業方法

第1回～第14回：講義、第15回：発表

IV 時間外学習

授業後は、わからないことはそのままにせず、調べたり聞いたりして理解を深める。(適宜)

V 教科書

『わかりやすい薬理学』 第3版 安原一、小口勝司編 ニューヴェルヒロカワ [491.5/Y64/3rd]

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『薬がみえる vol.1～vol.3』 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア [492/Ku93/1,2,3]

VII 評価方法

研究課題報告書 (50%)、プレゼンテーション (30%)、受講態度 (20%) を合算する。

VIII フィードバック

授業前後における疑問や質問は次回講義までにハンドアウトを作成してフィードバックする。

IX その他

なし

ヘルス・アセスメント

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

中島 佳緒里、大西 文子、小林 尚司、山内 豊明

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。

【到達目標】

- ヘルス・アセスメントの定義について理解できる。
- 形態機能学ならびに病態生理学の知識に基づいたフィジカル・アセスメント (Physical Assessment) を実施できる。
- 心理社会面として精神状態のアセスメント (MSE : Mental Status Examination) を含む心理社会的アセスメントを実施できる。
- 対象をライフスパンの中で幅広く捉え、高度な包括的アセスメントに基づいて、健康上の問題を説明できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス 看護師によるヘルス・アセスメントと臨床推論 心理社会的アセスメント (MSE)	中島 佳緒里
フィジカル・アセスメント I :		
2	全身状態の把握、栄養評価、生殖器 (乳房) の診査	中島 佳緒里
3	脳神経系・医療診察器具の使用法	中島 佳緒里
フィジカル・アセスメント II		
4	症状・徴候からのアセスメント	山内 豊明
5	呼吸器系—胸部	山内 豊明
6	呼吸器系—呼吸音	山内 豊明
7	循環器系—心音	山内 豊明
8	循環器系—末梢血管	山内 豊明
9	消化器系—腹部	山内 豊明
10	消化器系—食物摂取と感覚系	山内 豊明
11	運動器系—筋骨格、運動に関わる神経	中島 佳緒里
小児・高齢者のフィジカル・アセスメント		
12	小児のフィジカル・アセスメント時のポイントと成人との違い	大西 文子
13	小児のフィジカル・アセスメントの実際	大西 文子
14	高齢者のフィジカル・アセスメント 老化および環境の影響	小林 尚司
15	症例検討	中島 佳緒里

III 授業方法

講義と演習

講義：第1回、第2回、第5回～12回、第14回

演習・討議：第3回、第13回、第15回

IV 時間外学習

授業への参加準備、関連文献を読む。(適宜)

診査内容・項目に関連した形態機能学の知識、代表的な疾患を確認する。(1時間程度)

診査結果に基づく臨床推論の思考過程を復習する。(30分程度)

V 教科書

『実践！フィジカル・アセスメント』 小野田千枝子監修 高橋照子、芳賀佐和子、佐藤富美子編集
金原出版 2008 [N10.12/O67/3rd]

『フィジカルアセスメントガイドブック』 山内豊明著 医学書院 2011 [N10.12/Y46/2nd]

VI 参考図書

『フィジカルアセスメントがみえる』 熊谷たまき他監修 メディックメディア 2015 [N10.12/I67]

『ベイツ診察法』 第2版 福井次矢、井部俊子監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル
2015 [492.11/B41/2nd]

Jarvis, C : 『Physical examination & health assessment』 (7th ed.), Saunders. 2015 [N10.12/J25/7th]

『NANDA-I 看護診断 定義と分類』 T.ヘザー・ハードマン編 医学書院 2012 [N74.1/N48/15-17]

『こどものフィジカル・アセスメント』 小野田千枝子監修 土井まつ子、椛山委都子、仲井美由紀編集
金原出版 2001 [N12/O67]

『フィジカルアセスメント ワークブック』 山内豊明著 医学書院 2014 [N10.12/Y46]

『見る・聴く・触るを極める！山内先生のフィジカルアセスメント 技術編』 山内豊明著 エスエムエ
ス 2014 [N10.12/Y46]

『患者さんのサインを読み取る！山内先生のフィジカルアセスメント 症状編』 山内豊明著 エスエム
エス 2014 [N10.12/Y46]

『聞く技術 答えは患者の中にある』 第2版 マーク・ヘンダーソン著 山内豊明訳 日経 BP マーケ
ティング 2013 [492.1/H52/2nd]

『ベッドサイドの神経の診かた』 改訂18版 田崎義昭、斉藤佳雄著 南山堂 2016 [493.72/Ta99/18th]

VII 評価方法

成績評価は、討論参加 [30%]、レポート [70%] を合計して算出される。

VIII フィードバック

症例検討を行う際に、その場でフィードバックする。レポート課題については、教員評価を記載して学
生に返却する。

IX その他

診査技術を実施するため、2名以上の受講を望む。

統計学

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

統計学（記述統計、推定統計）の総合的知識を習得し、統計解析パッケージ SPSS を用いた統計分析の方法を習得し、各自の研究や実務に用いることができることを目的とする。

【到達目標】

1. 統計分析を行うための仮説を示すことができる。
2. データを SPSS で統計分析することができる。
3. 統計の分析結果を正しく解釈できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	統計学概論（1） 統計学の仕組み	森田 一三
2	統計学概論（2） 統計学の成り立ち	森田 一三
3	SPSS の紹介と統計分析の準備	森田 一三
4	記述統計：度数分布／エクセルとの連携	森田 一三
5	記述統計：代表値	森田 一三
6	記述統計：散布度	森田 一三
7	間隔・比尺度同士の関係	森田 一三
8	順序尺度同士の関係	森田 一三
9	名義尺度同士の関係：カイニ乗分析	森田 一三
10	名義尺度同士の関係：オッズ比	森田 一三
11	比率の差の分析：カイニ乗分析	森田 一三
12	平均の差の分析：t 検定	森田 一三
13	差を分析する：一元配置分散分析	森田 一三
14	中央値の差の分析	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

III 授業方法

講義、演習

第1回～第15回

IV 時間外学習

- ・事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。(1時間)
- ・授業中に課題となったものについて復習してきてください。(30分)

V 教科書

『SPSS によるやさしい統計学』 第2版 岸学著 オーム社 2012 [417/Ki56/2nd]

VI 参考図書

講義中に適宜紹介

VII 評価方法

成績評価は、受講態度（議論への参加度・貢献度）[100%] より算出されます。

VIII フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

IX その他

パソコンの基礎的な操作（ファイル管理等）およびエクセルの基礎的な操作ができること。

看護研究Ⅱ（質的研究）

（共通科目／選択共通科目）

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

質的研究の意義を理解し、看護の実践や教育の場で共通して活用できる質的な看護研究の基礎的知識を深める。さらに質的研究を用いた論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方を判断する能力を高める。

【到達目標】

1. 基本的な方法論を中心に、理論的基盤・哲学的背景・データ収集、分析方法等について理解できる。
2. 論文をクリティークし、看護実践への有用性や適用の仕方について考えることができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	講義ガイダンス、質的研究の意義と方法論	村瀬 智子
2	看護実践における様々な質的研究の可能性と限界	村瀬 智子
3	質的研究の理論と哲学的背景： 科学性と一般化、理論化に関する問題、看護援助方法、および技術の開発・推進	村瀬 智子
4	援助者の視点と研究の倫理的限界 質的研究におけるサンプリングとデータ収集、分析の視点	村瀬 智子
5	事例研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
6	事例研究の文献クリティーク	村瀬 智子
7	質的記述的研究： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
8	質的記述的研究文献クリティーク	村瀬 智子
9	グランデッドセオリー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
10	グランデッドセオリー文献クリティーク	村瀬 智子
11	エスノグラフィー： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
12	エスノグラフィー文献クリティーク	村瀬 智子
13	現象学的アプローチ： 歴史的背景、哲学的根拠、主要な理論家・研究者、方法論	村瀬 智子
14	現象学的アプローチ文献クリティーク	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

III 授業方法

講義・演習

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受験するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに

発展させることができる。

V 教科書

- 『バーンズ&グローブ看護研究入門－評価・統合・エビデンスの生成－』 原著 第7版 ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ著 黒田裕子他監訳 エルゼビア・ジャパン 2015 [N07/B93]
『質的研究入門－〈人間の科学〉のための方法論』 ウヴェ・フリック 小田博志他訳 春秋社 [361.9/F33]
『質的研究の実践と評価のためのサブストラクション』 北素子、谷津裕子 医学書院 2009 [N07/Ki61]

VI 参考図書

- 『Burmo and Groeis』 The Pravtice of Nusing peseanch 8th ed Jennifer R. Grany et ad ELSEVIER 2016 [N07/B93/8th]
『臨床看護研究サクセスマニュアル』 竹内登美子監修 アンファミエ 2008 [N07/Ta67]
『はじめて学ぶ質的研究』 Lyn Richards & Janice M. Morse 小林奈美監訳 医歯薬出版 2008 [N07/R35]
『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方』 グレグ美鈴他 医歯薬出版 2007 [N07/G84]
『質的研究方法ゼミナール－グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ－』 戈木クレイグヒル滋子編集 医学書院 2013 [N07/Sa21/2nd]
『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践』 木下康仁編著 弘文堂 2003 [361.16/Ki46]
『解釈学的現象学による看護研究：インタビュー事例を用いた実践ガイド』 大久保功子訳 日本看護協会出版 2005 [N07/Ka54/2]
『研究デザイナー－質的・量的・そしてミックス法』 Creswell 著 操華子、森岡崇訳 日本看護協会出版会 2007 [N07/C92]
『質的研究ハンドブック1：質的研究のパラダイムと眺望』 デンジン リンカン著 平山満義、岡野一郎、古賀正義訳 北大路書房 2006 [002.7/D61/1]
『エスノグラフィー』 Roper& Shapira 著 麻原きよみ、グレグ美鈴訳 日本看護協会出版会 2003 [N07/Ka54/1]
『質的研究をめぐる10のキークエスチョン』 マーガレット・サンデロウスキー著 谷津裕子他監訳 医学書院 2013 [N07/Sa62]
『よくわかる看護研究論文のクリティーク』 山川みやえ他編著 日本看護協会出版会 2014 [N07/Y27]
『The practice of Nursing Research』 7th ed. N.Burus & SK.Grove SAUNDERS 2012 [N07/P88/7th]
『Nursing Research : Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice』 10th ed. D.F.Polit & C.T.Beck Wolters Kluwer Lippincott williams & Wilkins 2016 [N07/P76/10th]

VII 評価方法

受講態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%）（プレゼンテーション（45%）、レポート（20%））
※配布される評価表の項目に沿って評価する。

VIII フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

IX その他

なし

コンサルテーション論

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、大西 文子、井上 さよ子、大島 泰子、木全 美智代、長尾 大地

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

専門看護師の6つの機能の中の相談機能を果たすためのコンサルテーションの意義等の基本的概念と具体的方法について学ぶ。

【到達目標】

1. コンサルテーションの基本的概念について説明できる。
2. 臨床現場で起こる様々な問題や課題に対して、直接的あるいは間接的に問題解決を行うためのコンサルテーションの具体的方法を事例に適用できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス、コンサルテーション概論	村瀬 智子
2	様々な実践における困難事例とコンサルテーション状況	村瀬 智子
3	コンサルテーション過程	村瀬 智子
4	コンサルテーションにおけるアセスメント：医療組織における支援とクライアントの状況	村瀬 智子
5	病者の認知行動的問題と援助者のコミュニケーション	村瀬 智子
6	看護者－クライアントの相互作用の分析：看護者が自身の異和感に気づくことと、アセスメント支援	村瀬 智子
7	演習：面接と初期アセスメント：慢性期看護事例	井上 さよ子
8	コンサルテーション演習：がん・終末期看護事例	井上 さよ子
9	コンサルテーション演習：急性期事例	長尾 大地
10	コンサルテーション演習：急性期事例	長尾 大地
11	コンサルテーション演習：小児看護事例	大西 文子
12	コンサルテーション演習：母性看護事例	木全 美智代
13	コンサルテーション演習：精神看護事例	大島 泰子
14	コンサルテーション演習：精神看護事例	大島 泰子
15	まとめ	村瀬・木全

III 授業方法

講義・演習

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前準備が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

『プロセス・コンサルテーション－援助関係を築くこと－』 エドガー・H・シャイン 白桃書房
〔361.4/Sc2〕

VI 参考図書

『高度実践看護 統合的アプローチ』 第5版 A.B.ハムサック他 へるす出版 2017〔N70/H26〕
『Advanced Practice Nursing : An Integrative Approach』 5thed., A., B., Hamric et. al., Saunders/

Eisevier [N89/H26/5th]

『The Consulting Process in Action』 2nd.ed., Lippitt, R., & Lippitt, G., Jpssey-Bass/Pfeiffer
[336/L67/2nd]

『リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版 [N20/N98]

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編 日本看護協会出版会
2009 [N20/U92]

『専門看護師の思考と実践』 井部俊子他監修 医学書院 2015 [N89/Se71]

Ⅶ 評価方法

受講態度（参加・貢献度）（5%）、討論参加（50%）、プレゼンテーション（30%）、小論文（15%）

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議やロールプレイを組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

看護政策論

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

国の保健医療福祉政策の動向をとらえ、医療看護サービスの質向上における政策の重要性、および看護職者が政策決定の過程に関わる意義を学ぶ。さらに具体的な看護の現状から看護政策の課題を探求し、看護政策に提言する能力を培う。

【到達目標】

1. 保健医療福祉政策の動向から、政策が医療看護サービスの質に重要であることを理解できる。
2. 看護に関連する政策過程を概観し、看護職が政策決定過程に参画する意義を理解できる。
3. 看護に関する制度や法律を踏まえ、看護政策の視点から課題を提示できる。
4. 政策決定への過程を理解し、政策提言に向けた方略を考察できる。
5. 提示した看護政策の課題について可能な範囲で提言できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	看護をとりまく保健医療福祉政策の動向	山田 聡子
2	政策過程、看護職者と政策	山田 聡子
3	看護に関連する政策と法律・制度：①医療法	山田 聡子
4	看護に関連する政策と法律・制度：②保健師助産師看護師法	山田 聡子
5	看護に関連する政策と法律・制度：③看護教育制度	山田 聡子
6	看護に関連する政策と法律・制度：④看護師等の人材確保に関する法律	山田 聡子
7	看護に関連する政策と法律・制度：⑤診療報酬制度	山田 聡子
8	看護に関連する政策と法律・制度：⑥看護必要度	山田 聡子
9	職能団体と政策① 職能団体の活動	山田 聡子
10	職能団体と政策② 政策への参画	山田 聡子
11	研究成果と政策① 政策課題研究の実際	山田 聡子
12	研究成果と政策② 関連論文に基づく討議	山田 聡子
13	研究成果と政策③ 関連論文に基づく討議	山田 聡子
14	研究成果と政策④ 関連論文に基づく討議	山田 聡子
15	政策提言に向けた方略：発表と討議	山田 聡子

III 授業方法

第1・2回：講義、第3回～11回：講義・討論、第12～15回：発表・討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

V 教科書

『看護職者のための政策過程入門』 第2版 見藤隆子、石田昌宏、大串正樹、北浦暁子、伊勢田暁子
 日本看護協会出版会 2017〔N60/Mi62/2nd〕

VI 参考図書

随時紹介する。

Ⅶ 評価方法

プレゼンテーション（40%）、討議参加状況（30%） 課題レポート（30%）

Ⅷ フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

Ⅸ その他

なし

看護教育原論

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	1	選 択	15

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育に関する基礎的知識を修得し、看護基礎教育と卒後教育および継続教育の在り方を探求する。

【到達目標】

1. 看護教育制度の歴史的変遷と現状について理解できる。
2. 看護基礎教育と卒後・継続教育の現状と課題について考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	看護教育に関する主要概念（看護教育と看護学教育、卒後教育と継続教育）	山田 聡子
2	看護教育の歴史的変遷	山田 聡子
3	看護教育制度の現状	山田 聡子
4	看護教育関連法規 (憲法・教育基本法・学校教育法・大学設置基準・専修学校設置基準)	山田 聡子
5	諸外国における看護基礎教育・継続教育の現状	山田 聡子
6	看護基礎教育における課題検討	山田 聡子
7	看護卒後教育および継続教育における課題検討	山田 聡子
8	まとめ	山田 聡子

III 授業方法

第1回～8回：講義・討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

V 教科書

『看護教育学』 第6版 杉森みど里、舟島なをみ 医学書院 2016 [N80/Su38/6th]

VI 参考図書

『看護教育学：看護を学ぶ自分と向き合う』 グレグ美鈴、池西悦子編 南江堂 [N80/G84]

『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』 D.M.Billings, J.A.Halsted 著
奥宮暁子、小林美子、佐々木順子監訳 医歯薬出版株式会社 [N80/B43]

VII 評価方法

課題レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)

VIII フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

IX その他

なし

看護教育方法論

(共通科目／選択共通科目)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選 択	15

担当教員

山田 聡子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護教育課程および教育展開方法の基礎的知識を学修し、看護教育の方法を考察する。

【到達目標】

1. 看護教育課程および編成方法について理解できる。
2. 看護教育の方法および評価について理解し考察できる。
3. 継続教育の方法を理解し考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	教育方法に関する主要概念 (学習理論、レディネス、ペダゴジーとアンドラゴジー)	山田 聡子
2	看護基礎教育課程と編成方法	山田 聡子
3	看護教育の方法：講義・演習	山田 聡子
4	看護教育の方法：臨地実習	山田 聡子
5	看護教育の評価	山田 聡子
6	継続教育の方法：新人・中堅看護師、看護管理者	山田 聡子
7	継続教育の方法：看護教員、FD	山田 聡子
8	まとめ	山田 聡子

III 授業方法

第1回～8回：講義・討議

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、当該の学修内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、プレゼンテーションの準備や、討議に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。

受講後は、十分な時間を用いて学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化する。これによって、自らの学習課題を明らかにし、次なる学びに発展させる。

V 教科書

『看護教育学』 第6版 杉森みど里、舟島なをみ 医学書院 2016 [N80/Su38/6th]

VI 参考図書

『看護教育学：看護を学ぶ自分と向き合う』 グレック美鈴、池西悦子編 南江堂 [N80/G84]

『看護を教授すること 大学教員のためのガイドブック』 D.M.Billings, J.A.Halsted 著

奥宮暁子、小林美子、佐々木順子監訳 医歯薬出版株式会社 [N80/B43]

VII 評価方法

課題レポート (50%)、プレゼンテーション (30%)、討議参加状況 (20%)

VIII フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

IX その他

なし

看護管理学

看護管理学特論

(専門科目／看護管理学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、片岡 笑美子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

サービスの質を保証しながら効果的効率的に看護サービスが提供できるよう人的、物的、財政的資源や情報を統合して展開される看護管理について諸理論および管理過程に焦点をあて学ぶ。

【到達目標】

1. 医療・看護サービス提供における組織について説明できる。
2. 多職種、および看護職と協力しながら医療・看護サービス提供におけるマネジメントおよび看護管理過程について説明できる。
3. 看護サービスの質の保証と看護サービスを提供する仕組み、および人材の活用について説明できる。
4. 質の高い看護サービスの提供に果たす看護管理の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス、看護管理	小林 洋子
2	医療制度・看護制度と政策	小林 洋子
3	看護管理に関連する法律	小林 洋子
4	医療・看護サービス、医療・看護サービスと質保証と評価	小林 洋子
5	組織、医療・看護提供組織	小林 洋子
6	マネジメントの対象と管理過程	小林 洋子
7	人材フローのマネジメント	小林 洋子
8	看護サービスと情報 討議-①	小林 洋子
9	看護サービスと情報 討議-②	小林 洋子
10	医療安全（医療事故・インシデント）①	小林 洋子
11	医療安全（感染症）②	小林 洋子
12	医療・看護サービスの提供方法、医療職間の協働と調整	小林 洋子
13	医療・看護提供組織における看護管理の実際：人材の活用	片岡 笑美子
14	医療・看護提供組織における看護管理の実際：看護管理者と CNS の協働	片岡 笑美子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回～第6回：講義、第7回～第11回：発表・討議、第12回：講義、第13回～第15回：発表・討議・講義

IV 時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う。(適宜)

V 教科書

特に指定しない

VI 参考図書

1. 『看護サービス管理』 第4版 中西睦子、小池智子、松浦正子編 (2013) 医学書院 [N070/N39/4th]
2. 『Outcome Management Applications to Clinical Practice』 Wojner Ann, Mosby (2001) 『アウトカムマネジメント-科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用』 井部俊子監修 (2003) 日本看護協会出版会 [N74.1/W83]
3. 『看護管理に活かすベンチマーキング 看護サービスの質改善のために』 菅田勝也編 (2012) 中山書店 [N70/Ka51]

4. 『組織行動のマネジメント』 Stephan,RP. 著 高木晴夫監訳 (2000) ダイヤモンド社 [336.3/R53]
5. 『看護者の基本的責務』 2017年版 日本看護協会監修 (2017) 日本看護協会 [N62/Ka54/17]

Ⅶ 評価方法

レポート (60%)、プレゼンテーション (30%)、受講態度 (10%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

人的資源管理論

(専門科目／看護管理学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、勝原 裕美子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護専門職に焦点をあて、医療・看護サービス提供に関わる組織成員の能力発揮に向けて必要な支援や仕組みについて諸理論を踏まえ、人的資源をどのように開発し活用すればよいか探求する。

【到達目標】

1. 人的資源の開発と活用に関するマネジメントを説明できる。
2. 諸理論を踏まえて人的資源開発・活用を説明できる。
3. 質の高い看護サービスと看護サービスを提供する仕組みが説明できる。
4. 看護実践や看護管理に関する経験から、人的資源の開発・活用について探求し、方向性を提言できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス、人的資源管理と人的資源開発	小林 洋子
2	医療看護サービスの質保証と人的資源	小林 洋子
3	看護の人的資源に関連する法律	小林 洋子
4	多様な働き方	小林 洋子
5	看護職とモチベーション	勝原 裕美子
6	キャリア開発	勝原 裕美子
7	目標管理	勝原 裕美子
8	スペシャリストの活用	小林 洋子
9	継続教育	勝原 裕美子
10	人的資源開発・活用と人事考課	小林 洋子
11	人的資源開発・活用とリーダーシップ	小林 洋子
12	人的資源開発・活用と職場環境	小林 洋子
13	人的資源開発と活用の討議①	小林 洋子
14	人的資源開発と活用の討議②	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回～3回：講義、第4回：発表・討議、第5回～9回：講義、第10回～14回：発表・討議

IV 時間外学習

授業への参加準備、プレゼンテーションの準備など、予習や準備を行う。(適宜)

V 教科書

特に指定しない

VI 参考図書

1. 『Management of Organizational Behavior: Utilizing Human Resources』 (7th) Hersey P, B. Kenneth H, Johnson D, E. (1996) [336.4/H53/7th]
『入門から応用へ行動科学の展開 (新版) 人的資源の活用』 山本成二、山本あづさ訳 (2000)
生産性出版 [336.4/H53]
2. 『Outcome Management Applications to Clinical Practice』 Wojner Ann, Mosby (2001)
『アウトカムマネジメント - 科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用』 井部俊子監修
(2003) 日本看護協会出版会 [N74.1/W83]

3. 『新版 看護者の基本的責務』 2017年版 日本看護協会監修 (2017) 日本看護協会
〔N62/Ka54/17〕
4. 『看護管理学習テキスト4 看護における人的資源活用論』 第2版 井部俊子、中西睦子監修 (2011)
日本看護協会出版会〔N70/Ka54/4〕

Ⅶ 評価方法

レポート (60%)、プレゼンテーション (30%)、受講態度 (10%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

看護管理学演習 I

(専門科目／看護管理学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	1	選択	30

担当教員

山田 聡子、小林 洋子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護管理領域で重要な課題、学生が興味を持つ特定の重要な現象について文献検索し、批判的な検討とプレゼンテーションを通して、看護管理領域における現象、理論を理解するとともに、自己の研究課題を明確にする。

【到達目標】

1. 文献検索、文献検討の方法を説明できる。
2. 関心のある文献を選択し、文献の概要、および批判的な検討結果について記述できる。
3. 2. の文献概要、および検討結果を他者に伝えることができる。
4. 検討結果について他者と討議できる。
5. 文献抽出、批判的な検討、討議から自己の研究課題を記述できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス、論文の構成	山田・小林
2	文献検討の方法	山田 聡子
3	論文の読み方①	山田 聡子
4	論文の読み方②	山田・小林
5	文献概要、および検討結果の発表と討議①	山田・小林
6	文献概要、および検討結果の発表と討議②	山田・小林
7	文献概要、および検討結果の発表と討議③	山田・小林
8	文献概要、および検討結果の発表と討議④	山田・小林
9	文献概要、および検討結果の発表と討議⑤	山田・小林
10	文献概要、および検討結果の発表と討議⑥	山田・小林
11	文献概要、および検討結果の発表と討議⑦	山田・小林
12	文献概要、および検討結果の発表と討議⑧	山田・小林
13	研究課題と討議①	山田・小林
14	研究課題と討議②	山田・小林
15	まとめ	山田・小林

III 授業方法

第1回：講義、第2回～15回：プレゼンテーション・討議

IV 時間外学習

自己の関心について追求するとともに、関連科目の復習を行う。(適宜)

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

授業中、随時紹介する。

VII 評価方法

プレゼンテーション (40%)、授業への参加状況 (30%)、レポート (30%) 以上から総合的に評価する。

VIII フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

IX その他

なし

看護管理学演習Ⅱ

(専門科目／看護管理学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選択	30

担当教員

山田 聡子、小林 洋子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

自己の研究課題に基づき、探求する方法を検討し、研究計画書の作成過程を学ぶ。

【到達目標】

1. 文献検討を踏まえて、自己の研究課題を説明できる。
2. 研究目的、意義、方法を明確にできる。
3. 研究における倫理的配慮を説明できる。
4. データ収集方法を説明できる。
5. 研究計画書を作成できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス	山田・小林
2～3	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議①	山田・小林
4～5	研究課題に関する文献検討結果の発表と討議②	山田・小林
6～7	研究目的の明確化と研究デザインの検討	山田・小林
8～9	研究の倫理的配慮に関する検討	山田・小林
10～11	データ収集方法の検討	山田・小林
12～13	研究計画書作成	山田・小林
14～15	研究計画書の発表と討議	山田・小林

III 授業方法

第1回：講義、第2回～15回：プレゼンテーション・講義

IV 時間外学習

自己の関心について追求するとともに、関連科目の復習を行う。また、授業での気づきを発展させるように関連する文献等を活用し、学習を深める。(適宜)

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

授業中、随時紹介する。

VII 評価方法

プレゼンテーション (30%)、授業への参加状況 (30%)、レポート (40%) 以上から総合的に評価する。

VIII フィードバック

プレゼンテーション時にその場でフィードバックする。

IX その他

なし

臨床実践看護学・成人急性期看護学

周手術期看護論

(専門科目／臨床実践看護学／成人急性期看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

東野 督子、鎌倉 やよい、河相 てる美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

手術療は生体の内部環境へ加えられた「侵襲」というストレス刺激であり、「生体反応」を起こして恒常性を維持しようとする。術前から術後に至る周手術期の看護について、共通する課題として急性疼痛、術後せん妄、栄養を取り上げ、最新の研究動向について学習する。次に、周術期に関連する理論について、看護実践および看護研究への活用について探求する。さらに、手術患者のQOLと看護について、主に量的研究の文献を用いて、統計分析された結果を読み解く視点から検討する。

【到達目標】

1. 周手術期看護に関連する最新の文献を検討し、急性疼痛、術後せん妄、栄養、手術患者のQOLの研究について説明できる。
2. 周手術期看護に関連する理論を理解し説明できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	周手術期看護論オリエンテーション、サブストラクション	東野・鎌倉・河相
2	手術侵襲と生体反応	河相 てる美
3・4	術後の急性疼痛と看護	河相 てる美
5・6	術後せん妄と看護	鎌倉 やよい
7	手術患者の栄養と看護	鎌倉 やよい
8	周術期看護に関連した理論：ストレス・コーピング理論	河相 てる美
9	周術期看護に関連した理論：危機モデル	東野 督子
10・11	周術期看護に関連した理論：ソーシャル・サポート	東野 督子
12	周術期に関連した理論：セルフマネジメント	鎌倉 やよい
13・14	手術患者のQOLと看護	東野 督子
15	まとめ	東野・鎌倉・河相

III 授業方法

講義：1、2、3、5、7、8、9、11、12、13

演習：4、6、10、14

IV 時間外学習

予習・復習を十分な時間を使って授業にのぞんで下さい。

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、授業参加度（20%）を合算して算出する。

VIII フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

IX その他

なし

感染予防看護論

(専門科目／臨床実践看護学／成人急性期看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

東野 督子、森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

手術などの侵襲的治療状況や急性の臓器機能障害をもつ成人患者の感染予防に関する看護者の果たす役割について探求する。医療関連感染を引き起こすと生命を危険にさらすことはもとより在院日数の延長や医療費の増加などの問題を生じる。したがって治療を受ける易感染状態にある成人患者の感染予防のための患者教育のあり方、および看護者が行う感染経路の遮断に関する技術や、療養環境における細菌汚染が及ぼす影響と看護者の認識、及び職業感染を含めて探求する。

【到達目標】

1. 医療関連感染がもたらす問題をさまざまな視点から説明できる。
2. 感染成立と予防法を踏まえて看護者の果たす役割とその方法を論述できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	感染予防看護論のオリエンテーション	東野 督子
2	感染予防の歴史と人体の感染予防機構	東野 督子
3・4	口腔のケアと感染予防・歯科疾患からみた感染症	森田 一三
5	感染予防の動向と医療経済	東野 督子
6	医療における感染予防と看護の役割経路別予防策、標準予防策	東野 督子
7	術前の感染症検査と職業暴露	東野 督子
8・9	侵襲的処置に関連した感染と成人看護 (1) 血流感染：血管内留置カテーテル (2) 尿路感染：尿路カテーテル	東野 督子
10・11	侵襲的処置に関連した感染と成人看護 (3) 人工呼吸器関連感染 (4) 手術創感染	東野 督子
12・13	治療・処置に関連した感染と成人看護 抗がん剤治療、放射線治療、骨髄移植、成人患者の感染予防教育	東野 督子
14	感染予防看護に関連する評価：指標の種類と評価の実際	東野 督子
15	まとめ	東野 督子

III 授業方法

講義：1、2、3、5、6、7、8、10、12、14

プレゼンテーション：4、9、11、13、15

IV 時間外学習

予習・復習を十分な時間を使って授業にのぞんで下さい。

V 教科書

適宜資料を提供する。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

レポート（40%）、プレゼンテーション（40%）、参加度（20%）を合算して算出する。

VIII フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

IX その他

なし

急性期機能回復援助論

(専門科目／臨床実践看護学／成人急性期看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

鎌倉 やよい、河相 てる美、石黒 千映子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

健康危機状況からの機能回復過程にある人の特徴と援助方法について学ぶ。事例および看護実践に関する文献を検討し、急性期機能回復過程にある人の生活の質の向上を目指した看護について探求する。

【到達目標】

1. 健康危機状況にある人の特徴を説明できる。
2. 健康危機状況からの機能回復過程にある人の援助について、疾病により変化した身体機能の回復に向けた生活の援助について検討する。
3. 健康危機状況からの機能回復過程にある人の事例を活用し、その援助方法について、理論的に探究する。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション	鎌倉・河相・石黒
2	消化器障害に対する援助：講義	鎌倉 やよい
3	消化器障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
4	呼吸機能障害に対する援助：講義	石黒 千映子
5	呼吸機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
6	循環機能障害に対する援助：講義	石黒 千映子
7	循環機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
8	感覚器障害に対する援助：講義	河相 てる美
9	感覚器障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
10	嚥下障害に対する援助：講義	鎌倉 やよい
11	嚥下障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
12	運動機能障害に対する援助：講義	河相 てる美
13	運動機能障害に対する援助：発表・討論	鎌倉・河相・石黒
14	高次脳障害に対する援助：講義・発表・討論	河相 てる美
15	まとめ：講義・発表・討論	鎌倉・河相・石黒

III 授業方法

講義：1・2・4・6・8・10・12

発表・討論：3・5・7・9・11・13

講義・発表・討論：14・15

IV 時間外学習

予習・復習に十分な時間を使って授業に臨む。プレゼンテーションの準備をする。(2時間)

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、授業参加度(20%)を合算して算出する。

VIII フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する。

IX その他

なし

成人急性期看護学演習

(専門科目／臨床実践看護学／成人急性期看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	60

担当教員

東野 督子、石黒 千映子、河相 てる美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

成人急性期看護学分野で、学生が興味を持つ特定の重要な現象、援助技術、理論およびその活用方法について、集中的な文献検討を行なう。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、成人急性期看護学における特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行なう。検討を通して、自己の研究課題と研究デザインを明確にする。

【到達目標】

1. 文献レビューができる。
2. 研究計画書が作成できる。
3. 研究計画書のプレゼンテーションができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1・2	演習ガイダンス 文献検討：成人急性期看護学分野の研究文献を読み、批判的に検討する。	東野・石黒・河相
3～6	文献検討：成人急性期看護学分野の研究文献を読み、批判的に検討する。	東野・石黒・河相
7～10	自己の研究課題に関連する文献を検索し、研究課題となりうるかを検討する。	東野・石黒・河相
11～16	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、倫理申請や研究方法を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒・河相
17～20	検索した自己の研究課題に関連する文献を用いて、研究内容を整理してプレゼンテーションし、討議する。	東野・石黒・河相
21～24	研究方法を実践するために必要な評価方法や測定方法を演習する。	東野・石黒・河相
25～28	研究計画書の作成	東野・石黒・河相
29・30	研究計画書（案）の発表・まとめ	東野・石黒・河相

III 授業方法

演習：第1回～第30回

IV 時間外学習

予習・復習に十分時間をつかって授業にのぞんで下さい。

V 教科書

適宜紹介する。

VI 参考図書

適宜紹介する。

VII 評価方法

文献レビュー（50%）、計画書作成（30%）、プレゼンテーション（20%）を合算して算出する。

VIII フィードバック

学修内容のフィードバックは授業の時間内に実施する

IX その他

なし

臨床実践看護学・母性看護学

母性看護学特論

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

野口 眞弓

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性及びその家族を理解するために用いられる概念や理論を理解し、看護実践および看護研究への適応を探究する。

【到達目標】

1. EBM、出産の歴史、リプロダクティブヘルス・ライツが理解できる。
2. 母親及び父親役割獲得、アタッチメント理論、セルフエフィカシー、ソーシャルサポート、ヘルスプロモーション、エスノグラフィーなど母性看護学で用いる理論が理解でき、看護実践および看護研究への適応を探究できる。
3. 思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性の健康生活及び健康問題並びに女性の健康支援システムについて理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	EBM	野口 眞弓
2	出産の歴史	野口 眞弓
3	リプロダクティブヘルス／ライツ	野口 眞弓
4	母親役割獲得理論の看護実践への適応	野口 眞弓
5	母親役割獲得理論の看護研究への適応	野口 眞弓
6	父親役割獲得理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
7	アタッチメント理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
8	セルフエフィカシー理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
9	ソーシャルサポート理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
10	ヘルスプロモーション理論の看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
11	エスノグラフィーの看護実践および看護研究への適応	野口 眞弓
12	思春期における健康課題・問題	野口 眞弓
13	妊娠・分娩・産褥にともなう健康課題・問題	野口 眞弓
14	更年期・老年期における健康課題・問題	野口 眞弓
15	まとめ	野口 眞弓

III 授業方法

講義・討論

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

VII 評価方法

討議への参加 (40%)、レポート (60%) を合計して評価する。

VIII フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

IX その他

なし

母性看護学援助特論

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

思春期、成熟期、更年期、老年期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援を学ぶ。

【到達目標】

1. 月経教育、マンスリービクス、思春期の性意識・性行動、性感染症、性教育におけるピアカウンセリングから、思春期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
2. 不妊、流産・死産・新生児死、勤労女性の法的・社会的支援、産後の性生活から、成熟期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
3. 更年期、老年期にある女性の健康問題とそれに対する具体的な看護支援が理解できる。
4. 母性看護における倫理的問題について理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	月経教育・マンスリービクス	野口 眞弓
2	思春期の性意識・性行動	野口 眞弓
3	性感染症・性教育におけるピアカウンセリング	野口 眞弓
4	不妊に悩む女性への援助	野口 眞弓
5	流産を繰り返す女性への援助	野口 眞弓
6	産まない選択をする女性への援助	野口 眞弓
7	死産・新生児死亡で子どもを失った家族への援助	野口 眞弓
8	勤労女性の法的・社会的支援	長田 知恵子
9	産後の性生活への援助	長田 知恵子
10	中高年の性行動	長田 知恵子
11	更年期の女性への援助	長田 知恵子
12	老年期の女性への援助	長田 知恵子
13	母性看護における倫理的問題（出生前診断など）	長田 知恵子
14	母性看護における倫理的問題（不妊症治療など）	長田 知恵子
15	まとめ	野口・長田

III 授業方法

講義・討論

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

VII 評価方法

討議への参加(40%)、レポート(60%)を合計して評価する。

VIII フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

IX その他

なし

周産期看護特論

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

野口 眞弓、久野 尚彦、真野 真紀子、鈴木 美哉子、鬼頭 修、平岩 美緒

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、周産期における一貫した母子のプライマリーケアと緊急事態に対応するための応用方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 標準的な周産期ケアとその歴史を理解できる。
2. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来などで提供されている周産期看護を検討し、正常な経膈分娩への援助、異常の診断と緊急処置、異常分娩の介助、新生児の蘇生などプライマリーケアと緊急事態に対応できる援助方法を理解できる。
3. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来など周産期ケアシステムについて検討できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	望ましい周産期ケア	野口 眞弓
2	助産師の歴史	野口 眞弓
3	超音波を用いた胎児診断	久野 尚彦
4	胎児異常の診断	久野 尚彦
5	助産師外来の実際	真野 真紀子
6	早産・前期破水の最新の治療	久野 尚彦
7	MFICU での看護の実際	真野 真紀子
8	院内助産所の実際	真野 真紀子
9	アクティブ・バース	鈴木 美哉子
10	断乳の実際	鈴木 美哉子
11	分娩時異常出血・産科ショック	久野 尚彦
12	異常分娩の看護	真野 真紀子
13	新生児の蘇生	鬼頭 修
14	NICU における親子関係形成の支援	平岩 美緒
15	ハイリスク新生児のケア	平岩 美緒

III 授業方法

講義

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

VII 評価方法

討議への参加 (60%)、レポート (40%) を合計して評価する。

VIII フィードバック

レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

IX その他

なし

母性看護学演習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	60

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

母性看護学領域で、学生が興味をもつ特定の重要な現象、援助技術、理論及びその活用方法について、集中的な文献検討を行う。これまでの研究結果を批判的に吟味することで、母性看護学における特定の重要な現象に解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行う。

【到達目標】

1. 母性看護学領域の文献の批判的検討ができる。
2. 母性看護学領域の研究課題の探求ができる。
3. 母性看護学領域における研究方法の検討ができる。
4. 研究計画書を作成することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1～3	母性看護学領域の文献の批判的検討 3回にわたり母性看護学領域の文献の批判的検討を行う。	野口・長田
4～10	母性看護学領域の研究課題の探求 探求したい母性看護学領域の現象について、文献検討を行い、研究課題となりうるかを検討する。	野口・長田
11～13	母性看護学領域における研究方法の検討① 探求したい母性看護学領域の現象についての研究デザインの検討	野口・長田
14～16	母性看護学領域における研究方法の検討② 探求したい母性看護学領域の現象についてのデータ収集方法の検討	野口・長田
17	母性看護学領域における研究方法の検討③ 探求したい母性看護学領域の現象についての研究での倫理的配慮の検討	野口・長田
18～21	母性看護学領域における研究方法の検討④ 探求したい母性看護学領域の現象についての具体的なデータ収集方法の検討 (質問項目作成、インタビューガイド作成など)	野口・長田
22・23	研究計画書の作成① 文献検討の文章化	野口・長田
24・25	研究計画書の作成② 研究方法についての文章化	野口・長田
26	研究計画書の作成③ 研究の倫理的配慮の文章化	野口・長田
27～29	具体的な研究方法の決定 アンケート項目の作成あるいはインタビュー項目の作成	野口・長田
30	研究計画書の発表	野口・長田

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

討議への参加（30%）、プレゼンテーション（30%）、研究計画書（40%）を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

Ⅸ その他

なし

周産期看護援助方法論演習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選 択	30

担当教員

野口 眞弓、早瀬 麻観子、立松 あき

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期看護の高度実践において、求められる効果的な援助方法を専門看護師の視点から修得する。

【到達目標】

1. 母性看護 CNS が実際に行うコーディネーション、コンサルテーション、倫理的調整、教育、研究を知ることによって、母性看護 CNS の機能と役割に対する理解を深める。
2. 周産期における事例の倫理問題を多面的に捉え、権利と尊厳が守られるための調整の方向性を見出せる。
3. 周産期に特徴的な問題を解決するためのコンサルテーション能力を獲得する。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	コーディネーション、コンサルテーション、倫理的調整など母性看護 CNS 機能と役割の概念	野口 眞弓
2・3	母性看護 CNS としての活動の実際① ・母性看護 CNS としての活動 ・コーディネーションの実際 ・コンサルテーションの実際 ・倫理的調整の実際 ・教育の実際 ・研究の実際	早瀬 麻観子
4・5	母性看護 CNS としての活動の実際② ・母性看護 CNS としての活動 ・コーディネーションの実際 ・コンサルテーションの実際 ・倫理的調整の実際 ・教育の実際 ・研究の実際	立松 あき
6～8	周産期における事例の倫理的問題① 出生前診断事例のアセスメントと対応 胎児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ	野口 眞弓
9～11	周産期における事例の倫理的問題② 胎児及び新生児治療事例のアセスメントと対応 胎児及び新生児の両親と祖父母、医師、看護師役でのロールプレイ	野口 眞弓
12・13	周産期におけるコンサルテーション① クライアント事例のアセスメントとコンサルテーション コンサルタントとコンサルティー役でのロールプレイ	野口 眞弓
14・15	周産期におけるコンサルテーション② コンサルティーを中心とする事例のアセスメントとコンサルテーション コンサルタントとコンサルティー役でのロールプレイ	野口 眞弓

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

VII 評価方法

演習内容 (70%)、レポート (30%) を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

演習時にフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

Ⅸ その他

なし

周産期看護高度実践演習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	60

担当教員

野口 眞弓、久野 尚彦、鈴木 美哉子、真野 真紀子、鬼頭 修、平岩 美緒

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、周産期看護特論で学習したことを統合し、周産期看護での高度実践ができる能力を養う。

【到達目標】

1. 助産師外来、MFICU、院内助産所、NICU、母乳外来などで提供されている質の高い看護実践を分析することができる。
2. 正常な経陰分娩への援助、異常の診断と緊急処置、異常分娩の介助、新生児の蘇生などプライマリーケアと緊急事態に対応できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1～3	周産期の望ましいケアの検討 妊娠期、分娩期、産褥期のケアについてのエビデンス	野口 眞弓
4～6	超音波を用いた胎児診断 妊娠初期・妊娠中期・後期の超音波検査、胎児発育の評価	久野 尚彦
7～9	助産師外来の検討 医師が行う外来との違い、助産師外来での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
10～12	MFICUでの周産期ケアの検討 異常妊娠、胎児異常、異常分娩のケア	野口 眞弓
13～15	院内助産所での周産期ケアの検討 病院分娩室との違い、院内助産所での安全性の確保、産科医師との連携	野口 眞弓
16～18	アクティブ・バースの検討 アクティブ・バースのエビデンス、胎児モニタリング、好まれる姿勢、分娩介助	鈴木 美哉子
19～21	断乳の実際 卒乳（断乳）が母子の健康に及ぼす影響、助産院で提供している乳房ケア、断乳時のケア	鈴木 美哉子
22～24	分娩時異常出血・産科ショックの対応 緊急物品の使用法、分娩時異常出血の止血操作、緊急時の体制	久野 尚彦 真野 真紀子
25～27	新生児の蘇生 新生児蘇生法の基本的手技の実習およびシナリオセッション	鬼頭 修 平岩 美緒
28～30	ハイリスク新生児のケア 新生児仮死、低体温、呼吸障害、チアノーゼ、痙攣、感染症、早期黄疸、外表奇形のケア	平岩 美緒

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

演習内容（70%）、レポート（30%）を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

演習時にフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

Ⅸ その他

なし

周産期看護管理演習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選 択	30

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子、真野 真紀子、平岩 美緒、山口 みちる

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、周産期看護の業務管理並びに政策参加を学ぶことで、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を理解する。

【到達目標】

1. 周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、周産期看護管理実習ののちに、臨床で実際に働く指導者とともにそこでの周産期看護の現状分析を行い、業務管理の実際を検討する。
2. NPO 法人臨床助産の会という組織体の運営上必要とされる実際上のプラン（政策）を検討する。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	助産師外来の現状分析と業務管理の実際 ①名古屋第一赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	野口 眞弓 真野 真紀子*
2	②名古屋第二赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	野口 眞弓
3	③周産期ケア並びに管理のあり方の検討	野口 眞弓
4	MFICU の現状分析と業務管理の実際 ①名古屋第一赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	長田 知恵子 真野 真紀子*
5	②名古屋第二赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	長田 知恵子
6	③周産期ケア並びに管理のあり方の検討	長田 知恵子
7	院内助産所の現状分析と業務管理の実際 ①現状分析の報告	野口 眞弓 真野 真紀子*
8	②周産期ケアのあり方の検討	野口 眞弓
9	③周産期ケア管理のあり方の検討	野口 眞弓
10	NICU の現状分析と業務管理の実際 ①名古屋第一赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	長田 知恵子 平岩 美緒*
11	②名古屋第二赤十字病院での現状分析の報告、業務管理の実際	長田 知恵子
12	③周産期ケア並びに管理のあり方の検討	長田 知恵子
13	NPO 法人の活動の実際と今後の政策の立案 ①NPO 法人臨床助産の会の活動の理解	野口 眞弓 山口 みちる
14	②助産師による社会活動の実際	野口 眞弓 山口 みちる
15	③運営上必要とされる実際上のプラン（政策）を検討	野口 眞弓

* 印の教員が所属する施設で演習を実施した場合に演習を担当する。

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

Ⅵ 参考図書

授業中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

討議への参加（40%）、プレゼンテーション（60%）を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

周産期看護事例検討演習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③④	2	選 択	60

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子、真野 真紀子、平岩 美緒、鈴木 美哉子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度実践者として自律した活動ができるように、総合周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院、乳房マッサージやアクティブ・バースを積極的に取り入れているマルオト助産院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産院、NICUでの周産期看護、並びに病院と助産所における乳房管理について、実際の事例を検討することで母子のプライマリーケアと緊急時に対応するための援助方法の検討を行う。

【到達目標】

1. 助産師外来における正常経過の妊婦の事例検討ができる。
2. MFICU における切迫早産、多胎、重症妊娠高血圧腎症、胎児疾患の事例検討ができる。
3. 産科病棟における心理・社会的側面で問題のある事例の検討ができる。
4. 院内助産所における産婦の事例検討ができる。
5. NICU におけるハイリスク児、奇形や障害のある児の事例検討ができる。
6. 病院と助産所での乳房管理の検討ができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	助産師外来における正常経過の妊婦の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	野口 眞弓 真野 真紀子*
2	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	野口 眞弓
3	③事例検討のまとめ	野口 眞弓
4	MFICU における切迫早産の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	長田 知恵子 真野 真紀子*
5	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	長田 知恵子
6	③事例検討のまとめ	長田 知恵子
7	MFICU における多胎の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	長田 知恵子 真野 真紀子*
8	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	長田 知恵子
9	③事例検討のまとめ	長田 知恵子
10	MFICU における重症妊娠高血圧腎症の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	野口 眞弓 真野 真紀子*
11	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	野口 眞弓
12	③事例検討のまとめ	野口 眞弓
13	MFICU における胎児疾患の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	野口 眞弓 真野 真紀子*
14	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	野口 眞弓
15	③事例検討のまとめ	野口 眞弓
16	産科病棟における心理・社会的側面で問題のある事例の検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	長田 知恵子 真野 真紀子*
17	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	長田 知恵子
18	③事例検討のまとめ	長田 知恵子
19	院内助産所における産婦の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	野口 眞弓 真野 真紀子*
20	②名古屋第一赤十字病院での事例検討	野口 眞弓

21	③事例検討のまとめ	野口 眞弓
22	NICU におけるハイリスク児の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	長田 知恵子 平岩 美緒*
23	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	長田 知恵子
24	③事例検討のまとめ	長田 知恵子
25	NICU における奇形や障害のある児の事例検討 ①名古屋第一赤十字病院での事例検討	長田 知恵子 平岩 美緒*
26	②名古屋第二赤十字病院での事例検討	長田 知恵子
27	③事例検討のまとめ	長田 知恵子
28	病院と助産所での乳房管理の検討 ①助産所での事例検討	野口 眞弓 鈴木 美哉子*
29	②病院での事例検討	野口 眞弓
30	③事例検討のまとめ	野口 眞弓

* 印の教員が所属する施設で演習を実施した場合に演習を担当する。

Ⅲ 授業方法

演習

Ⅳ 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

Ⅴ 教科書

なし

Ⅵ 参考図書

授業中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

討議への参加 (40%)、プレゼンテーション (60%) を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

周産期看護管理実習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	90 時間以上

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における高度実践者として、周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、母性看護学特論、母性看護学援助特論、周産期看護特論、周産期看護高度実践演習で学習したことを統合し、周産期看護を管理する能力を養う。このことから、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を理解する。

【到達目標】

1. 周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析ができる。
2. 周産期看護の業務管理の実際を検討することができる。
3. 周産期看護の業務管理の改善策を提示することができる。

II 授業内容及び計画

1. 実習内容

助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析を行い、業務管理の実際を検討する。

- (1) 周産期看護の現状分析：助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究の現状を分析する。
- (2) 業務管理の実際：助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実際、コンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究の業務管理の実際を理解する。
- (3) 周産期看護管理の検討：周産期看護の現状分析と業務管理の実際を検討することで、周産期看護管理の改善策を提案する。

2. 実習施設

- (1) 名古屋第一赤十字病院
- (2) 名古屋第二赤十字病院

3. 実習方法

- (1) 実習初日は、学内でオリエンテーションを実施する。
- (2) 病院実習は、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUで90時間以上実施する。

4. 実習記録等

実習終了後は、助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析と業務管理の実際のレポートを作成する。

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

VI 参考図書

実習中に適宜紹介する。

VII 評価方法

実習内容及びレポート（助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の現状分析と業務管理の分析（80%）、改善策の提示（20%））

Ⅷ フィードバック

実習時にその場でフィードバックする。また、レポートに教員評価を記載して学生に返却する。

Ⅸ その他

なし

周産期看護高度実践実習

(専門科目／臨床実践看護学／母性看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③④	4	選 択	180 時間以上

担当教員

野口 眞弓、長田 知恵子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

周産期における高度実践者として、周産期にある対象やその家族に対して質の高い看護実践ができるように、母性看護学特論、母性看護学援助特論、周産期看護特論、周産期看護高度実践演習、周産期看護管理実習、周産期看護管理演習で学習したことを統合し、周産期看護での高度実践ができる能力の獲得を目指す。また、周産期看護を充実させ、発展させるリーダーとしての役割を果たす基礎的能力の獲得を目指す。

【到達目標】

1. 総合周産期母子医療センターの指定を受けている名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院などの実践の場において、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICU における周産期看護を実践する。
2. 周産期看護におけるコンサルテーション、コーディネーション、倫理的調整、教育、研究ができる。

II 授業内容及び計画

1. 実習内容

- (1) 助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICU において、以下の事例等を受け持ち、高度のアセスメントならびに高度な実践を行う。
 - ・助産師外来において正常経過の妊婦
 - ・MFICU において切迫早産、多胎、重症妊娠高血圧腎症、胎児疾患
 - ・産科病棟において心理・社会的側面で問題のある事例
 - ・院内助産所において正常分娩の産婦
 - ・NICU においてハイリスク児、奇形や障害のある児
- (2) 受け持つ事例を通して、医師・ソーシャルワーカーなどの他職種との共同、ケアコーディネーションを行う。
- (3) 受け持ち事例を通して、コンサルテーション、倫理的調整、教育を行う。
- (4) 受け持ち事例を通して、看護実践の創造・改革・改善のための研究課題を見だし、研究的なアプローチを習得する。

2. 実習施設

- (1) 名古屋第一赤十字病院
- (2) 名古屋第二赤十字病院

3. 実習方法

- (1) 実習初日は、学内でオリエンテーションを実施する。
- (2) 病院実習は、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICU で 90 時間以上実施する。

4. 実習記録等

実習終了後は、助産師外来、MFICU、産科病棟、院内助産所、NICU における周産期看護の事例報告を作成する。

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

本科目を受講するにあたり、当該の学習内容に関する文献等を事前に読み、プレゼンテーションや討議に参加するための事前準備をする。また、受講後にも、自らの学習課題を明らかにし、必要な文献等を読むことにより知識を深める。(適宜)

V 教科書

なし

Ⅵ 参考図書

実習中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

助産師外来、MFICU、院内助産所、NICUにおける周産期看護の実践（50%）、コンサルテーション・コーディネーション・倫理的調整・教育・研究（50%）

Ⅷ フィードバック

実習時にその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

臨床実践看護学・小児看護学

小児看護学成長発達論 I

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

大西 文子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児の各期における成長発達及び発達理論を探求し、小児看護への活用方法を修得する。

【到達目標】

1. 子どもの成長発達及び発達理論をより深く理解できる。
2. 疾患をもつ子どもにおける子ども自身なりの健康維持増進を支援するために、成長発達及び発達理論の活用による小児看護方法を理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション／発達理論の概要（講義）	大西 文子
2	子どもの成長発達（形態的発達）	大西 文子
3	子どもの成長発達（機能的発達）	大西 文子
4	子どもの成長発達（精神運動発達）	大西 文子
5	子どもの成長発達（心理社会的発達）	大西 文子
6	発達理論（1）：フロイト	大西 文子
7	発達理論（2）：エリクソン自我発達理論①	大西 文子
8	発達理論（2）：エリクソン自我発達理論②	大西 文子
9	発達理論（3）：ピアジェ発達理論①	大西 文子
10	発達理論（3）：ピアジェ発達理論②	大西 文子
11	小児外科疾患をもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討（事例：鎖肛をもつ子ども）	大西 文子
12	慢性期疾患をもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討（事例：腹膜透析を行っている子ども）	大西 文子
13	終末期を迎えた子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討（事例：急性リンパ性白血病をもつ子ども）	大西 文子
14	障がいをもつ子どもの成長発達に対する発達理論を活かしたセルフケアの検討（事例：脳性麻痺をもつ子ども）	大西 文子
15	まとめ、授業評価	大西 文子

III 授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

V 教科書

『生涯人間発達学』 上田礼子著 三輪書店 [143/U32/2nd]

VI 参考図書

必要時参考文献を配布する。

VII 評価方法

討議への参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。
レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

IX その他

なし

小児看護学成長発達論Ⅱ

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

大西 文子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

親子関係論・家族ダイナミクスやストレス・コーピング理論、家族発達、家族アセスメントモデル等の家族看護理論について学び、子どもと親および家族の重要他者としての家族発達を修得する。

【到達目標】

1. 親子関係論、家族ダイナミクス、ストレス・コーピング理論、家族発達理論、家族システム理論、家族コミュニケーション理論、家族アセスメントモデルの各理論を理解できる。
2. 対象となる子ども、親・家族の健康を増進するために、小児看護における諸理論の展開方法を理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション／諸理論の概要	大西・岡田
2	マラーの分離－固体化理論	大西 文子
3	ボウルビイのアタッチメント理論	大西 文子
4	ウニコットの対象関係論	大西 文子
5	親子関係論（母子関係論・父子関係論）	大西 文子
6	家族ダイナミクス	岡田 摩理
7	家族発達理論	岡田 摩理
8	親・家族の発達（課題提出・ゼミ） Margaret Shandor Miles, RN, PhD, et al : The Nurse Parent Support Tool, Journal of Pediatric Nursing, Vol14, No1, 1999.	大西・岡田
9	家族システム理論／システムズ・アプローチ	岡田 摩理
10	家族コミュニケーション理論	岡田 摩理
11	子どものストレスコーピング	岡田 摩理
12	家族ストレス対処理論	岡田 摩理
13	ストレスコーピング理論（課題提出・ゼミ） Nancy A. Ryan-Wenger : Children ,Coping, and the Stress of Illness: A Synthesis of the Research,,JSPN, Vol1, No3, 1996.	大西・岡田
14	家族アセスメントモデル①家族アセスメント・家族生活力量モデル	岡田 摩理
15	家族アセスメントモデル② カルガリー家族介入モデル・家族エンパワーメントモデル	大西・岡田

III 授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

V 教科書

『家族エンパワーメントをもたらす看護実践』 野島佐由美監修 中野綾美編集 へるす出版 2005 [N51/N93]

VI 参考図書

『Family nursing : Theory and Assessment. 5th ed』 Marilyn M. Friedman Prentice Hall 2003
〔N51/F47/5th〕

『I 愛着行動（母子関係の理論）』 J. ボウルビィ著 岩崎学術出版社 1991 〔367.3/B68/1〕

『II 分離不安（母子関係の理論）』 J. ボウルビィ著 岩崎学術出版社 1991 〔367.3/B68/2〕

『III 対象喪失（母子関係の理論）』 J. ボウルビィ著 岩崎学術出版社 1991 〔367.3/B68/3〕

他、必要時参考文献を配布する。

VII 評価方法

討議への参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。

レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

IX その他

なし

小児看護学展開理論

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

大西 文子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護を展開するオレムセルフケア理論を探究し、セルフケア不足理論・依存的ケア理論について学修し、小児看護学への展開方法を修得する。

【到達目標】

1. オレムセルフケア理論のセルフケア不足理論における依存的ケア理論が理解できる。
2. 依存的ケア理論を用いた紙上事例を用いた看護展開方法が理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション／オレムセルフケア理論の概要	大西・岡田
2	セルフケアの概念	大西・岡田
3	オレムセルフケア理論	大西・岡田
4	オレムセルフケア不足理論	大西・岡田
5～6	依存的ケア理論	大西・岡田
7	小児のセルフケアの考え方	岡田 摩理
8	子どもの認知発達	岡田 摩理
9～10	依存的ケア理論に基づく急性期患者紙上事例における看護展開方法 (事例1：ヒルシュスプリング病) (ゼミ) 1) アセスメントに必要な小児・家族の理解 2) 看護過程展開方法	大西・岡田
11～12	依存的ケア理論に基づく慢性期患者紙上事例における看護展開方法 (事例2：完全大血管転移症) (ゼミ) 1) アセスメントに必要な小児・家族の理解 2) 看護過程展開方法	大西・岡田
13～14	依存的ケア理論に基づく終末期患者紙上事例における看護展開方法 (事例3：神経芽細胞腫) (ゼミ) 1) アセスメントに必要な小児・家族の理解 2) 看護過程展開方法	大西・岡田
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

III 授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

V 教科書

『オレム看護論入門：セルフケア不足看護理論へのアプローチ』 コニー・M・デニス著 小野寺杜紀監訳
医学書院 1998 [N01/D61]

VI 参考図書

必要時参考文献を配布する。

VII 評価方法

討議への参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。
レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

IX その他

なし

小児看護学評価方法論

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

大西 文子、岡田 摩理、太田 有美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

子どもと母親・家族の自身の健康状態およびセルフケア能力を中心に、参加観察やインタビューおよび発達スクリーニング、フィジカルアセスメントの方法を用いて子どものヘルスアセスメントを行うための方略や技術・技法を修得する。

【到達目標】

1. 小児看護分野における子どもと家族を対象とした研究の種類と方略を理解できる。
2. 子どもの健康状態および発達の評価法の実際を理解できる。
3. 小児看護における QOL の考え方について理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション 小児のセルフケアの考え方、認知発達	大西 文子
2	子どもと母親・家族への参加観察やインタビューの特徴と実際	大西 文子
3	子どもの状況に応じた発達スクリーニング方法	大西 文子
4	子どものフィジカルアセスメント1 (乳児期)	太田 有美
5	子どものフィジカルアセスメント2 (幼児期)	太田 有美
6	子どものフィジカルアセスメント3 (学童期)	太田 有美
7	発達評価法1：発達研究の系譜、DENVER II デンバー発達判定法	岡田 摩理
8	発達評価法2 (ゼミ)：津守・稲毛式乳幼児精神発達診断法	岡田 摩理
9	発達評価法3：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法、新版 K 式発達検査法	岡田 摩理
10	発達研究の技法1：発達研究の基礎	大西 文子
11	発達研究の技法2：発達研究の諸技法 (ゼミ)	大西 文子
12	発達研究の技法3：発達研究の実際 (ゼミ)	大西 文子
13	子どもと家族の QOL 測定方法、成人の QOL との違い、QOL 測定上の問題点	大西・岡田
14	子どもと家族の QOL (ゼミ) 小児看護における QOL 研究の動向	大西・岡田
15	まとめ・授業評価	大西・岡田

III 授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

V 教科書

なし

VI 参考図書

『こどものフィジカル・アセスメント』 小野田千枝子 金原出版 2001 [N12/O67]

他、必要時参考文献を配布する。

Ⅶ 評価方法

討議への参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。

レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

Ⅸ その他

なし

小児看護学演習

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	60

担当教員

大西 文子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護学の専門領域に関連した健康問題の判別能力や小児看護実践能力を向上させるための看護技術および倫理的問題を考慮した研究方法について修得する。

【到達目標】

1. 小児看護実践能力を向上させるために必要な小児看護の専門性を理解できる。
2. 小児看護および小児看護研究を実践するために倫理的配慮を理解できる。
3. 小児看護・医療の側面から、小児の健康に関連する環境の現状について分析し、その特徴と課題及び支援方法を理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション／課題提示	大西 文子
2	高度実践看護師（APN）の役割と活動	大西 文子
3	日本における専門看護師の機能と役割・今後の展望	大西 文子
4	小児看護の倫理① 子ども・家族と法	大西 文子
5	小児看護の倫理② 子どもの権利の現状と課題に対する看護（ゼミ）	大西 文子
6	小児看護の倫理③ マルトリートメント	大西 文子
7	小児看護の倫理④ マルトリートメントの現状および課題と求められる看護（ゼミ）	大西 文子
8	小児看護の倫理⑤ 子どもと家族の権利擁護	大西 文子
9	小児看護の倫理⑥ 子どもと家族の権利擁護の現状および課題と求められる看護（ゼミ）	大西 文子
10	小児の療養環境と看護① 日本・外国の療養環境の現状の比較	大西 文子
11	小児の療養環境と看護② 現在の日本の療養環境の課題への取り組み（ゼミ）	大西 文子
12	小児看護管理の現状と課題① 小児科外来と小児病棟	大西 文子
13	小児看護管理の現状と課題② リスクマネジメント	大西 文子
14	小児救急医療と看護① 小児救急医療の現状と課題	大西 文子
15	小児救急医療と看護② 家庭看護の現状と小児救急看護のあり方	大西 文子
16	小児看護における看護技術 子ども心身の特徴を踏まえたケア（ゼミ）	大西 文子
17	小児の医療を取り巻く環境の現状分析とその特徴および課題への取り組み	大西 文子
18	小児の在宅看護を取り巻く環境の現状分析とその特徴および課題への取り組み（ゼミ）	大西 文子
19	小児看護におけるきょうだい支援	岡田 摩理
20	小児の災害看護の現状分析とその特徴および課題への取り組み	大西 文子
21	小児の災害看護の課題への取り組み（ゼミ）	大西 文子
22	子どものインフォームド・コンセント／インフォームド・アセント	大西 文子
23	プレパレーション	大西 文子

24	キャリアオーバーの問題と成人移行期支援	大西 文子
25	発達障害の子どもを取り巻く問題	岡田 摩理
26	発達障害の子どもを支えるネットワークと看護	岡田 摩理
27	特別支援学校における看護師の役割	大西 文子
28	子どもの身体的・精神的・社会的問題と支援 不登校・いじめ・犯罪・性行動	大西 文子
29	子どもの生活習慣と健康問題、求められる看護	大西 文子
30	まとめ・授業評価	大西・岡田

Ⅲ 授業方法

第1回～第30回：講義・発表・討論

Ⅳ 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

Ⅴ 教科書

なし

Ⅵ 参考図書

必要時参考文献を配布する。

Ⅶ 評価方法

討議およびプレゼンテーションへの参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。

レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

Ⅸ その他

なし

小児 CNS 機能と役割演習

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	60

担当教員

大西 文子、岡田 摩理、後藤 芳充、太田 有美、田崎 あゆみ、江見 たか江、深谷 基裕

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

既存の研究成果や諸理論の活用、倫理的判断能力、コーディネーション、教育、コンサルテーションの高度な実践技術を学び、複雑な症例について小児と家族及び専門職者に適した援助方法を開発する基礎的能力を修得する。

【到達目標】

1. 困難な健康障害に応じた子どもの発達段階を考慮したヘルスアセスメント方法の実際および適切な看護援助方法を理解できる。
2. 小児看護領域において、子どもと家族に対する看護の実践と倫理的視点から問題と思われる複雑な症例について分析し、解決方法を提示できる。
3. 小児看護領域におけるコーディネーションについて学び、複雑な症例の問題解決のためのコーディネーションの方略について提示できる。
4. 小児看護職者の教育ニーズを分析し、教育計画の立案ができる。
5. 小児看護職者の実践上の悩みの本質を見出し、コンサルテーションを展開できる。
6. 小児看護領域における課題を抽出し、CNSの6つの機能を用いた解決のための方略について、長期的視点で考えることができる。
7. 小児看護における課題を抽出し、チェンジエージェントとしての意識と6つの機能を用いて、解決するための方略を考えることができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーションと演習計画立案	大西・岡田
2	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント① ハイリスク新生児およびNICU看護	江見 たか江
3	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント② 小児外科疾患	後藤 芳充
4	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント③ 代謝性疾患	後藤 芳充
5	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント④ 小児がん	後藤 芳充
6	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント⑤ 慢性疾患	後藤 芳充
7	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント⑥ 脳神経系疾患	後藤 芳充
8	困難な健康障害をもつ子どもの病態とヘルスアセスメント⑦ 障害をもつ子ども	大西 文子
9	人工呼吸器を装着した子どもと家族の看護① 実際とその現状・問題	大西 文子
10	人工呼吸器を装着した子どもと家族の看護② 問題解決支援（ゼミ）	大西 文子
11	二分脊椎の子どもと家族の看護① 実際とその現状・問題	大西 文子
12	二分脊椎の子どもと家族の看護② 問題解決支援（ゼミ）	大西 文子
13	小児1型糖尿病をもつ子どもと家族の看護① 実際とその現状・問題	岡田 摩理
14	小児1型糖尿病をもつ子どもと家族の看護② 問題解決支援（ゼミ）	岡田 摩理
15	脳腫瘍の子どもと家族の看護① 実際とその現状・問題	大西 文子
16	脳腫瘍の子どもと家族の看護② 問題解決支援（ゼミ）	大西 文子
17	複雑性てんかんをもつ子どもと家族の看護① 実際とその現状・問題	大西 文子
18	複雑性てんかんをもつ子どもと家族の看護② 問題解決支援（ゼミ）	大西 文子

19	小児看護における高度実践	深谷 基裕
20	小児看護における退院調整（ゼミ）	太田・岡田・大西
21～22	小児看護における高度実践／倫理調整（ゼミ）事例分析・援助方法の提案	太田・岡田・大西
23～24	小児看護における教育（ゼミ） ニード分析・教育計画立案	田崎・岡田・大西
25～26	小児看護におけるコーディネーション（ゼミ） 事例分析・コーディネーションの方略の提示	田崎・岡田・大西
27～28	小児看護におけるコンサルテーション（ゼミ） ロールプレイによるコンサルテーションの実施・分析	田崎・岡田・大西
29	小児看護における課題と解決への方略（研究）（ゼミ） 事例分析	深谷・岡田・大西
30	まとめ 授業評価 1年間の実践計画立案	大西・岡田

Ⅲ 授業方法

第1回～第30回：講義・発表・討論

Ⅳ 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

Ⅴ 教科書

なし

Ⅵ 参考図書

必要時参考文献を配布する。

Ⅶ 評価方法

演習および討議への参加50%、レポート50%を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。
レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

Ⅸ その他

なし

小児看護支援論

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

大西 文子、岡田 摩理、山崎 嘉久

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を探求するとともに、母子プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、関係専門職および諸機関に対する今後の課題を修得する。

【到達目標】

1. 現在の子どもと家族がおかれている社会・保健・医療・教育の状況を理解できる。
2. 小児プライマリーケアや家族ダイナミクスおよび小児看護・保健サポートシステムの現状を知り、今後の課題を理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション／子どもを取り巻く社会環境の概要	大西 文子
2	子どもを取り巻く社会環境の現状分析① 日本および世界の経済・文化・自然	大西 文子
3	子どもを取り巻く社会環境の現状分析② 日本の家族、保育園・幼稚園、学校	大西 文子
4	母子保健行政と母子保健の現状	大西 文子
5	母子保健法による母子保健施策および事業	大西 文子
6	学校保健行政と学校保健の現状	大西 文子
7	学校保健法による学校保健施策および事業	大西 文子
8	健やか親子 21	大西 文子
9	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	岡田 摩理
10	子育て支援、親の育児困難・不安	大西 文子
11	児童虐待	山崎 嘉久
12	児童虐待防止対策	山崎 嘉久
13	親子保健／ペアレンティングエデュケーション／母子プライマリーケア	岡田 摩理
14	母子保健・学校保健行政および施策への取り組みと調整方法	大西 文子
15	まとめ、授業評価	大西・岡田

III 授業方法

第1回～第15回：講義・発表・討論

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

V 教科書

『厚生指針増刊 国民衛生の動向』 2017/2018 一般社団法人厚生労働統計協会

一般社団法人厚生労働統計協会 2017〔製本雑誌架〕

『厚生指針増刊 国民福祉と介護の動向』 2017/2018 一般社団法人厚生労働統計協会

一般社団法人厚生労働統計協会 2017〔製本雑誌架〕

VI 参考図書

必要時参考文献を配布する。

Ⅶ 評価方法

討議への参加 50%、レポート 50% を合計して評価する。

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。

レポートに対する評価については、後日コメントし返却する。

Ⅸ その他

なし

小児 CNS 機能と役割実習

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	2	選 択	90 時間以上

担当教員

大西 文子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児看護における CNS の 6 つの機能、実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育、研究支援とその役割について、小児看護 CNS と指導教員のスーパービジョンを受けながら、見学等体験を通して、修得する。

【到達目標】

小児看護における高度実践者としての CNS の機能と役割について理解し、具体的な活動へと適用できる基礎を理解できる。

II 授業内容及び計画

1. 実習単位：2 単位（90 時間集中）
2. 実習場所：名古屋第二赤十字病院
3. 実習のすすめかた

小児看護専門看護師が勤務する臨地において、CNS の 6 つの役割と機能の実際を、主体的に見学・参加する。特に実践では、小児看護 CNS と指導教員のスーパービジョンを受けながら、取り組む。

1) 実習内容

(1) 小児看護専門看護師の役割と機能における見学・参加実習内容

- ①小児看護におけるリエゾン看護
- ②コンサルテーション活動
- ③チームアプローチとパートナーシップ
- ④小児看護におけるスタッフ教育
- ⑤その他：コーチング、ファシリテーション、ソリューションフォーカス等

2) 小児看護専門看護師の役割と機能における実践

先天性奇形・疾病および障害等の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族などへの看護を行う。

III 授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

IV 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、次なる学びに発展させる。

V 教科書

なし

VI 参考図書

必要時参考文献を配布する。

VII 評価方法

評価表（60%）、ケーススタディ評価（20%）、討議への参加度（20%）

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。
レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

IX その他

なし

小児看護高度実践実習

(専門科目／臨床実践看護学／小児看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③④	4	選 択	180 時間以上

担当教員

大西 文子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

小児に特徴な先天性奇形・疾病および障害等の難病など難しい病気をもつ子ども・親・家族に対して、ケアを実践することによって、症例の分析、コンサルテーション等を含め、対象の健康生活を維持・促進するための援助を専門看護師として実践できる能力を修得する。

【到達目標】

1. 専門看護師の指導のもと、看護の困難な患者とその親および家族のケアを実践できる。
2. 実習における事例の分析を通して、コンサルテーション、倫理的調整等を含めた高度な実践技術を修得する。

II 授業内容及び計画

実習期間：小児 CNS 役割機能実習終了後～2年

実習場所：名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、あいち小児保健医療総合センター、トヨタ記念病院等

必要に応じて必要な医療福祉教育機関も含む。

実習内容：

専門看護師の指導のもと、下記6項目について、自立して場や状況の開拓を行い、各2事例以上のレポートをまとめ評価を受ける。事例数については、各自の修得状況によって異なる場合もある。

1. 複雑な状況下にある、あるいは解決困難な問題を抱える子どもや親・家族に対して多角的にアセスメントし、エビデンスに基づいた直接ケアを自律的に実践し、評価する。
2. 小児看護師や小児看護領域に携わる医療従事者に対し実施したコンサルテーションについて、その経緯、内容、評価について分析する。
3. 子どもや親・家族、また小児看護師に対し教育的な働きかけを実施し、その目的、内容、実施、結果について評価を行う。
4. 他の専門職との連携や調整を行った事例に対して、その経緯に関する分析と評価を行う。
5. 子どもと家族について権利擁護の観点から、問題となる事象や葛藤に気づき、倫理分析や倫理調整を具体的に実践し評価を行う。
6. 組織のもつ顕在的な研究ニーズの分析や組織で取り組まれている看護における課題を抽出し、看護の質の向上のための研究的アプローチの方策について考察・実践する。

III 授業方法

期間中、実習内容について振り返り、スーパービジョンを受けながら、実習内容の改善を図る。

III 時間外学習

主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要であり、予習・復習をし、十分な時間を使って学び、客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明確にして、つぎなる学びに発展させる。

IV 教科書

なし

V 参考図書

必要時参考文献を配布する。

VI 評価方法

評価表 (40%)、ケーススタディ評価 (20%)、プロセスレコード評価 (20%)、討議への参加度 (20%)

VII フィードバック

学生のプレゼンテーションにおいて、その場でフィードバックする。

レポートに対する評価は、後日コメントして返却する。

VIII その他

なし

臨床実践看護学・精神看護学

精神保健医療論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神的な問題を持つ人の支援に有用な精神保健医療、福祉の制度や体制を理解したうえで、患者と家族の基本的な人権を保障し、QOL向上をめざす精神医療の展望を探求する。

【到達目標】

1. 看護実践上の法的・倫理的概念、健康行動、ソーシャルサポート、エンパワメント、自立支援の概念が理解できる。
2. 地域の社会資源・施設の有効活用、支援に必要な資源開発の観点、および現状の医療制度における高度専門看護職の機能について説明できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	講義ガイダンス：精神保健医療福祉政策と社会の諸側面	村瀬 智子
2	精神保健福祉法の歴史	村瀬 智子
3	精神障害者の現状と国際比較	村瀬 智子
4	精神障害とスティグマ	村瀬 智子
5	精神保健福祉法と入院制度	村瀬 智子
6	精神障害者の生活支援制度	村瀬 智子
7	精神障害と法律	村瀬 智子
8	精神保健医療政策と医療経済	村瀬 智子
9	精神科リハビリテーションの概念（社会療法を含む）	村瀬 智子
10	エンパワメントとセルフヘルプグループ	村瀬 智子
11	精神障害者の人権とアドボカシー	村瀬 智子
12	精神看護学における倫理的課題	村瀬 智子
13	産業保健とメンタルヘルス	村瀬 智子
14	学校保健とメンタルヘルス	村瀬 智子
15	まとめ 高度実践看護師の機能と役割、その展望	村瀬 智子

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

精神保健医療福祉の基盤となる制度や法律を歴史的に概観した上で、具体的な看護ケアの方向性を演習で探求するためには、十分な講義の予習・復習が必要不可欠です。1 講義の準備と復習に少なくとも1週間程度が必要となります。

V 教科書

『精神保健－現代の視点と展開』 上郡博編著 看護の科学社 [493.79/Ka37]

VI 参考図書

『現代精神医学原論』 ナシア・ガミー著 村井俊哉訳 みすず書房 [493.7/G39]

『メンタルケア論1、2』 メンタルケア協会編 メンタルケア協会 [490.14/Me54/1,2]

『日本精神病治療史』 八木剛平 金原出版 [493.7/Y15]

『西欧精神医学背景史』 中井久夫 みすず書房 [439.7/N34]

『精神保健福祉白書 2015年版』 精神保健福祉白書編纂委員会 中央法規出版 [369.28/Se19/統計・白書コーナー]

『看護に必要な精神保健制度ガイド』 植田俊幸、佐々木明子編 中山書店〔N26/U48/3rd〕
『新・看護者のための精神保健福祉法Q & A』 日本精神科看護技術協会編〔369.28/N71/15〕
他、適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔40%〕、プレゼンテーション〔40%〕、小論文〔15%〕

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

精神健康行動評価論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、大島 泰子、服部 希恵

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神病理のアセスメントと診断のための概念と理論、精神の健康生活の評価の方法を学ぶ。

【到達目標】

1. 精神障がいの病因・徴候・経過と予後についてライフスパンにおいて捉え理解できる。
2. DSM-5 や ICD-10 などの精神障がい診断基準について比較検討し、看護の視点から評価できる。
3. 精神状態を評価する様々な評価尺度の活用方法について理解できる。
4. ライフステージやライフコースに応じた評価尺度の選択について理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	講義ガイダンス / 高度実践看護師の機能と役割	村瀬 智子
2	看護過程と看護診断	村瀬 智子
3	看護面接技術と情報収集	村瀬 智子
4	精神状態のアセスメント (Mental Status Examinations)	大島 泰子
5	心理社会的アセスメントと評価	村瀬 智子
6	精神障害診断基準：DSM-5 と ICD-10	大島 泰子
7	統合失調症の理解と評価	大島 泰子
8	感情障がいの理解と評価	村瀬 智子
9	認知機能障がいの理解と評価	村瀬 智子
10	自殺のアセスメント	村瀬 智子
11	不安・抑うつ・怒り・攻撃性のアセスメントと評価	村瀬 智子
12	暴力被害サバイバーのアセスメント	村瀬 智子
13	薬物・アルコール使用のアセスメント	村瀬 智子
14	精神身体合併症とフィジカル・アセスメント	村瀬 智子
15	まとめ：精神保健医療において看護の視点でアセスメントし評価判定することの意義と重要性について討論する。	村瀬・服部

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

なし

VI 参考図書

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]

『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014 [493.72/A44/5th]

『ICD-10 精神および行動の障害：臨床記述と診断ガイドライン』 WHO 編 融道男他訳 医学書院 [493.72/W67]

『看護診断ハンドブック』 第10版 リンダ J. カルペニート 竹花富子訳 医学書院 [N74.1/C21/10th]

『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017』 T. ヘザー・ハードマン編 中木高夫訳 医学書院 [N74.1/N48/15-17]

『ケアの評価とナースサポート』 精神看護エクスペール9 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/9]

『身体合併症の看護』 精神看護エクスペール3 第2版 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/3]

『衝動性と精神看護』 精神看護エクスペール20 坂田三允総編集 中山書店 [N20/Sa37/20]

『統合失調症急性期看護マニュアル』 阿保順子編 すびか書房 [N21/A14/2nd]

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]

『Physical examination & health assessment』 Jarvis, C : (7th ed.) , Saunders. [N10.12/J25/7th]

『心理社会的援助の看護マニュアル』 Gorman, L. M., Sultan, D. F., & Raines, M. L. 池田明子訳 医学書院 [N01.2/G68]

『抗精神病薬の「身体副作用」がわかる』 長嶺敬彦 医学書院 [493.763/N15]

他、適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

受講態度（5%）、討論参加（30%）、プレゼンテーション（50%）、小論文（15%）

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

精神健康行動ケア特論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、服部 希恵、牛山 喜久恵

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神保健医療を、メンタルヘルス・リエゾンを含めた幅広い視点でとらえ、精神保健医療チームの中で精神看護専門家として卓越した高度実践ができるために、必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論、セルフケア、ストレスマネジメント、リエゾン精神看護といった基礎概念や理論をライフスパンの視点を通して理解できる。
2. メンタルヘルス領域において支援するための概念や理論の効果的な適用方法が理解できる。
3. 高度精神看護師の精神科看護及びメンタルヘルスにおける役割の方向性や、看護の課題、ケアの基準について説明できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	講義ガイダンス / 社会のニーズと高度実践専門職の課題	村瀬 智子
2	対人関係論 (トラベルビー)、行動システム (ジョンソン)	村瀬 智子
3	危機理論とセルフケア理論	原田 真澄
4	ストレスコーピングと適応	原田 真澄
5	ライフスパン (児童、青少年、成人、高齢者) の視点から捉えたケアの特徴	原田 真澄
6	暴力の評価とアンダーコントロール	原田 真澄
7	トラウマ、虐待、DV の評価と対処	原田 真澄
8	慢性疾患患者の治療における心理学的側面	村瀬 智子
9	ターミナルケア、グリーフケア	原田 真澄
10	せん妄の評価と対処	原田 真澄
11	AIDS の精神医学的側面	村瀬 智子
12	アサーション (コーチング、リーダーシップを含む)	村瀬 智子
13	看護師のメンタルヘルス支援	村瀬 智子
14	組織的援助活動のダイナミクス: 病院組織の文化と病者の世界-認知行動特性	村瀬・服部
15	身体と健康障害とこころの問題: 疼痛、治療方法、予後への不安、受容に関連する心身の症状 (終末期ケア、緩和ケア)	村瀬・牛山

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

『リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために』 野末聖香編著 医歯薬出版 2004 [N20/N98]

VI 参考図書

『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014

[493.72/A44/5th]

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]
その他、適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

精神科治療と看護

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、石黒 千映子、平野 千晶、山田 浩雅、加藤 明美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護介入として、対象のライフステージに応じた精神領域の個別のセラピーができるために、精神領域で適用される、身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について学ぶ。

【到達目標】

1. 身体医学的治療、薬物療法、社会心理的療法について説明できる。
2. 心理社会的療法について、訓練を受けた専門家が言語を用いて実施する精神心理療法と病理に直接働きかける療法について概念・理論・研究・実践の基本を理解できる。
 - (1) 精神心理療法（精神分析、交流分析／人間関係アプローチ、理感情行動療法（REBT）、現実療法／実存主義的アプローチ、行動療法・認知療法・認知行動療法など）について説明できる。
 - (2) 洞察的精神療法、表現的精神療法、イメージ療法について説明できる。
 - (3) 広義の精神療法として集団・家族・環境療法や補完・代替療法について説明できる。
 - (4) 療法の各ライフステージへの適用、適切な看護介入について考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	講義ガイダンス 精神科治療と高度実践看護師の役割	村瀬 智子 加藤 明美
2	身体医学療法：薬物動態学と薬力学・薬物代謝	平野 千晶
3	精神薬物療法：看護師の役割	村瀬 智子
4	精神薬物療法	山田 浩雅
5	社会・心理的療法：精神分析、交流分析／人間関係アプローチ	石黒 千映子
6	社会・心理的療法：現実／実存主義的アプローチ	石黒 千映子
7	社会・心理的療法：行動、認知、認知行動療法、REBT	石黒 千映子
8	社会・心理的療法：洞察、表現、イメージ療法	石黒 千映子
9	集団療法	村瀬 智子
10	家族療法	原田 真澄
11	環境療法	村瀬 智子
12	補完・代替療法	村瀬 智子
13	演習：各アプローチの代表的理論家、治療のゴール、期待する状態の変化、治療テクニック・看護への適用を比較検討する。	村瀬 智子
14	演習：精神科治療において、ライフスパンを幅広く包括する看護介入の重要性について検討する。	村瀬 智子
15	まとめ：治療における高度看護実践の方向性について討論する。 討論全体の総括：主担当 教育・研究の視点提供：主担当 臨地実践の視点の提供：CNS 他	CNS 他 担当教員全員

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた

予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

必要時、提示します。

VI 参考図書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/10th]
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing』 Stuart, G & Laraia, M: Mosby [N20/St9/9th]
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014 [493.72/A44/5th]

『カウンセリングの理論』 国分康孝 誠信書房 [146.8/Ko45]

『グループサイコセラピー—ヤーロムの集団精神療法の手引き』 Yalom, I. D. Vinogradov, S, 著
川室優訳 金剛出版 [146.8/Y17]

『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』 宇佐美しおり、野末聖香編集 日本看護協会出版会 [N20/U92]

『専門看護師の思考と実践』 井部俊子、大生定義監修 医学書院 [N89/Se71]

VII 評価方法

受講態度 (5%)、討論参加 (30%)、プレゼンテーション (50%)、小論文 (15%)

※提示する評価表の項目に沿って評価する。

VIII フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

IX その他

なし

心身の健康と環境看護論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

人間は開放系として、環境との相互作用を行いながら生活を営んでいる。したがって、環境の影響は全人的な健康を保持・増進する上で重要な要因となる。本科目では精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直す。その上で、環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、ストレスを活かしながら自己決定を支える看護の視点から具体的事例に基づき論考する。

【到達目標】

1. 全人的な健康を保持・増進する上で、環境が重要な影響要因であることが理解できる。
2. 精神看護学の基盤となる理論を統合的に再構成し、広義の“環境”を文化、家族構造、生活環境など多様な観点から捉え直すことができる。
3. 環境との相互作用の過程で生じる心身の統合・崩壊過程と病との関係性について、家族構造や生活環境の変化の観点から述べるができる。
4. ストレスを活かしながら自己決定を支える看護という視点から具体的事例を検討することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス 及び 心身の健康と環境看護	村瀬 智子
2	文化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
3	文化と心身の健康（実践編）：自閉症、広汎生発達障害	原田 真澄
4	家族構造の変化と心身の健康（理論編）	原田 真澄
5	家族構造の変化との心身の健康（実践編）：虐待、育児放棄、老年期精神病	原田 真澄
6	生活環境の変化と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
7	生活環境の変化と心身の健康（実践編 1）：環境汚染病、過敏症、依存症	村瀬 智子
8	生活環境の変化と心身の健康（実践編 2）：急性ストレス障害、適応障害、摂食障害、高次脳機能障害	原田 真澄
9	統合・崩壊過程と心身の健康（理論編）	村瀬 智子
10	統合・崩壊過程と心身の健康（実践編）：統合失調症、人格障害	原田 真澄
11	病の進化論とライフサイクル（理論編）	村瀬 智子
12	病の進化論とライフサイクル（実践編）：ライフサイクルにおける気分障害、認知症	原田 真澄
13	ストレスを活かし自己決定を支える精神看護	村瀬 智子
14	構造主義の観点から捉えた環境看護論	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本科目を受講するためには、全人的な健康とは何かということを改めて問い直し、文化、家族、生活を含み広義の“環境”という概念を検討するための基本的知識が必要です。その上で、精神疾患について捉えなおすことが求められます。そのため、本科目を受講するにあたっては、教科書や参考図書などを事前に十分予習して授業に臨み、その後は授業で学んだことや、引用された文献を読み直すなど、学びを振り

返る復習が必要不可欠です。予習復習は、1回の授業につき少なくとも1週間程度が必要です。

V 教科書

『人間エコロジーと環境汚染病：公害医学序談』 セロン・G・ランドルフ著 農山漁村文化協会 1986 [498.48/R14]

VI 参考図書

『生命とストレス』 ハンス・セリエ 工作舎 1997 [491.349/Se49]

『Florence Nightingale Today』 B. M. Dossey, L. C. Selanders, D. M. Beck and A. Attewell
American Nurses Association, Silver Spring, Maryland 2005 [N02.8/N71]

『The Strengths Model 3rd』 C. A. Rapp & R. J. Goscha Oxford University Press 2012 [369.28/R17]

『文明と病気 上下 (岩波新書青版 850,851)』 H. E. シゲリスト 岩波書店 1973 [080/I95/850,851]

『生涯発達心理学 新版』 B. M. Newman & P. R. Newman 川島書店 1988 [143/N68]

『はじめての構造主義 (講談社現代新書 898)』 橋爪大三郎 講談社 1988 [080/Ko19/898]

『化学物質過敏症 (文春新書 230)』 柳沢幸雄、石川哲、宮田幹夫 文藝春秋 2002 [080/B89/230]

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

VII 評価方法

受講態度 (5%)、討論参加 (40%)、プレゼンテーション (40%)、小論文 (15%)

VIII フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせて行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

IX その他

特になし

精神看護学教育論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神科看護で用いられる“癒しの技”は、個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい“目に見えない技”である。そのため、その“癒しの技”を教育する方法は、これまでには徒弟的な伝承に依るところが多かった。本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠である精神看護学教育の方法論について検討する。具体的には、認識論を基盤として、看護学基礎教育における実践例をもとに、精神看護学の教育方法について論考する。

【到達目標】

1. 個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい精神科看護の“目に見えない技”を教育する方法論について検討することができる。
2. 認識過程におけるメタ認識について理解し、看護過程と教育過程の同型性を論考することができる。
3. 認識論を基盤として、看護学基礎教育及び継続教育における教育方法について実践例をもとに考察することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス 及び 精神看護学教育法における現状と課題	村瀬 智子
2	精神看護学教育の特性	原田 真澄
3	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（理論編）	村瀬 智子
4	看護学基礎教育における精神看護学の教育方法（実践編）	原田 真澄
5	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（理論編）	村瀬 智子
6	臨床実践における精神看護学の継続教育方法（実践編）	原田 真澄
7	精神看護学における“癒しの技”と直観（理論編）	村瀬 智子
8	精神看護学における“癒しの技”と直観（実践編）	原田 真澄
9	認識の進化と精神看護学（理論編）	村瀬 智子
10	認識の進化と精神看護学（実践編）	村瀬 智子
11	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（理論編）	村瀬 智子
12	精神看護における対象認識からメタ認識への転換（実践編）	村瀬 智子
13	精神看護における認識過程（理論編）	村瀬 智子
14	精神看護における認識過程（実践編）	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬 智子

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本科目では、精神看護学研究・教育者コースとして獲得することが必要不可欠である精神看護学教育の方法論について検討します。そのためには、教育過程の基盤となる認識論を学び、具体的な教育過程を検討することが必要になります。授業内容は広範囲でかつ深い内容ですので、十分な予習復習が必要になります。少なくとも1回の授業について、1週間程度の予習復習時間が必要です。

V 教科書

『技を育む』 神田橋條治 中山書店 2011〔493.7/Ka51〕

VI 参考図書

『発生的認識論』 ジャン・ピアジェ 白水社 1972〔143/P58〕

- 『Exploring the Interface between the Philosophy and Discipline of Holistic Nursing』
 H. L. Erickson, editor Unicorns Unlimited, Createspace 2010 [N01.0/E67]
 『精神医学的面接』 H. S. サリヴァン みすず書房 1986 [493.72/Su55]
 『認識の生物学：理性の系統発生的基盤』 R. リードル 思索社 1990 [461/R38]
 『暗黙知の次元』 マイケル・ポラニー 紀伊國屋書店 1980 [115/P75]
 『援助技法としてのプロセスレコード』 宮本真巳編著 精神看護出版 2003 [N85.1/Mi77]
 『科学的看護論』 薄井坦子 日本看護協会出版会 1997 [N04/U95/3rd]
 『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
 原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

Ⅶ 評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

特になし

精神看護学原論

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	1	選 択	15

担当教員

村瀬 智子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

看護学を探究するためには、これまでの物質科学の方法では捉えきれない人間に関する統合的理解に基づく創造的なアプローチが必要である。特に、精神看護学では、精神障害をもつ人の意識や無意識といった目には見えない心の世界を捉えるために、心の世界の表現である言動の意味を全体論的な観点に立って、深く洞察することが必要である。本科目では、看護者としての自己理解を含め、精神障害をもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーション論などの諸理論について、精神看護学の原点に立って論考する。

【到達目標】

1. 精神障害をもつ人の意識や無意識という目には見えない心的世界の表現である言動の意味を全体論的な観点に立って深く洞察することができる。
2. 看護者としての自己理解を含め、物質科学と生命科学の相違を理解することができる。
3. 精神障害をもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーションなどの諸理論について、精神看護学の原点に立って論考することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス 及び 全体論と心身の健康	村瀬 智子
2	科学基礎論 - 物質科学と生命科学	村瀬 智子
3	精神障害をもつ人の言動の意味と現象学	村瀬 智子
4	精神看護ケアの場における論理	村瀬 智子
5	精神と環境	村瀬 智子
6	自己と他者 - コミュニケーション論	村瀬 智子
7	弁証法と主観-客観の対立的共存	村瀬 智子
8	まとめ	村瀬 智子

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本科目は、精神障害をもつ人の言動の意味を理解する上で基盤となる現象学、精神生態学、弁証法、コミュニケーションなどの諸理論について理解しようとする主体的な学習が求められます。それらの予習を踏まえて、精神看護学の原点に立ち返り、精神看護学とは何かについて論考することを目的に授業を行います。授業内容は広範囲でかつ深い内容ですので、十分な復習も必要になります。少なくとも1回の授業について、1週間程度の予習復習時間が必要です。

V 教科書

『看護の原理：ケアすることの本質と魅力』 菱沼典子、井上智子、武田利明編集・執筆
ライフサポート社 2009 [N01/H76]

VI 参考図書

- 『西田幾多郎 哲学論集II 論理と生命』 上田閑照編 岩波文庫 1988 [080.1/N81]
『歴史としての生命』 村瀬雅俊 京都大学学術出版会 2000 [461/Mu57]
『精神のコミュニケーション』 G.ベイトソン&J.ロイシュ 新思索社 1995 [493.7/B27]
『精神の生態学』 改訂第2版 G.ベイトソン 新思索社 2000 [389.04/B27/2nd]
『免疫の意味論』 多田富雄 青土社 1993 [491.8/Ta16]

『精神科看護－原理と実践－』 Stuart , G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン
原文『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

Ⅶ 評価方法

受講態度（5%）、討論参加（40%）、プレゼンテーション（40%）、小論文（15%）

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

特になし

メンタルヘルスと司法看護学

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	2	選 択	30

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、加藤 明美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神の健康の増進と病気予防に関する理論と実際を学び、メンタルヘルスにかかわる看護の役割を考察する。

【到達目標】

1. ストレス、危機、防衛機制の概念と理論が理解できる。
2. 発達段階と家庭・学校・職場におけるメンタルヘルスについて説明できる。
3. 司法に関わる暴力（児童虐待、親密なパートナーからの暴力、高齢者虐待など）やそのトラウマがメンタルヘルスに及ぼす影響を検討し、看護の役割についての自己の考えを討論の場で展開できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	授業ガイダンス、メンタルヘルス支援と司法精神看護	村瀬 智子
2	発達課題と家庭や学校におけるメンタルヘルスの問題	村瀬 智子
3	学童期のメンタルヘルス支援の必要性和支援技法：自己への気づきとアサーション	村瀬 智子
4	演習：学校看護における家族相談家族システムのアセスメント	村瀬 智子
5	思春期の課題とメンタルヘルスケア：ケアの基本と技法	加藤 明美
6	演習：思春期の課題：引きこもりのアセスメントと支援プログラム	村瀬 智子
7	演習：思春期の課題（キレる子供・生徒・学生）：問題の理解とアサーション、怒り・衝動のコントロール支援プログラムの作成	村瀬 智子
8	職場の健康管理：メンタルヘルスの現状と支援の現状	村瀬・原田
9	演習：職場のメンタルヘルスケア：メンタルヘルスケアとプログラム作成の基本	村瀬・原田
10	ドメスティックバイオレンスの現状と法制度・社会的支援の仕組み（多職種連携を含む）	原田 真澄
11	子供への虐待の実態と病理	原田 真澄
12	トラウマを持つ子供への支援	原田 真澄
13	虐待と夫婦間の虐待：問題の理解と社会的課題、支援	原田 真澄
14	介護者による虐待の課題と支援	村瀬 智子
15	まとめ	村瀬・原田

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的、自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後にも、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

適宜資料を配布する。

Ⅵ 参考図書

- 『法医学と看護』 改訂2版 澤口聡子著 鹿島出版会〔498.9/Sa93/2nd〕
『司法精神看護』 Chris Chaloner, Michael Coffy 著 川野雅資訳 真興貿易(株)医書出版部〔N20/C31〕
『フォレンジック看護』 加納尚美他編集 医歯薬出版株式会社〔N20/Ka58〕
『心的外傷と回復』 <増補版> Judith Herman 著 中井久夫、小西聖子訳 みすず書房〔493.7/H53〕
『知っていますか？ドメスティック・バイオレンス一問一答』 日本DV防止・情報センター
解放出版社〔367.1/N71/4th〕
『Q&A 児童虐待防止ハンドブック』 児童虐待問題研究会編 ぎょうせい〔367.6/J48/2nd〕
『Forensic Nursing Science』 Mosby 2版〔498.9/L99/2nd〕
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association〔編〕 医学書院
2014〔493.72/A44/5th〕
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub〔493.72/A44〕

Ⅶ 評価方法

授業態度〔5%〕、討論参加〔30%〕、プレゼンテーション〔50%〕、小論文〔15%〕

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び講義とそれに続くグループ討議を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

なし

精神科治療と看護演習

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選 択	60

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、平野 千晶

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護における専門家として、個人、家族および集団に対し、ライフスパンにおいて対象を捉え、急性期、回復期、維持期といった障害の回復段階に応じて卓越した働きかけができるために必要な知識と技術を学ぶ。

【到達目標】

1. 問題解決、症状管理、再発予防、精神リハビリテーションといった看護場面において卓越した実践を行うための重要なポイントについて理解できる。
2. 問題解決、症状管理、再発予防、精神リハビリテーションといった看護場面において卓越した実践を行うための支援方法について理解できる。
3. ライフスパンにおいて対象を理解し、ライフステージに応じた具体的な支援方法を考察できる。
4. 事例検討や討議をとおして、学んだ知識と技術を多様な場面へ適用できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	演習ガイダンス、精神障がい回復段階に沿った高度看護実践	村瀬 智子
2	討議：環境管理 - ミリユーセラピーと急性期相互作用の治療的意義 - 回復過程と治療的環境、ケアの継続性と人のライフスパン	村瀬 智子
精神科リハビリテーション		
3	統合失調症（事例演習）：アセスメントと診断	平野 千晶
4	統合失調症急性期：急性期入院患者の疾病認知と服薬管理	平野 千晶
5	疾病管理の心理教育プログラム構成	平野 千晶
6	入院患者の問題行動の理解とケア	平野 千晶
7	急性期入院患者家族の心理社会的問題とケア	平野 千晶
8	急性期患者の家族教室のプログラム構成	平野 千晶
統合失調症回復期～社会復帰期：		
9	社会資源とケースマネジメント	村瀬 智子
10	退院支援における環境のアセスメント	村瀬 智子
11	就業支援とリハビリテーション	村瀬 智子
12	地域生活支援と疾病管理指導・再発予防	村瀬 智子
13	多職種連携とケースマネジメント	村瀬 智子
14	ピアカウンセリングの意義	村瀬 智子
15	家族支援と家族教室	村瀬 智子
16	外来支援・訪問看護によるケアの実際と可能性	村瀬 智子
17	複合的な問題を持つ人のケースマネジメント	村瀬 智子
発達障害（事例演習）		
18	診断・アセスメント・治療	平野 千晶
19	外来支援、訪問支援における看護の役割	原田 真澄
20	地域における家族支援・親子支援	原田 真澄
21	発達障害児の理解と関わり	原田 真澄
22	発達障害児の家族支援・親子支援と看護	原田 真澄

心理社会的アプローチ（事例演習）		
23	集団療法	村瀬 智子
24	家族療法	村瀬 智子
25	環境療法、補完・代替療法	村瀬 智子
ライフスパンにおける対象の理解と看護実践（事例演習）		
26	障害の回復段階における児童・思春期のケア－1	村瀬 智子
27	障害の回復段階における児童・思春期のケア－2	村瀬 智子
28	障害の回復段階における高齢者の看護のケア－1	村瀬 智子
29	障害の回復段階における高齢者の看護のケア－2	村瀬 智子
30	まとめ：入院から地域生活への継続ケアの現状と今後の支援の可能性	村瀬 智子

*学習内容は受講生の状況によって、前後することがある。

Ⅲ 授業方法

講義、発表、討論、演習

Ⅳ 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

Ⅴ 教科書

必要時、提示します。

Ⅵ 参考図書

『精神科看護－原理と実践－』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
 原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]
 『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014
 [493.72/A44/5th]

『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]

Ⅶ 評価方法

受講態度（5%）、討論への参加（30%）、課題（65%）（プレゼンテーション（45%）、レポート（20%））

Ⅷ フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

精神科治療と看護の事前履修が望ましい。

精神健康行動評価演習

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	2	選択	60

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

個人・集団・家族療法と援助に関して、対象のライフステージに幅広く対応した高度な看護実践における活用・応用力を養う。

【到達目標】

討論、模擬事例、ロールプレイ、視覚的教材、体験学習の演習を通して、人のライフスパンにおける複雑な場面に対して、包括的アセスメントと対人的関係技術を適用できる。

II 授業内容及び計画

急性期患者の高度なアセスメントと対人的関係技術：

様々な急性期症状をもつ個人とその家族への支援について、模擬事例とロールプレイのプロセスレコードを分析し、対象理解、自己理解を深め、高度なアセスメント、対人的関係技術を習得する。

(特に統合失調症、感情障害、人格障害、アルコール、薬物乱用などによって幻覚、暴力、重度うつ、操作性をきたす個人とその家族のアセスメントと、ケア能力に焦点をあてる。対象のライフステージの違いにより、想定される問題や課題含む)

家族アセスメントと支援：

学んだ家族療法の理論を適用し、自分の家族または承諾の得られた支援事例を分析することにより、システムズアプローチの理論と展開技術の理解を深める。

(例：ボーエンの家族療法理論により、家族を概念付けし、作成した面接ガイドによりデータ収集し、分析する。)

集団のアセスメントと集団療法：

グループでの経験的トレーニングとして、小グループ活動のビデオ撮影（計7回）、観察、分析によりグループ・ダイナミクスを学ぶ。学生は自らの他者とのかかわりのパターンを吟味検討し、小グループにおいて、いくつかみられる予知可能で系統的な方法（あり方）を学ぶ。

<概要>

- 7回のグループ・ディスカッションのビデオ撮影とする。
- 形式やディスカッションのテーマは、一回目のグループ・ディスカッションで話し合ってから決める。(ビデオ撮影に含まれる)
- 毎回、講義の最初の45分間はグループ・ディスカッションとする。
- 次回の講義までに、時間のあるときに、各自ビデオを見直し、理論をもとに分析してA4サイズ1～2枚程度のレポートにまとめ提出する。
- 2回目以降の講義ではビデオ撮影終了後、先回のグループ活動の振り返りをする。

回数	内 容	担 当 者
1	演習ガイダンス、アセスメントと対人的関係技術	村瀬・原田
2	ロールプレイとプロセスレコード分析1	村瀬 智子
3	アセスメントと対人的関係技術： ライフスパンにおける幅広い対象の理解	村瀬 智子
4	アセスメントと対人的関係技術： ロールプレイとプロセスレコード分析2	村瀬 智子
5	家族療法理論のクリティーク	原田 真澄
6	ボーエンの家族療法理論のクリティーク 23回から28回（6回）のプレゼンテーションのための課題提起	原田 真澄
7	グループ・プロセスの理解	村瀬・原田

8	グループ・ダイナミクス1: グループ討議によるテーマの設定とグループ討論(45分間)の第1回ビデオ撮影 撮影したビデオの運営についてグループで決定する。	村瀬・原田
9	グループ・ダイナミクス:抵抗	村瀬・原田
10	グループ・ダイナミクス2:第2回ビデオ撮影 グループ討論による第1回ビデオの振り返りと分析	村瀬・原田
11	グループ・ダイナミクス:コミュニケーション・パターン	村瀬・原田
12	グループ・ダイナミクス3:第3回ビデオ撮影 グループ討論による第2回ビデオの振り返りと分析	村瀬・原田
13	グループ・ダイナミクス:グループメンバーの役割	村瀬・原田
14	グループ・ダイナミクス4:グループメンバーの力 第4回ビデオ撮影 グループ討論による第3回ビデオの振り返りと分析	村瀬・原田
15	グループ・ダイナミクス:グループの基準	村瀬・原田
16	グループ・ダイナミクス5:第5回ビデオ撮影 グループ討論による第4回ビデオの振り返りと分析	村瀬・原田
17	グループ・ダイナミクス:グループの凝集性	村瀬・原田
18	グループ・ダイナミクス6:第6回ビデオ撮影 グループ討論による第5回ビデオの振り返りと分析	村瀬・原田
19	グループ・ダイナミクス:グループの発展段階	村瀬・原田
20	グループ・ダイナミクス7:第7回ビデオ撮影 グループ討論による第6回ビデオの振り返りと分析 グループの成長過程について振りかえり分析する。	村瀬・原田
21	グループダイナミクス:グループリーダーの役割と責任	村瀬・原田
22	グループダイナミクス8: グループ討論による第7回ビデオの振り返り 全体のグループの成長過程について振り返り分析する。	村瀬・原田
23	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:ボーエン家族療法による自己家族の分析-1	原田 真澄
24	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:ボーエン家族療法理論による自己家族の分析-2	原田 真澄
25	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:ボーエン家族理論による自己家族の分析-3	原田 真澄
26	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:カルガリー家族理論による統合失調症の母親を持つ家族の分析と支援	原田 真澄
27	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:ミラノ派家族理論によるアルコール依存症を持つ家族の分析と支援	原田 真澄
28	家族システムアセスメントと支援-学生による発表と討論 仮テーマ:ミニューチンの家族理論による摂食障害児を持つ家族の分析と支援	原田 真澄
29	まとめ:高度実践看護師に求められるライフスパンにおいて対象を捉える、高度なアセスメント技術と看護実践について討論する。	村瀬・原田
30	まとめ:高度実践看護師に求められる高度なアセスメント技術と看護実践について討論する。	村瀬・原田

Ⅲ 授業方法

講義、発表、討論、演習

Ⅳ 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

『ファミリーナーシングプラクティス－家族看護の理論と実践』 森山美知子、鞠子英雄 医学書院 [N51/Mo73]
『家族療法テキストブック』 日本家族研究家族療法学会編 金剛出版 2013 [146.8/N71]
必要時、提示します。

VI 参考図書

『精神科看護：原理と実践』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/9th]
『グループサイコセラピー－ヤーロムの集団精神療法の手引き』 Irvin D. Yalom Sophia Vinogradov 著
川室優訳 金剛出版 [146.8/Y17]
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014
[493.72/A44/5th]
『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]
『家族療法技法ハンドブック』 ロバート・シャーマン、ノーマン・フレッドマン 星和書店
[146.8/Sh14]
『家族評価－ポーエンによる家族探究の旅』 Michael E. Kerr & Murray Bowen 金剛出版 2001
[493.72/Ke58]
『家族療法入門 システムズアプローチの理論と実践』 遊佐安一郎著 星和書店 1984 [146.8/Y99]
『家族療法的カウンセリング－21世紀カウンセリング叢書』 亀口憲治 駿河台出版社 2003
[146.8/Ka33]

VII 評価方法

授業態度 5% 討論への参加 30% 課題 65% (プレゼンテーション 45%、レポート 20%)

VIII フィードバック

各回の授業は、学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

IX その他

精神健康行動評価論の事前履修が望ましい。

学生は自らの他者とのかかわりのパターンを吟味検討し、小グループにおいて、いくつかみられる予知可能で系統的な方法（あり方）を学ぶ。

1. 学生はグループでの経験によりグループダイナミクスを学ぶ。
2. 学習はビデオ撮影したグループ活動を観察・分析することで促進される。
小グループによる学習は、分析的社会理論の観点から行われる。

精神看護援助方法の開発演習

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②③④	2	選 択	60

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、大島 泰子、服部 希恵

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

高度な看護実践において活用・応用力を養い、効果的な援助方法を開発する。

【到達目標】

1. 「精神 CNS 機能と役割実習」と「精神看護高度実践実習」のフィールドで実際に起こってきた、精神科保健医療としての精神科臨床とメンタルヘルスの問題からテーマを選択し、文献（概念・理論・研究）とフィールドワーク（経験）により看護援助方法について探究できる。
2. 治療環境としての施設のアセスメントにより把握した実習施設の特徴を踏まえて、治療的な相互作用の分析、入院、外来における患者と家族のケア及び相談、連携、指導に関するアクティブな事例や課題をテーマとして、高度実践を推進する力を養うことができる。
3. 幅広い対象（ライフスパン、ケアの場の設定）について事例を提示し検討できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	演習ガイダンス 施設機能分析と看護機能強化の焦点： フレームワークの提示と説明（地域、施設の特徴と人的資源、連携、機能、施設内文化）	村瀬 智子
2	施設アセスメント演習： 学生が実施した施設アセスメントをもとに、治療的環境を分析し、治療的な側面の強化と問題の改善方法について検討する。	村瀬 智子 大島 泰子
総合病院入院患者におけるリエゾン機能と事例		
3	<成人・高齢者> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療事例における葛藤、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他）	村瀬 智子 服部 希恵
4		
5	<乳幼児・小児> 学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討： （インフォームドコンセントに絡む問題、ターミナルケアをめぐる意思決定、治療をめぐる親族間の葛藤、家族介護者の心の問題、治療不応、関係性の破綻、拒否、暴力等その他）の検討	村瀬 智子 服部 希恵
6		
学生によるフィールドからの事例と問題の提起とその検討		
7	慢性疾患に関連した課題と看護援助方法： 糖尿病・循環器系疾患・脳血管系疾患・精神身体的合併症その他	村瀬 智子
8		
9	ターミナルケア、グリーフケアに関連した課題と看護援助： 認知症・せん妄その他意識障害・疼痛マネジメントその他	村瀬 智子
10		
11	自殺に関連した課題と看護援助	村瀬 智子
12		

13	暴力とトラウマに関連した課題と看護援助： 児童虐待・ドメスティックバイオレンス（DV）・高齢者虐待・	村瀬 智子
14	レイプ、性虐待、若年妊娠、犯罪被害者とその家族、加害者とその家族、いじめ、不登校その他	
15	暴力とトラウマに関連した課題と看護援助：	村瀬 智子
16	評価、感情のマネジメント、トラウマケアプログラムその他	
17	依存症（薬物、アルコール）に関連した課題と看護援助	原田 真澄
18		
19	スティグマに関連した課題と看護援助：	村瀬 智子
20	精神障害、AIDS その他	
21	対人援助職の心の健康問題に関連した課題と看護援助：	原田 真澄
22	バーンアウト、抑うつ、適応障害、パワーハラスメント	
学生によるフィールドからの、保健医療施設およびチーム医療における問題の提起とその検討		
23	保健医療施設における人権擁護に関連した課題と看護：	村瀬 智子
24	感情労働、ハラスメントその他など	
25	多職種アプローチに関連した課題と看護：	村瀬 智子
26	連携、アサーション、リーダーシップ、コーチングその他	
27	社会参加支援プログラム	原田 真澄
28	ケアの継続、ネットワークづくりその他	
29	学生による実習内容についての課題発表またはフィールドからの問題提起 による討論	村瀬・原田・大島
30		

注意：上記の学習テーマや学習順序は学生の経験状況によって変更することがある。

Ⅲ 授業方法

講義、発表、討論、演習

Ⅳ 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

Ⅴ 教科書

必要時、提示します。

Ⅵ 参考図書

『精神科看護－原理と実践－』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
 原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]
 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A44]
 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』 日本精神神経学会監修 医学書院 [493.72/A44]
 『Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5』 American Psychiatric Pub [493.72/A94]
 『ICD-10 精神および行動の障害－臨床記述と診断ガイドライン』 融道男他著 医学書院 [493.72/W67]

Ⅶ 評価方法

授業態度 5% 討論への参加 45% 課題 50% (ケースプレゼンテーション 30%、ケースレポート 20%)

Ⅷ フィードバック

各回の授業は学生によるプレゼンテーション及び演習を組み合わせで行われ、その中で学生の疑問や学修内容についてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

精神 CNS 機能と役割実習、精神看護学高度実践実習の同時履修が望ましい。

精神 CNS 機能と役割実習

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②③	2	選 択	90 時間以上

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、大島 泰子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神看護における高度実践者として、講義と演習で習得した内容を統合し、CNS の機能と役割の実際を、所属の CNS と指導教員の Supervision (S V) をうけながら、見学・参加・実践を通して学ぶ。

【到達目標】

精神看護における高度実践者としての CNS の機能と役割について理解し、具体的な活動へと適用できる。

II 授業内容及び計画

(2 単位：集中実習)

精神専門看護師 (CNS) が勤務する臨地において、CNS の 6 つの役割と機能の実際を、主体的に見学、参加する。そして実践を組み合わせた実習を計画、実施し、課題に取り組み、学内の精神看護援助方法の開発演習の活動と組み合わせて総合的に評価する。

1. 直接ケア：

- (1) 精神疾患を持つ対象の複雑で高度な精神看護のアセスメントができ、CNS として拡大した役割の枠組みでケースマネジメントを考えることができる。
- (2) 精神科的診断を系統的に整理し明確な語句表現で記述できる。
- (3) 機能アセスメント、ケースマネジメント、対象が所属する家族、施設、地域資源のアセスメントに焦点を当てて実践できる。

2. 相談：看護者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行い、コンサルティのフィードバックを受ける。

3. 教育：実習施設をアセスメントし、ケア向上に必要と考えられる内容について教育プログラムを計画、実施し、フィードバックを受ける。

4. 研究：自己の研究分野に関連したケースの分析により、組織的な計画を立案する。

5. 調整：所属 CNS の組織における役割やポジションを理解し、保健医療福祉関連スタッフおよび機関との間で、必要性に応じて行われる調整活動を見学、参加、あるいは実践する。

6. 倫理調整：個人、家族、集団の権利保護にかかわる倫理的な問題や葛藤の解決に関する調整活動を見学、参加、あるいは実践する。

7. 課題として提示された施設アセスメントとケーススタディをまとめ、学内発表し、同僚のフィードバックにより考察を深めて提出する。

実習場所：CNS が在籍する病院 (名古屋第一赤十字病院・共和病院・東尾張病院)

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、教育におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

なし

VI 参考図書

『精神科看護－原理と実践－』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]

原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart , G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/9th]
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』 American Psychiatric Association[編] 医学書院 2014
〔493.72/A44/5th〕

Ⅶ 評価方法

1. 評価表 I : 40% :
 - 実習記録、実習ログ、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
 - 最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。
2. 課題－施設アセスメント評価 (20%)
3. 課題－ケーススタディ評価 (20%)
4. 学内発表や討論への参加 (20%)

Ⅷ フィードバック

実習記録を確認するとともに、適宜学生と面接を行い、実習における学びについてフィードバックを行う。

Ⅸ その他

精神看護援助方法の開発演習と同時履修が望ましい。

精神看護学高度実践実習

(専門科目／臨床実践看護学／精神看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②③④	4	選 択	180 時間以上

担当教員

村瀬 智子、原田 真澄、大島 泰子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

精神疾患をもつ対象（児童・青少年・成人・高齢者など）の複雑で高度な精神看護実践について、実践実習をとおして学ぶ。

【到達目標】

1. 入院、救急、外来、開業医やクリニックの第一次ケア、訪問在宅ケアなどの設定において、直接看護ケア（実践）、コンサルテーション（相談）、教育、コーディネーション（調整）、倫理調整、研究支援、および精神療法の実践について理解できる。
2. 1. であげた精神看護実践について、Supervision をうけながら実践できる。
3. 児童・青少年・成人・高齢者に提供される高度な看護実践ができる。

II 授業内容及び計画

健康状態と精神障害アセスメントし、診断、個人・集団・家族療法を、Supervision をうけながら提供。また、児童・青少年・成人・高齢者を対象とするケアの質の改善にむけて、精神保健医療チームの一員としてリーダーシップを発揮して、スタッフの教育・トレーニング・プログラム開発に取り組む。

1. 直接ケア：

- (1) 担当ケースについて、多職種チームの一員としてケースマネジメントに共同参加できる。
 - (2) 現行の治療過程の outcome を個人・家族・グループ・環境・リエゾン・（心理教育）介入において評価できる。
 - (3) 臨地において、指導者や同僚との活動、討論、その他の場面で生ずる治療的な問題を認識できる。
 - (4) 担当ケースについて、研究や理論に裏付けられた説明と論議を提供することができる。
2. 相談：臨地において、看護者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行い、フィードバックを受けて評価できる。
 3. 教育：ケア向上に必要と考えられる内容について、教育プログラムを計画、実施、評価できる。
 4. 研究：臨地において、スタッフや施設の研究支援活動ができる。あるいは、担当ケースの分析により、自己の研究分野に活用できる。
 5. 調整：CNS や指導教員のSVを受けながら、必要性に応じて、保健医療福祉関連スタッフおよび機関との間の調整活動を行うことができる。
 6. 倫理調整：CNS や指導教員のSVを受けながら、個人、家族、集団の権利保護にかかわる倫理的問題や葛藤の解決に関する調整活動を行うことができる。
 7. 課題として、プロセスレコード（導入時と特定の現象を認識した場面）と、ケーススタディ（初期アセスメント時と、担当ケースの総合ケーススタディ）をまとめ、学内発表する。

*実習病院

名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、豊田西病院、もりやま総合心療病院、共和病院、刈谷病院、三重県立こころの医療センター、藤田こころケアセンター、東尾張病院

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

本学大学院における開講科目を受講するにあたっては、主体的・自律的に学ぶ姿勢が重要である。

そのため、本科目を受講するにあたっては、当該の学習内容に関する教科書・参考図書・文献を用いた予習はもとより、講義におけるプレゼンテーションの準備や議論に積極的に参加するための十分な事前学習が必要不可欠である。また、受講後も、復習として、十分な時間を使って学びを客観的に振り返り整理することで、得られた学びを知識として内在化し、自らの学習課題を明らかにした上で、次なる学びに発展させることができる。

V 教科書

なし

VI 参考図書

『精神科看護－原理と実践－』 Stuart, G & Laraia, M 安保寛明監訳 エルゼビア・ジャパン [N20/St9]
原文 『Principles and Practice of Psychiatric Nursing,』 Stuart, G & Laraia, M : Mosby [N20/St9/10th]

VII 評価方法

1. 評価表Ⅱ (20%) 評価表Ⅲ (20%)

- 実習記録、課題の発表、提出物、実習態度より、以下の評価表を、学生、CNS、指導教員が記入する。
- 最終評価については、3者の評価を検討し指導教員が決定する。

2. ケーススタディ評価 (20%)

3. プロセスレコード評価 (20%)

4. 学内発表や討論への参加 (20%)

VIII フィードバック

実習記録を確認するとともに、適宜学生と面接を行い、実習における学びについてフィードバックを行う。

IX その他

精神 CNS 機能と役割実習の事前あるいは同時履修とする。また、精神看護援助方法の開発演習とも同時履修が望ましい。

地域生活看護学

地域生活看護学特論

(専門科目／地域生活看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

長谷川 喜代美、森田 一三、小林 尚司、大西 文子、大谷 喜美江

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活するすべての人々の健康増進、あるいは健康上の課題に焦点をあて、看護支援方法について探求する。

【到達目標】

1. 児童から成人期に生じやすい健康上の課題とその背景について説明し、記述することができる。
2. 地域で生活する子どもや高齢者の健康上の課題と援助方法について考察し、記述することができる。
3. 在宅療養者とその家族の健康上の課題と援助方法について考察し、記述することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	地域で生活する人々への看護支援の意義および特性	長谷川 喜代美
2	地域生活と健康増進①：地域の環境と健康	森田 一三
3	地域生活と健康増進②：学校保健と児童生徒の健康	森田 一三
4	地域生活と健康増進③：地域における健康づくり活動	森田 一三
5	地域生活と健康増進④：産業ストレスとワークライフバランス	大谷 喜美江
6	地域生活と健康増進⑤：労働衛生管理と健康管理	大谷 喜美江
7	地域で生活する子どもと家族への看護援助方法① 医療的ケア・セルフケアを支援する看護の役割	大西 文子
8	地域で生活する子どもと家族への看護援助方法② 生活の場における看護の役割	大西 文子
9	高齢者の生活と健康：高齢者の生活と健康上の課題	小林 尚司
10	地域で生活する高齢者への看護①：生活不活発発病の予防	小林 尚司
11	地域で生活する高齢者への看護②：認知症の予防	小林 尚司
12	地域で生活する高齢者への看護③：肺炎の予防	小林 尚司
13	在宅療養者の生活と健康①：生活と健康上の課題	長谷川 喜代美
14	在宅療養者の生活と健康②：日常生活上の援助	長谷川 喜代美
15	まとめ	森田・小林

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

授業への参加準備。プレゼンテーションの準備をする。(適宜)

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

プレゼンテーション (40%)、参加状況 (30%)、課題レポート (30%) で評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションあるいはディスカッションにその場でフィードバックする。

IX その他

なし

地域保健統計学

(専門科目／地域生活看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域保健の課題を理解し、効果的な対策を企画し、その実践的な評価を行うためには、統計的解析が必須である。ここでは、統計的推論、測定信頼性と妥当性、因子分析やロジスティック回帰分析などの地域保健の統計的解析に必要な知識とスキルを身につけることを目指す。このために、さまざまなデータについて実際にSPSSを用いて分析をして習得する。

【到達目標】

1. データに適した統計分析手法を決定できる。
2. SPSSを用いてデータの統計分析を行うことができる。
3. 統計分析で得られた結果を正しく解釈できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	地域保健と統計分析	森田 一三
2	統計的推論	森田 一三
3	分散分析	森田 一三
4	回帰分析	森田 一三
5	測定の信頼性	森田 一三
6	測定の妥当性	森田 一三
7	主成分分析	森田 一三
8	因子分析	森田 一三
9	クラスター分析	森田 一三
10	判別分析	森田 一三
11	ロジスティック回帰分析	森田 一三
12	対数線形モデル	森田 一三
13	生存時間データの解析	森田 一三
14	多変量解析法	森田 一三
15	まとめ	森田 一三

III 授業方法

講義、演習：第1回～第15回

IV 時間外学習

事前に教科書の該当する箇所を予習してきてください。(1時間)

授業中に課題となったことについて復習してきてください。(30分)

V 教科書

『SPSSによる統計データ解析』 柳井晴夫、緒方裕光編著 現代数学社〔417/Y54〕

VI 参考図書

講義中に適宜紹介

VII 評価方法

成績評価は受講態度（議論への参加度・貢献度）〔100%〕から算出されます。

VIII フィードバック

講義中に随時課題を行い、その都度解説を行う。

IX その他

選択共通科目「統計学」を履修していること。選択共通科目「統計学」で扱う統計手法についてSPSSを用いて実施できること。

地域生活看護学Ⅰ（地域高齢者ケアシステム論）

（専門科目／地域生活看護学）

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

長谷川 喜代美

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域で生活している高齢者の現状と健康問題を理解し、必要とされている看護援助について探求する。在宅看護の実際について学び、多職種及び住民が一体となった地域ケアシステムを構築する能力を養う。

【到達目標】

1. 地域で生活する高齢者の現状と健康上の課題について説明できる。
2. 高齢者の健康問題を明確化し、必要な看護支援について考えることができる。
3. 在宅で行われる看護の特性について述べるができる。
4. 地域で生活する高齢者の課題を明確化し、地域ケアシステムづくりについて考えることができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	地域における高齢者①：高齢者の生活	長谷川 喜代美
2	地域における高齢者②：健康上の課題	長谷川 喜代美
3	地域高齢者の健康問題と看護①：身体疾患	長谷川 喜代美
4	地域高齢者の健康問題と看護②：メンタルヘルス	長谷川 喜代美
5	地域高齢者の健康問題と看護③：社会生活	長谷川 喜代美
6	地域高齢者の健康問題と看護④：家族支援	長谷川 喜代美
7	地域における高齢者看護①：情報収集からアセスメント	長谷川 喜代美
8	地域における高齢者看護②：看護計画の立案、必要となる看護援助	長谷川 喜代美
9	在宅看護の実際①：在宅看護の制度	長谷川 喜代美
10	在宅看護の実際②：看護の役割	長谷川 喜代美
11	在宅看護の実際③：多職種の連携	長谷川 喜代美
12	地域ケアシステム①：地域課題の明確化	長谷川 喜代美
13	地域ケアシステム②：解決策の検討	長谷川 喜代美
14	地域ケアシステム③：システムづくりと評価	長谷川 喜代美
15	地域における高齢者看護の課題	長谷川 喜代美

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

授業への参加準備。プレゼンテーションの準備をする。（適宜）

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

プレゼンテーション（50%）、参加状況（30%）、課題レポート（20%）で評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

なし

地域生活看護学Ⅱ（高齢者療養看護論）

（専門科目／地域生活看護学）

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選 択	30

担当教員

小林 尚司

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

健康および生活上の問題によって療養を必要とする高齢者とその家族に対する看護に必要な専門的知識と技術について学ぶ。特に、療養を必要としながらも、その人らしく人生を生ききることを支援する看護のあり方を探求する。

【到達目標】

1. 療養を必要とする高齢者の健康問題の実際について理解できる。
2. 療養生活を支えるサポートシステムについて理解できる。
3. その人らしく人生を生ききることを支援する看護について考え、記述できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	老年期の理解：老化に伴う身体的変化	小林 尚司
2	老年期の理解：老いのとらえ方	小林 尚司
3	療養を必要とする高齢者の実態からみる看護の課題	小林 尚司
4	療養のためのサポートシステム	小林 尚司
5	高齢者の生活を把握するための枠組み	小林 尚司
6	高齢者に生じやすい循環障害と看護の探求	小林 尚司
7	高齢者に生じやすい呼吸障害と看護の探求	小林 尚司
8	高齢者に生じやすい神経障害と看護の探求	小林 尚司
9	介護保険サービスにおける看護のあり方	小林 尚司
10	他職種との連携の課題	小林 尚司
11	高齢者の老い・死の受け止め方	小林 尚司
12	高齢者の看取りに関する制度	小林 尚司
13	End-of-Life Care の概念と高齢者の看取りの課題	小林 尚司
14	療養を必要とする高齢者の家族への看護	小林 尚司
15	まとめ	小林 尚司

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

各自が理解できるまで時間をかける。プレゼンテーションの準備。（適宜）

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

授業の中で適宜紹介する。

VII 評価方法

参加状況（30%）、課題（プレゼンテーション 40%・レポート 30%）を合計して評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

特になし

地域生活看護学Ⅲ（認知症ケア論）

（専門科目／地域生活看護学）

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

小林 尚司

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

認知症を持つ高齢者やその家族に必要な専門的知識と技術を学び、認知症を持つ高齢者の生活を支える看護を探究する。

【到達目標】

1. 認知症高齢者とその生活をアセスメントについて理解できる。
2. 認知症高齢者を支えるサポートシステムについて理解できる。
3. 認知症高齢者のより良い生活と、そのための看護について検討し、記述できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	老い、認知症のとらえ方に関する歴史	小林 尚司
2	認知症の病態と治療	小林 尚司
3	認知症のリハビリテーション・非薬物療法	小林 尚司
4	認知症の心理行動症状	小林 尚司
5	認知症高齢者における倫理的問題	小林 尚司
6	認知症高齢者の体験	小林 尚司
7	認知症高齢者のケアの原則	小林 尚司
8	Pearson-centered care の概念とケアマッピング	小林 尚司
9	認知症高齢者とのコミュニケーション	小林 尚司
10	認知症高齢者のアセスメント	小林 尚司
11	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習①	小林 尚司
12	事例を用いた認知症高齢者のアセスメント演習②	小林 尚司
13	認知症高齢者の家族の支援	小林 尚司
14	認知症高齢者を看護する看護師の課題	小林 尚司
15	まとめ：認知症ケアのエキスパート像	小林 尚司

III 授業方法

講義、発表、討論

IV 時間外学習

各自が理解できるまで時間をかける。プレゼンテーションの準備。（適宜）

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

授業の中で適宜紹介する

VII 評価方法

参加状況（30%）、課題（プレゼンテーション 30%・レポート 40%）を合計して評価する。

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

特になし

地域生活看護学演習Ⅰ

(専門科目／地域生活看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	1	選択	30

担当教員

長谷川 喜代美、森田 一三

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域生活看護学領域で、学生が関心のあるテーマ、現象、理論などについて文献検討を行い、自己の研究課題の明確化を図る。

【到達目標】

1. 文献検索および文献検討の方法について述べるができる。
2. 自分で関心のある文献を選択、熟読し、文献の要旨を記述することができる。なお、プレゼンテーションと討議のなかで、英語文献を2編以上含めること。
3. 文献に関する評価を述べるができる。
4. 文献検討より自己の研究課題を記述することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス、英語論文講読の基本	長谷川・森田
2	英語論文講読の方法	森田 一三
3	英語論文講読の実際	森田 一三
4	論文の構成と読み方	長谷川 喜代美
5	学生のプレゼンテーションと討議①	長谷川・森田
6	学生のプレゼンテーションと討議②	長谷川・森田
7	学生のプレゼンテーションと討議③	長谷川・森田
8	学生のプレゼンテーションと討議④	長谷川・森田
9	学生のプレゼンテーションと討議⑤	長谷川・森田
10	学生のプレゼンテーションと討議⑥	長谷川・森田
11	学生のプレゼンテーションと討議⑦	長谷川・森田
12	学生のプレゼンテーションと討議⑧	長谷川・森田
13	学生のプレゼンテーションと討議⑨	長谷川・森田
14	学生のプレゼンテーションと討議⑩	長谷川・森田
15	まとめ	長谷川・森田

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

プレゼンテーションの準備および次回授業に向けた修正をする。(適宜)

V 教科書

特に指定しない。

VI 参考図書

随時紹介する。

VII 評価方法

プレゼンテーション (50%)、参加状況 (30%)、まとめレポート (20%) で評価する。

VIII フィードバック

演習の中で、随時疑問点に回答、解説を行う。

IX その他

なし

地域生活看護学演習Ⅱ

(専門科目／地域生活看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選 択	30

担当教員

長谷川 喜代美、小林 尚司、森田 一三、大谷 喜美江

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

地域生活看護学演習Ⅰでの学習をもとに、研究計画書の作成のプロセスを実践的に学ぶ。

【到達目標】

1. 文献検討を行い、自己の研究課題を記述することができる。
2. 研究目的、方法を記述することができる。
3. 研究における倫理的配慮を記述することができる。
4. データ収集に必要な質問項目、インタビューガイドなどを作成することができる。
5. 上記1～4に基づき、研究計画書を作成することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス、各自の研究課題を背景、動機とともに発表、討議	長谷川・小林 森田・大谷
2	研究課題をとりまく文献検討内容の発表、討議①	長谷川・小林 森田・大谷
3	研究課題をとりまく文献検討内容の発表、討議②	長谷川・小林 森田・大谷
4	研究課題をとりまく文献検討結果の整理、文章化①	長谷川・小林 森田・大谷
5	研究課題をとりまく文献検討結果の整理、文章化②	長谷川・小林 森田・大谷
6	研究目的の明確化、及び研究課題に適した研究デザインの検討①	長谷川・小林 森田・大谷
7	研究目的の明確化、及び研究課題に適した研究デザインの検討②	長谷川・小林 森田・大谷
8	研究方法と倫理的配慮に関する検討①	長谷川・小林 森田・大谷
9	研究方法と倫理的配慮に関する検討②	長谷川・小林 森田・大谷
10	質問項目、インタビューガイドについての検討①	長谷川・小林 森田・大谷
11	質問項目、インタビューガイドについての検討②	長谷川・小林 森田・大谷
12	研究計画書の作成①	長谷川・小林 森田・大谷
13	研究計画書の作成②	長谷川・小林 森田・大谷
14	研究計画書の発表①	長谷川・小林 森田・大谷
15	研究計画書の発表②	長谷川・小林 森田・大谷

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

プレゼンテーションの準備および次回授業に向けた修正をする。(適宜)

- V 教科書
特に指定しない。
- VI 参考図書
随時紹介する。
- VII 評価方法
プレゼンテーション（40%）、参加状況（30%）、研究計画書（30%）で評価する。
- VIII フィードバック
学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。
- IX その他
なし

災害看護学

災害看護学概論

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、花木 芳洋

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害による人々の健康や生活への影響、および国内外の災害救援、災害看護に関する基本的知識を学び、防災・減災・災害救援における看護活動と看護の役割を探求する。

【到達目標】

1. 災害による人々の健康、生活への影響を説明できる。
2. 防災・減災・災害対策を説明できる。
3. 災害救援活動における看護活動と看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害、災害関連概念(防災・減災)	小林 洋子
2	災害の発生と災害救援の歴史	小林 洋子
3	国内外の災害発生状況と被害の変化	小林 洋子
4	災害が人々の生活へ及ぼす影響	小林 洋子
5	災害が人々の健康へ及ぼす影響	花木 芳洋
6	災害における傷病の特徴と災害医療(1)(自然災害)	花木 芳洋
7	災害における傷病の特徴と災害医療(2)(人為災害)	小林 洋子
8	災害における傷病の特徴と災害医療(3)(感染症)	小林 洋子
9	わが国の災害に関連する法律、防災・減災・災害救援の仕組み	小林 洋子
10	救護組織における災害救護の仕組み(日本赤十字社)	小林 洋子
11	災害看護と災害看護の対象と特徴	小林 洋子
12	災害における看護援助の特徴	小林 洋子
13	災害看護の動向と課題	小林 洋子
14	災害看護に関する研究の動向	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回～8回：講義、第9回～12回：発表・討議、第13回～15回：講義

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『原発災害とアカデミズム - 福島大・東大からの問いかけと行動』 福島大学原発災害支援フォーラム、東京大学原発災害支援フォーラム著(2013) 合同出版 [543.5/F84]

『自然災害と復興支援』 林勲男(2010) 明石書店 [369.3/H48]

『東日本大震災 石巻災害医療の全記録』 石井正(2012) 講談社 [498.89/I75]

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]

『災害社会学入門』 大矢根淳編(2007) 弘文堂 [369.3/Sa17/1]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and

other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]
『大災害と法』 津久井進 (2012) 岩波新書 [O80/I95/1375]
『未曾有と想定外』 畑村洋太郎 (2011) 講談社現代新書 [369.31/H41]

Ⅶ 評価方法

課題への取り組み (30%)、レポート (50%)、授業参加度 (20%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害と法律・制度

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、花木 芳洋、山崎 栄一

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害に関する法律や制度を学び、災害看護実践における法律や制度の活用と課題を考察する。

【到達目標】

1. 災害に関する法律、制度を理解する。
2. 災害看護に関連する法律、制度について災害看護の実践場面における活用を考えられる。
3. 災害看護に関連する法律や制度の視点から現在の災害対策の課題を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：災害に関する法律と制度	小林 洋子
2	法体系と制度	山崎 栄一
3	赤十字の災害看護の歴史	小林 洋子
4	赤十字の災害看護における法律・制度上の課題	小林 洋子
5	防災・減災に関する法律と制度	山崎 栄一
6	防災・減災に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
7	災害発生時に関する法律と制度	山崎 栄一
8	災害発生時に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
9	被災者支援に関する法律と制度	山崎 栄一
10	被災者支援に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
11	災害復興に関する法律と制度	山崎 栄一
12	災害復興に関する法律と制度上の課題	山崎 栄一
13	東南海地震などの大規模災害に関する法律と制度	花木 芳洋
14	東南海地震などの大規模災害に関する法律と制度上の課題	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回～15回：講義、討議

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/O27]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

『自然災害と被災者支援』 山崎栄一 (2013) 日本評論社 [369.3/Y48]

『大災害と法』 津久井進 (2012) 岩波新書 [O80/I95/1375]

VII 評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

なし

災害看護学対象論

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子、花木 芳洋

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害により心身や生活に影響を受けた人々を個として、集団として理解し、災害サイクルにそってどのような健康上の問題があるかを考察する。

【到達目標】

1. 災害看護の対象に関連する理論を学ぶ。
2. 災害から影響を受ける人々、特に要配慮者の特徴を理解できる。
3. 被災者の生活環境の特徴と、その特徴がおよぼす被災者の健康問題を理解できる。
4. 災害救援活動による災害救援者への影響を理解できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：災害看護の対象と健康問題	小林 洋子
2	被災者の理解に関連する理論： 危機理論、適応理論、ストレスコーピング理論	小林 洋子
3	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (1)	小林 洋子
4	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (2)	花木 芳洋
5	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (3)	花木 芳洋
6	災害が要配慮者におよぼす影響と健康問題 (4)	小林 洋子
7	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (1)	小林 洋子
8	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (2)	長尾 佳世子
9	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (3)	長尾 佳世子
10	生活の場、および日常生活の特徴がおよぼす被災者の健康問題 (4)	長尾 佳世子
11	被災者と生活する地域の文化 (1) 人々の生活と文化	長尾 佳世子
12	〃 (2) 異文化における災害看護	長尾 佳世子
13	災害救援活動に伴う災害救援者への影響と健康問題 (ストレス) (1)	長尾 佳世子
14	〃 (感染等) (2)	長尾 佳世子
15	まとめ、災害看護の対象特性に関する討議	小林・長尾

III 授業方法

第1回～5回：講義、第6回：発表・討議、第7回～8回：講義、第9回～10回：発表・討議
第11回～14回：講義、第15回：討議

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『災害の襲うとき：カストロフィーの精神医学』 ラファエル, B (1995) みすず書房 [369.3/R17]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/O27]

『3・11 福島から東京へ 広域避難者たちと歩む』 東京災害支援ネット編 (2013) 山吹書店 [369.36/To46]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男（2010） 明石書店〔369.3/H48〕
『アンダーグラウンド』 村上春樹（1997） 講談社〔916/Mu43〕

Ⅶ 評価方法

授業参加度（20%）、課題への取り組み（30%）、レポート（50%）

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害看護学援助論

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
①	2	選択	30

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子、小原 真理子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

救援のあらゆる場において、災害サイクルに応じて災害の影響を受けた人々、およびその生活状況をアセスメントし、看護援助を必要とする人々への看護援助を考察する。さらに看護専門職として、災害救援に関わる専門職や関連機関と協働し効果的に救援活動が実践できる方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 災害時における医療・看護の基本的対応を理解できる
2. 災害サイクル各期において看護の対象を理解した看護の実践を理解できる
3. 救護所、避難所、病院における救護体制の設営・運営を理解できる
4. 災害時救援に関わる他専門職、関連機関との連携・協働の方法を考察できる

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害サイクルと災害看護	小林 洋子
2	体系的対応：Command and Control, Safety, Communication, Assessment, Triage, Treatment, Transportation (CSCATTT)	小原 真理子
3	災害時の情報収集・発信	小原 真理子
4	災害時救援に関わる他専門職、関連機関との連携・協働と課題	小原 真理子
5	被災者、救援者とのコミュニケーション(こころのケア)と課題	長尾 佳世子
6	被災病院における救護体制設置と看護活動と課題	長尾 佳世子
7	救護所の設営・運営と看護活動と課題	長尾 佳世子
8	避難所の設営・運営と看護活動と課題	小原 真理子
9	在宅被災者への看護活動と課題	小林 洋子
10	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(1)	小林 洋子
11	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(2)	小林 洋子
12	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(3)	小林 洋子
13	災害サイクル各期の要配慮者への看護と課題(4)	小林 洋子
14	災害サイクル各期の災害救援者への看護と課題	小林 洋子
15	まとめ、災害看護の援助方法に関する討議	小林・長尾

III 授業方法

第1回～5回：講義・討議、第6回～9回：発表・討議、第10回～15回：講義・討議

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『スフィア・プロジェクト 人道憲章と人道対応に関する最低基準』 Sphere Project 編 難民支援協会 訳 (2012) 難民支援協会 [R0.11/Sp4/11]

『東日本大震災とこころのケア』 浅野弘毅 (2011) 批評社 [369.31/Se19/64]

『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』 大災害と国際協力研究会 (2013) 佐伯印刷 [369.3/D14]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]
『事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア』 黒田裕子 (2012) 日本看護協会出版会 [N10.51/Ku72]
『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/O27]
『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012)
日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]
『災害時の健康支援 行動科学からのアプローチ』 災害行動科学研究会 (2012) 誠信書房
[498.89/Sa17]
『緊急対応ハンドブック 日本語版』 UNHCR (2000) UNHCR 日本・韓国地域事務所
[369.38/Ko49/2nd] <http://www.unhcr.or.jp/info/handbook.html>
『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and
other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

Ⅶ 評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害看護学教育・管理論

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	2	選択	30

担当教員

小林 洋子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期における病院や地域における住民、学生、看護職を対象にした防災・減災に関する教育の方法、および防災・減災体制のマネジメントを探求するとともに、災害に関する教育やマネジメントの重要性と看護職の役割を考察する。

【到達目標】

1. 静穏期における防災・減災に関する教育の方法を理解できる。
2. 静穏期における病院や地域における防災・減災体制のマネジメントを理解できる。
3. 災害発生時の施設、および救援活動におけるマネジメントを理解できる。
4. 災害における看護活動と看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害看護における教育とマネジメント	小林 洋子
2	防災・減災に関する教育の変遷と課題	小林 洋子
3	自助・共助を促進する防災・減災教育	小林 洋子
4	住民を対象にした防災・減災教育の方法 (計画・実施・評価)	小林 洋子
5	要配慮者を対象にした防災・減災教育	小林 洋子
6	救援要員を対象にした防災・減災、救援活動に関する教育の現状と課題	小林 洋子
7	救援要員を対象にした防災・減災、救援活動に関する教育 (計画) (1)	小林 洋子
8	救援要員を対象にした防災・減災、救援活動に関する教育 (実施・評価) (2)	小林 洋子
9	災害救援の教育に関する看護基礎教育と看護継続教育の連携	小林 洋子
10	施設における防災・減災に関するマネジメントの変遷と課題	小林 洋子
11	施設における防災・減災に関するマネジメントの実際	小林 洋子
12	救護班の災害救援活動における看護職によるマネジメント (1)	小林 洋子
13	救護班の災害救援活動における看護職によるマネジメントの課題 (2)	小林 洋子
14	救護員の教育・マネジメントに関する研究の動向	小林 洋子
15	まとめ、災害に関する教育活動、管理活動と看護職の役割に関する討議	小林 洋子

III 授業方法

第1回～4回：講義、第5回～6回：発表・討議、第7回～8回：演習、第9回～15回：講義

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/O27]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男（2010） 明石書店〔369.3/H48〕

Ⅶ 評価方法

授業参加度（20%）、課題への取り組み（30%）、レポート（50%）

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害看護学演習 I

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選択	30

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害急性期を想定した災害救護訓練に準備の段階から評価まで参加し、医療・看護援助の提供方法、他職種、関連部門、関連組織との連携のありかたを学ぶ。

【到達目標】

1. 災害急性期における医療・看護援助の提供方法を説明できる。
2. 災害急性期に活動する他職種、関連部門、関連組織との連携方法を説明できる。
3. 災害急性期の救援活動における倫理的対応を説明できる。
4. 災害急性期における救援活動、および関連部門、組織との連携における看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害救護訓練の概要、参加方法	小林・長尾
2～5	災害救護訓練の準備に参加	小林・長尾
6～10	災害救護訓練の実際に参加	小林・長尾
11～12	災害救護訓練の評価に参加	小林・長尾
13～14	救援活動における倫理的対応、看護職の役割と課題	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

III 授業方法

第1回：講義、第2回～12回：演習、第13回～15回：講義
演習の進め方

1. 演習する施設を選択し、決定する
2. 施設の救護訓練準備に参加する
3. 施設の救護訓練、および評価に参加する
4. 1～3を通して災害救護訓練における看護職の役割を考察する

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関連する情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。(1時間程度)
受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.5/O27]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

VII 評価方法

授業への参加 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

なし

災害看護学演習Ⅱ

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選択	30

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子、小原 真理子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

防災・減災教育について教育計画を立案し、対象に応じた方法や教材の検討、実際の教育活動、評価を通して、防災・減災教育のあり方と看護職の役割を考察する。

【到達目標】

1. 対象に応じた防災・減災教育の計画を立案できる。
2. 防災・減災教育に対象に応じて適切な方法や教材を選択できる。
3. 教育計画に基づき、防災・減災教育を実施できる。
4. 実施した防災・減災教育を評価し、防災・減災教育のあり方と看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)	小林 洋子
2～3	防災・減災教育の対象に応じた教育計画	小林・長尾
4～6	防災・減災教育の対象に応じた教育計画の教材	小林・長尾
7～10	防災・減災教育計画の立案	小林・長尾
11～12	防災・減災教育の実施・評価	小林・長尾・小原
13・14	防災・減災教育と看護職の役割と課題	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

III 授業方法

第1回～2回：講義、第3回～10回：演習、第13回～15回：講義

演習の進め方

1. 教育の対象を決定する
2. 教育目的・目標を決定する
3. 教育目的・目標に基づき教育計画を作成する
4. 教育計画に基づき、教材を工夫し、60分の教育を計画する
5. 模擬対象に対して、教育計画に基づき教育を実施する
6. 実施した教育について、模擬対象、教員からの反応を得て評価する

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報、活動、情報を得るとともに、関連文献を読み受講の準備をする。

(1時間程度)

受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77/12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.5/O27]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

VII 評価方法

授業への参加 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害看護学演習Ⅲ

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③	1	選択	30

担当教員

小林 洋子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

病院、行政、地域における防災・減災計画の作成、災害救援活動におけるネットワークと他専門職や関連機関との連携を検討し、防災・減災、および救援活動におけるマネジメントと看護職の役割を考察する。

【到達目標】

1. 病院、行政、地域における防災・減災計画を説明できる。
2. 病院、行政、地域における防災・減災に関わる人材の組織化と役割を説明できる。
3. 病院、行政、地域における防災・減災、災害発生時の情報の収集と分析、発信について説明できる。
4. 病院、行政、地域におけるネットワークと連携について説明できる。
5. 防災・減災、災害救援活動における看護活動と看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、災害看護とマネジメント	小林 洋子
2～4	病院、行政、地域の防災・減災計画	小林 洋子
5～6	防災・減災計画と課題、発表と討議	小林 洋子
7～9	災害救援活動における病院、行政、地域のネットワークと他専門職、関連機関との連携、情報の収集と分析、発信	小林 洋子
10～12	病院、行政、地域におけるネットワークと連携、情報収集・発信の課題、発表と討議	小林 洋子
13～14	防災・減災、災害救援活動における看護活動と看護職の役割	小林 洋子
15	まとめ	小林 洋子

III 授業方法

第1回：講義、第2回～4回：演習、第5回～6回：発表・討議、第7回～10回：演習

第11回・12回：発表・討議、第13回～15回：講義・討論

演習の進め方

自己の関心や実践経験から、病院、行政、地域のいずれかを選択し、防災・減災計画の立案、および救援活動におけるネットワークと他専門職や関連機関との連携を検討する。

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関連する情報を得るとともに、関連文献を読み演習に備える。(1時間程度)

受講後は、学習上の自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、授業の理解を深める。(1時間程度)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成24年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会(2012) 日本看護協会出版会〔N05.9/N77/12〕

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監(2010) 南山堂〔N10.5/O27〕

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013〔N10.51/V53/3rd〕

『自然災害と復興支援』 林勲男(2010) 明石書店〔369.3/H48〕

VII 評価方法

授業参加度(20%)、課題への取り組み(30%)、レポート(50%)

Ⅷ フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

Ⅸ その他

なし

災害看護学演習Ⅳ

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②	1	選 択	30

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

災害看護に関する研究文献の検索方法、入手方法を学び、入手した文献のクリティークを通して、自己の研究課題を明確にするとともに研究方法を検討し、修士論文研究計画書の作成を学ぶ。

【到達目標】

1. 研究文献を検索し、入手できる。
2. 研究文献のクリティークを通して、自己の研究課題を明確にできる。
3. 自己の研究課題に応じた研究方法を検討できる。
4. 自己の研究課題に基づき、研究計画書が作成できる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	ガイダンス：(授業の進め方等)、 災害看護に関する研究文献のクリティーク	小林 洋子
2～4	関心あるテーマに関する文献をクリティークする	小林・長尾
5～8	研究課題の検討	小林・長尾
9～12	研究方法の検討	小林・長尾
13～14	研究計画書の作成	小林・長尾
15	まとめ	小林・長尾

III 授業方法

第1回：講義、第2回～14回：発表・討議、第15回：講義・討議

演習の進め方

1. 授業や実践の経験から範囲を決めて、文献を検索する。
2. 授業において討議し、助言を得ながら研究計画書を作成する。

IV 時間外学習

災害、災害看護や科目に関する情報や関連文献を読み、自己の研究課題に関心を向ける。(適宜)
受講後は、必要な文献等を活用し、研究課題、研究計画書の理解を深める。(適宜)

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『バーンズ&グローブ看護研究入門－実施・評価・活用－』 Burns,Grove 著 黒田裕子他監訳 (2007)
エルゼビア・ジャパン [N07/B43]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema,TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

VII 評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

VIII フィードバック

学生のプレゼンテーションにその場でフィードバックする。

IX その他

なし

災害看護学実習 I

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②～④	1	選択	45

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

静穏期、復興期において、病院、行政、地域における防災・減災体制および災害に備えた看護活動、看護援助方法を参加観察し、防災・減災体制や災害に備えた看護活動を考察する。

【到達目標】

1. 静穏期、復興期において、病院、行政、地域における防災・減災計画、体制が説明できる。
2. 静穏期、復興期において、災害に備えた看護活動が説明できる。
3. 静穏期、復興期において実施される防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加できる。
4. 実習施設所在地に災害発生時、関連機関との連携を説明できる。
5. 実習施設所在地以外に災害が発生した際の救援体制を説明できる。
6. 静穏期、復興期、および災害が発生した際の看護職の役割を考察できる。

II 授業内容及び計画

1. 実習内容：

- 1) 実習施設における防災・減災計画、体制、看護活動について説明を受ける。
- 2) 実習施設における防災・減災計画に基づく、備えを見学する。
- 3) 日常の業務と災害への備えの関連、および職員の協働体制を参加観察する。
- 4) 防災・減災教育、あるいは救護訓練に参加する。
- 5) 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する。

2. 実習施設：

履修学生が、実習目的・目標に基づき実習施設を選択する。

3. 実習の進め方

- 1) 履修学生は、自己の実習目的・目標に基づき実習施設を選定する。
- 2) 1) について、教員の助言を得て実習施設を決定する。
- 3) 実習目的・目標に基づき実習指導者と打ち合わせを行い、実習する。
- 4) 実習中、実習目標の達成を評価し、実習指導者と討議しながら実習をすすめる。
- 5) 実習終了時、実習目標の達成を評価し、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方に関する課題を明らかにする。

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

授業の復習、および実習に関する文献を読み実習の準備をする。実習後は、自己の課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、実習の体験、学びを深める。

V 教科書

なし

VI 参考図書

適宜紹介する。

VII 評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

VIII フィードバック

学生のカンファレンスの場、およびレポートにフィードバックする。

IX その他

なし

災害看護学実習Ⅱ

(専門科目／災害看護学)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
②～④	1	選 択	45

担当教員

小林 洋子、長尾 佳世子

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

自己の研究課題に基づき、実習施設における看護活動に参加し、研究課題の焦点化、および研究方法を探索する。

【到達目標】

1. 自己の研究における課題を明確にできる。
2. 研究課題に基づき、研究方法を明確にできる。

II 授業内容及び計画

1. 実習内容：
 - 1) 実習施設において、自己の研究課題に関連する事柄、現象、対象について参加観察する。
 - 2) 防災・減災教育、あるいは救護訓練への参加を通して、防災・減災教育、あるいは救護訓練のあり方を討議する
2. 実習施設：

大学院生の研究課題に応じて大学院生が選択決定する。
3. 実習の進め方
 - 1) 大学院生は自己の研究課題に基づき実習施設を選定する。
 - 2) 自己の研究課題に関連する事柄、現象、対象について倫理的な配慮をして実習する。
 - 3) 必要な場合、施設の倫理審査を受審する。

III 授業方法

実習

IV 時間外学習

災害看護に関する情報、活動、情報をえるとともに、関連文献を読み自己の研究課題を明確にし、実習に備える。実習後は、自己の研究課題を明らかにし、必要な文献等を活用し、自己の研究計画を発展させる。

V 教科書

適宜、資料を配布する。

VI 参考図書

『平成 24 年版看護白書 災害時における看護の力・組織の力』 日本看護協会 (2012) 日本看護協会出版会 [N05.9/N77'12]

『演習で学ぶ災害看護』 小原真理子監 (2010) 南山堂 [N10.51/O27]

『Disaster nursing and emergency preparedness for chemical, biological, and radiological terrorism and other hazards. 3rd ed.』 Veenema, TG Springer Pub Co. 2013 [N10.51/V53/3rd]

『自然災害と復興支援』 林勲男 (2010) 明石書店 [369.3/H48]

VII 評価方法

授業参加度 (20%)、課題への取り組み (30%)、レポート (50%)

VIII フィードバック

学生のカンファレンスの場、およびレポートにフィードバックする。

IX その他

なし

研 究

課題研究

(専門科目／研究)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③④	2	選 択	60

担当教員

野口 眞弓、大西 文子、村瀬 智子、原田 真澄、長田 知恵子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

学生が興味をもつ特定の重要な現象、援助技術、理論及びその活用方法について、集中的な文献検討を行う。そしてこれまでの研究結果を批判的に吟味することで、特定の重要な現象を解釈し、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行う。さらに、これらの文献検討をもとに、実習を通じて、特定の研究課題を見だし、臨地実践の知識を深め、蓄積するような、あるいは援助法の開発や評価など臨地における研究に重点を置き、論文としてまとめることができる能力を養う。

【到達目標】

1. 学生が興味をもつ特定の重要な現象の解釈、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などを集中的な文献検討により行うことができる。
2. 研究計画書を作成することができる。
3. 臨地実践の知識を深め、蓄積するような、あるいは援助法の開発や評価など臨地における研究を論文としてまとめることができる。
4. 看護研究に必要な倫理的配慮をもって研究を実施することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1	文献の批判的検討	担当教員全員
2	研究課題の検討 探求したい領域の現象について研究課題となりうるかの検討	担当教員全員
3～6	研究方法の検討 ①探求したい現象についての研究デザインについての検討 ②探求したい現象についてのデータ収集方法の検討 ③探求したい現象についての研究での倫理的配慮の検討 ④探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討（質問項目作成、インタビューガイド作成など）	担当教員全員
7～8	研究計画書の作成 ①文献検討の文章化、②研究方法の文章化、③研究の倫理的配慮の文章化、④アンケート項目の作成あるいはインタビューガイドの作成	担当教員全員
9～10	研究対象者、研究協力施設との調整	担当教員全員
11～12	データ収集・整理	担当教員全員
13～22	データ分析 研究デザインに応じたデータ分析	担当教員全員
23～30	課題研究論文の作成 ①方法の文章化、②結果の文章化、③考察の文章化、④序論の文章化、⑤要約の文章化	担当教員全員

※領域・分野により、進行・内容を変更する場合がある。

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

指導内容を踏まえ、計画的に研究を遂行する。(適宜)

V 教科書

各担当教員により提示する。

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

Ⅶ 評価方法

課題研究論文審査

Ⅷ フィードバック

研究計画書審査結果及び論文審査結果をフィードバックする。

Ⅸ その他

専攻する領域・分野の課題研究以外の科目が履修済みあるいは履修中であること。

授業内容及び計画については、担当教員と具体的に検討して進行する。

研究計画書の審査を受ける必要がある。

特別研究

(専門科目／研究)

セメスター	単位数	必修・選択	時間数
③④	6	選 択	180

担当教員

鎌倉 やよい、山田 聡子、東野 督子、石黒 千映子、野口 眞弓、大西 文子、村瀬 智子、原田 真澄、長谷川 喜代美、小林 尚司、森田 一三、大谷 喜美江、小林 洋子、中島 佳緒里、河相 てる美、長田 知恵子、岡田 摩理

I 授業目的及び到達目標

【授業目的】

文献レビューやフィールドに出ながら、重要な課題を明らかにし、各自で探求すべき課題を選定する。選定した課題に相応しい研究方法を選び、研究が実施可能なレベルの研究計画書を作成する。研究計画に基づき、課題の解明を試み、論文としてまとめる能力を養う。

【到達目標】

1. 各自の研究テーマを明らかにし、研究計画書を作成することができる。
2. データ収集および分析に必要な手法を理解し、実施することができる。
3. 修士論文を作成することができる。
4. 看護研究に必要な倫理的配慮をもって研究を実施することができる。

II 授業内容及び計画

回数	内 容	担 当 者
1～4	文献の批判的検討	担当教員全員
5～8	研究課題の検討 探求したい現象について研究課題となりうるかの検討	担当教員全員
9～14	研究方法の検討 ①探求したい研究デザインについての検討 ②探求したい現象についてのデータ収集方法の検討 ③探求したい現象についての研究での倫理的配慮の検討 ④探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討（質問項目作成、インタビューガイド作成など）	担当教員全員
15～34	研究計画書の作成 ①文献検討の文章化、②研究方法の文章化、③研究の倫理的配慮の文章化、④アンケート項目の作成あるいはインタビューガイドの作成	担当教員全員
35～38	プレテスト	担当教員全員
39～42	研究対象者、研究協力施設との調整	担当教員全員
43～50	データ収集・整理	担当教員全員
51～66	データ分析 研究デザインに応じたデータ分析	担当教員全員
67～88	修士論文の作成 ①方法の文章化、②結果の文章化、③考察の文章化、④序論の文章化、⑤要約の文章化	担当教員全員
89・90	修士論文の発表と評価	担当教員全員

III 授業方法

演習

IV 時間外学習

指導内容を踏まえ、計画的に研究を遂行する。(適宜)

V 教科書

各担当教員により提示する。

VI 参考図書

授業中に適宜紹介する。

VII 評価方法

特別研究論文審査

VIII フィードバック

研究計画書審査結果および論文審査結果をフィードバックする。

IX その他

専攻する領域・分野の特別研究以外の科目が履修済みあるいは履修中であること。

授業内容及び計画については、担当教員と具体的に検討して進行する。

研究計画書の審査を受ける必要がある。

**後期 3 年博士課程
共同看護学専攻**

V 後期3年博士課程
共同看護学専攻
教員一覽

2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字北海道看護大学]

専任 等区分	職位	氏名	担当授業科目	配当 年次	研究室	メールアドレス	オフィスアワー
専	教授 (学長)	河口てる子	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 科学的研究方法論Ⅵ (理論構築) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2前 1・2後 1・2前 1通 1後 2～3通	管理・研究棟3階 学長室	kawaguti@rchokkaido-cn.ac.jp	土曜日 16:00～18:00
専	教授	石崎 智子	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 臨床倫理論 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2後 1・2後 1・2前 1通 1後 2～3通	管理・研究棟6階 604	ishizaki@rchokkaido-cn.ac.jp	火曜日 17:00～19:00
専	教授	西片久美子	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究) 生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2後 1・2前 1通 1後 2～3通	管理・研究棟5階 501	nishikata@rchokkaido-cn.ac.jp	月曜日 17:00～18:00
専	教授	中野実代子	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール	1・2前 1・2前 1通 1後	管理・研究棟5階 502	nakano@rchokkaido-cn.ac.jp	水曜日 17:00～18:00
専	教授	伊藤 善也	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1・2後	管理・研究棟4階 413	yoshiya.ito@gmail.com	火曜日・木曜日 昼休み 12:00～13:00
専	教授	根本 昌宏	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1・2前	管理・研究棟4階 412	nemoto@rchokkaido-cn.ac.jp	水曜日 16:00～17:30 金曜日 16:00～17:30
専	講師	村林 宏	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1・2前	管理・研究棟4階 414	mura@rchokkaido-cn.ac.jp	水曜日 12:00～13:00
兼任	教授	島井 哲志	健康科学特論	1・2前		shimai@tamateyama.aac.jp	
兼任	教授	佐藤 満	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 健康科学特論	1・2前 1・2前		msato@nr.showa-u.ac.jp	

2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字秋田看護大学]

専任 等区分	職位	氏名	担当授業科目	配当 年次	研究室	メールアドレス	オフィスアワー
専	教授 (学長)	安藤 広子	生涯発達看護学特論	1・2前	1号館1階 学長室	ando@rcakita.ac.jp	第2木曜日 13:00 - 14:30 オフィスアワー外でも連絡をいただければ時間の調整をいたします。
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	鈴木 聖子	広域連携看護学特論	1・2前	2号館3階 356研究室	s-suzuki@rcakita.ac.jp	木曜日 10:40 - 12:10
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	山田 典子	看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
兼任	教授	東浦 洋	赤十字人道援助論	1・2後			

2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字豊田看護大学]

専任 等区分	職位	氏名	担当授業科目	配当 年次	研究室	メールアドレス	オフィスアワー
専	教授	大西 文子	生涯発達看護学特論	1・2前	6階研究室16	fonishi@rctoyota.ac.jp	月曜日 17:00 - 18:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	東野 督子	看護学演習	1通	6階研究室13	tokuko@rctoyota.ac.jp	月曜日 17:00 - 18:00
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	山田 聡子	看護人材開発特論	1・2前	5階研究室1	s-yamada@rctoyota.ac.jp	水曜日 17:00 - 18:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	野口 眞弓	生涯発達看護学特論	1・2前	6階研究室21	noguchi@rctoyota.ac.jp	月曜日 17:00 - 18:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
兼任	教授	筒井真優美	看護理論	1・2前	日本赤十字看護大学 420研究室	tsutsui@redcross.ac.jp	月曜日 12:30 - 13:00

2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字広島看護大学]

専任 等区分	職位	氏名	担当授業科目	配当 年次	研究室	メールアドレス	オフィスアワー
専	教授 (学長)	小山真理子	看護人材開発特論	1・2前	管理棟 2 F 学長室	mk11142@jrchn.ac.jp	火曜日 17:00 - 18:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	百田 武司	実践看護学特論	1・2前	教育・研究棟 4 F 研究科長室	hyakuta@jrchn.ac.jp	火曜日 17:00 - 19:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	眞崎 直子	広域連携看護学特論	1・2前	教育・研究棟 4 F 研究室 2 6	masaki@jrchn.ac.jp	火曜日 17:00 - 19:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	植田喜久子	実践看護学特論	1・2前	教育・研究棟 4 F 研究室 3	kiueda@jrchn.ac.jp	水曜日 17:00 - 18:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
専	教授	中信利恵子	災害救護特論	1・2前	教育・研究棟 4 F 研究室 2	nakanobu@jrchn.ac.jp	水曜日 10:00 - 12:00
			看護学演習	1通			
			合同研究ゼミナール	1後			
			特別研究	2～3通			
兼任	教授	小原真理子	災害救護特論	1・2前			授業時間前後 30分

2018年度 共同看護学専攻 教員一覧 [日本赤十字九州国際看護大学]

専任 等区分	職位	氏名	担当授業科目	配当 年次	研究室	メールアドレス	オフィスアワー
専	教授 (研究科長)	本田多美枝	看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2前 1通 1後 2～3通	ゲート棟3階 研究科長室	t-honda@jrckicn.ac.jp	金曜日 12:10 - 13:10 授業終了後 メール(随時)でも受け付ける。 その他、訪室の場合は、メールにて 時間予約をしてください。
専	教授	小林 裕美	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2後 1・2前 1通 1後 2～3通	講義・研究棟3階 研究室302	h-kobayashi@jrckicn.ac.jp	火曜日 12:20 ~ 13:20 授業終了後およびメール(随時)に て受け付けます。 訪室の場合は、メールにて時間予約 をしてください。
専	教授	鈴木 清史	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1・2前	講義・研究棟4階 研究室402	se-suzuki@jrckicn.ac.jp	火～木曜日 12:20 ~ 13:20 (左記 以外の時間については事前に問い合 わせてください)
専	教授	高橋 清美	広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2前 1通 1後 2～3通	講義・研究棟3階 研究室305	k-takahashi@jrckicn.ac.jp	火曜日 17:00 - 18:00
専	教授	姫野 稔子	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2前 1・2前 1通 1後 2～3通	講義・研究棟4階 研究室416	t-himeno@jrckicn.ac.jp	火曜日の12:20 ~ 13:10 授業終了後およびメール(随時)で も受け付けます。 その他、訪室の場合は、メールにて 時間予約をしてください。
専	教授	柳井 圭子	臨床倫理論 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2後 1・2前 1通 1後 2～3通	講義・研究棟4階 研究室411	k-yanai@jrckicn.ac.jp	木曜日 12:30 - 13:20
専	教授	山勢 善江	災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1・2前 1通 1後 2～3通	ゲート棟4階 研究室408	y-yamase@jrckicn.ac.jp	月曜日 17:00 - 18:00 メール(随時)でも受け付ける。 その他、訪室の場合は、メールにて 時間予約をしてください。
専	教授	乗越 千枝	看護学演習 合同研究ゼミナール	1通 1後	講義・研究棟3階 研究室310	c-norikoshi@jrckicn.ac.jp	金曜日 12:00 ~ 13:00 上記以外はメールにてご連絡くだ さい
専	教授	守山 正樹	看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究	1通 1後 2～3通	講義・研究棟4階 研究室410	ma-moriyama@jrckicn.ac.jp	月・火・水曜日 12:30 - 13:10

VI 後期3年博士課程
共同看護学専攻
シラバス

共通科目

科目名	看護理論			選択必修	選択
担当教員	筒井真優美				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	開講日 12:30 ~ 13:00
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 看護学・看護科学における看護理論の意義を説明できる。 2. 看護実践と看護理論の関連について説明できる。 3. 看護理論の評価および今後の課題について述べるができる。					
■ 授業の概要 実践科学である看護学・看護科学の変遷を概観し、看護理論の役割・意義、および今後の課題を探究する。また、世界の動きに注目し、西洋と東洋を越えたグローバル化された看護理論と実践に活用できる中範囲理論を追究する。					
回	授業内容及び方法				担 当
1	看護学・看護科学（オリエンテーションを含む）				筒井
2	看護理論の概観				筒井
3	理論の構成要素と理論評価				筒井
4	看護実践課題と看護理論				筒井
5	看護実践課題と看護理論				筒井
6	看護実践課題と看護理論				筒井
7	日本における看護理論の概観				筒井
8	看護理論における今後の課題				筒井
■ 準備学習 修士課程で学んだ資料などがあれば持参してください。					
■ 教材・テキスト 筒井真優美編著(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院. 筒井真優美編著(2015). 看護理論—看護理論20の理解と実践への応用 改訂第2版. 南江堂.					
■ 参考書 ★Alligood, M. R. (2014). Nursing theorists and their work (8th ed.). St. Louis, MI: Elsevier. Chinn, P. L., & Kramer, M. K. (1995)/白石聡監訳(1997). 看護理論とは何か. 医学書院. Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2004)/川原由佳里監訳(2007). チン&クレイマー 看護学の総合的な知の構築に向けて. エルゼア・ジャパン. ★Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2017). Knowledge development in nursing: Theory and process (10th ed.). St. Louis, MO: Mosby, Inc. Fawcett, J.(1993). Analysis and evaluation of nursing theories. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. Fawcett, J. (1995). Analysis and evaluation of conceptual models of nursing. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. ★Fawcett, J. (1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット 看護理論の分析と評価. 医学書院. ★Fawcett, J. & Desanto-Maeda, S. (2013). Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.). Philadelphia, PA: F. A. Davis Company . George, J. B. (2011, 6th ed.)/南裕子・野嶋佐由美・近藤房恵(2013). 看護理論集 より高度な看護実践のために 第3版. 日本看護協会出版会. ★ Meleis, A. I. (2017). Theoretical nursing: Development and progress (6th ed.). Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins. Tomey, A. M. & Alligood, M. R. (2002)/都留伸子監訳 (2004). 看護理論家とその業績 第3版. 医学書院. Walker, L. O. & Avant, K. C. (2011) . Strategies for theory construction in nursing (5th ed.). Norwalk, CT: Appleton & Lange Walker, L. O., & Avant, K. C. (2005)/中木高夫・川崎修一(2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院.					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業の取り組み 50% 課題のプレゼンテーション 50% 計 100%					
■ 教員からのメッセージ 看護における先達たちの情熱に触れながら、楽しく学び、自由に意見を述べ、他者と対話できるとよいと思います。 オフィスアワー：授業時間以外は、事前にアポイントメントをとってください。 メールアドレス tsutsui@redcross.ac.jp					

科目名	赤十字人道援助論			選択必修	選択
担当教員	東浦 洋				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	授業終了後およびメール (随時) にて受け付けます
開講時期	1・2 年次 後期	時間数	15 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>赤十字人道援助の原則、国際人道法、国際的な基準、現状と課題について習得し、援助事業の企画・実施・評価の分野において実際に行動できるようになること</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>世界の人道援助の課題と人道援助にかかわる国連、国際 NGO 等の主要国際機関の動向について検討し、赤十字が国内外で実施すべき人道援助について、歴史的な視点と具体的な活動事例を用いて教授する。</p> <p>また、赤十字の基本原則、武力紛争時に適用されるジュネーブ条約を中心とした国際人道法、および大規模災害時の国際救援からの学びから主要国際機関と協働して作成した国際救援最低基準（スフィア・プロジェクト）などについて検討し、将来具体的に活用できるようにするとともに、それらの改善に向け貢献できるようにする。さらに、途上国の開発援助における、主として保健・衛生分野の支援活動の現状を理解し、課題について探求する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	オリエンテーション、赤十字の起源と発達、赤十字基本原則、行動規範				東浦
2	国際人道法と看護師の権利・義務				東浦
3	世界の人道援助の課題と人道援助期間の動向				東浦
4	スフィア・プロジェクト				東浦
5	赤十字災害救護（国内）				東浦
6	赤十字災害救援（国際）				東浦
7	赤十字開発事業				東浦
8	赤十字人道援助の課題				東浦
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 授業終了時に示す内容について、復習しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>The Sphere Project, Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response, 2011 Edition; Manual on the Rights and Duties of Medical Personnel in Armed Conflict; World Disasters Reports, etc.</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>国際人道研究ジャーナル各号、日本赤十字社、ICRC、IFRCなどのHP</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>課題レポート</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>赤十字の人道援助の実際と課題について知悉し、将来、赤十字の実際の活動現場と教育との連携協力を積極的に推進していく人材になっていただきたいと考えます。 オフィスアワー：事前にメールにて時間予約をしてください。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）			選択必修	選択
担当教員	根本昌宏、村林宏、姫野稔子、佐藤満				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	根本：17：00 - 18：00(水) 村林：17：00 - 18：00(月) 姫野：17：00 - 18：00(金)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>設定した研究テーマに対して科学的根拠を明らかにするために有効な実験デザインと準実験デザインによる研究計画と各種測定手法を理解し、実践することができる。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>実験研究に不可欠となる動物およびヒトの生体で起こる現象を科学的に立証するための研究方法、生体反応など様々なバイオマーカーを利用した実験研究及び準実験研究の方法について教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
1	1. 実験研究を行うにあたって 2. 実験研究と倫理 3. 実験動物とその取扱い 4. 非臨床試験の概要とGLP 5. 薬の効果と有害作用の評価				根本
2	1. 実験動物代替法 2. バイオマーカーと疾患 3. 酵素免疫測定法の基礎 4. 酵素免疫測定法を用いたストレス評価 5. 生体反応・環境因子の評価手法				根本
3	1. 実験動物試料の扱い方 2. 組織試料作成方法 3. 組織染色の基礎 4. 抗原抗体反応の基礎				村林
4	1. 免疫組織化学法の手技 2. 実験結果の判定 3. 免疫組織化学法の応用 4. 画像作成時の注意				村林
5	1. ヒトを対象とする実験研究の倫理 2. 運動生理学の基礎 3. 体組成の測定法 4. 身体活動量の定量化				佐藤
6	1. バイオメカニクス（生体力学）の基礎 2. 至適運動強度の決定法 3. 筋電図による動作解析方法 4. 画像による動作解析方法				佐藤
7	1. 準実験研究デザインとは 2. 準実験研究の内容妥当性の考え方 3. 内容妥当性を高める方法				姫野
8	1. ヒトを対象とした準実験研究の具体的なプロセス－計画立案から分析まで－				姫野
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。講義後にレポート課題に取り組むこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定しない。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>必要に応じて提示する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>講義終了時に、各講師が課題を提示するので期限までに提出すること。 配点は各教員25点で、合計100点である。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>客観的評価法として重要な実験研究の内容ならびに技術を理解して、自らが計画、実行、評価、改善できるように学んで下さい。 人間を対象とした研究成果によって看護学を発展させていきましょう。（姫野）</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）			選択必修	選択
担当教員	伊藤善也、西片久美子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	伊藤:12:00 - 13:00(火・水) 西片:18:00 - 19:00(月)
開講時期	1・2 年次 後期	時間数	15 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床介入研究に関する論文を批判的に読解するための基礎的な力を養う。 2. 臨床上的問題を臨床介入研究により解決するための方法論を学ぶ。 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>臨床現場で介入による治療・ケアの効果を得るために臨床介入研究を計画し、遂行するプロセスについて教授する。介入のための方法論や結果分析法などについて実践的に教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	概論 1：臨床研究のなかに位置づけられる臨床介入試験の概要を理解する。				伊藤
2	概論 2：実施にあたって基礎となる非臨床試験、生物統計学や研究倫理について学ぶ。				伊藤
3	臨床介入試験の設計 1：薬剤を含む医療技術を開発するための臨床介入試験の設計について学ぶ。				伊藤
4	臨床介入試験の設計 2：有効性、安全性と非劣性（優越性）を検証する試験を薬剤の開発を具体例にして理解する。				伊藤
5	臨床介入試験の実施：実施計画書の作成、実施体制の構築、研究の実施までの流れを治験を例にして理解を深める。				伊藤
6	臨床介入試験の評価および実践：実施した臨床介入試験の結果をまとめ、他の臨床試験と比較する方法論について学ぶ。				伊藤
7	看護における臨床介入研究の特徴と意義および限界について、治験等と比較しながら理解する。また、主な看護の臨床介入研究について概観する。				西片
8	看護における臨床介入研究のためのプロトコルの作成と介入の実際、および論文のまとめ方について、具体例をもとに学ぶ。				西片
<p>■ 準備学習</p> <p>講義の 1 週間前に授業内容の理解を進めるための資料を提示するので、講義を受けるまでに学習してください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定しない。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>必要に応じて提示する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>講義終了時に各講師より提示されたテーマでレポートを作成する。配点は伊藤担当分:74 点、西片担当分:26 点で、合計 100 点である。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>看護師として臨床介入研究を立案・設計・実施できるような知識を身につけ、実践できるように取り組んでください。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、中野実代子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>量的な観点から看護学における現象を探究するために、測定したい現象を概念化し、その概念を尺度化する尺度開発のプロセスを教授する。さらに、看護学の基盤を発展させるための尺度の活用方法について教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>講義内容をもとに尺度開発に関する文献検討により深めた内容のプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	測定したい現象を尺度化するプロセス				河口・中野
2	アイテムプールとワーディング				河口・中野
3	尺度の信頼性の検討				河口・中野
4	尺度の妥当性の検討				河口・中野
5	翻訳尺度の作成プロセスおよび妥当性と信頼性の検討				河口・中野
6	下位尺度をもつ尺度の構成と得点化				河口・中野
7・8	尺度開発に関する文献のクリティーク				河口・中野
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（プレゼンテーション 50%、討議内容 50%）で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）			選択必修	選択
担当教員	小林裕美、石崎智子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	小林：12：20 - 13：20(火) 石崎：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 看護研究における質的統合法（KJ法）の活用の意義について理解できる。</p> <p>2) 質的統合法（KJ法）におけるデータ分析の手法を体験し、質的統合法の方法論としての特徴を理解できる。</p> <p>3) 看護研究における現象学的研究の意義と目的について理解できる。</p> <p>4) 現象学的研究におけるプロセスを理解し、看護研究への活用を思索できる。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、質的統合法（KJ法）および現象学的研究プロセスを展開できるよう教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	看護研究と KJ 法				小林
2	質的統合法（KJ法）におけるデータ分析(1)－データの単位化、グループ編成－				小林
3	質的統合法（KJ法）におけるデータ分析(2)－図解と叙述化－				小林
4	質的統合法（KJ法）の活用と発展				小林
5	看護研究と現象学				石崎
6	現象学的研究における「研究者」と「事象」				石崎
7	現象学的研究におけるデータ収集の方法				石崎
8	現象学的研究におけるデータ分析の手法				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>質的統合法（KJ法）については、参考書「発想法」を読んだことのない人は初回までに読んでおくこと。その後は、模擬データで分析を一部実施するため、それに伴う課題を提示する。</p> <p>現象学的研究については、「現象学的思考とは」について文献リスト等を参考にし、各自準備の上参加してください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>・山浦晴男：質的統合法入門 考え方と手順. 医学書院, 2012.</p> <p>・松葉祥一、西村ユミ編集：現象学的看護研究－理論と分析の実際. 医学書院, 2014.</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>・川喜田二郎：発想法. 中公新書, 1996.</p> <p>・ホロウェイ、ウィーラー（野口美和子監訳）：ナースのための質的研究入門. 医学書院, 2010.</p> <p>・その他、適宜講義の内容毎に文献を紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>質的統合法（KJ法）に関する課題レポート（50%）（質的統合法（KJ法）の学習によって得られた「帰納的な観点からの探究の意味について」の自己の考えが論述されているかを評価する）</p> <p>現象学的研究に関する課題レポートおよびプレゼンテーション（50%）（課題に対して探究した内容のプレゼンテーション、および形式を踏まえ適切に論述されたレポート等の完成度で評価する。）</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>質的統合法は、KJ法つまり野外科学におけるアブダクションに基礎をおくが、複雑な看護現象を明らかにできる方法論と考えている（小林）。現象学的研究は、長い歴史をもつ哲学を起源にしているため、難しいと受け止められがちであるが、看護者自身の経験や現に存在している世界を解釈し、了解するために有意義な方法であると考えている（石崎）。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）			選択必修	選択
担当教員	鈴木清史				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	12:20 - 13:20(火～木)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>文化人類学的資料収集法と資料の記述、まとめ方そして分析に関わる基本的知識を学ぶ</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、文化人類学的研究プロセスを展開できるよう文化人類学領域におけるデータ収集、分析の方法論を教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	文化人類学的研究の特徴				鈴木
2	研究対象の多様性				鈴木
3	フィールドワークについて ① 特徴				鈴木
4	フィールドワークについて ② 可能性と限界				鈴木
5	フィールドノートと民族誌				鈴木
6	資料のまとめ方				鈴木
7	資料の分析				鈴木
8	看護分野における文化人類学の汎用性と限界				鈴木
<p>■ 準備学習</p> <p>文化人類学や社会学の入門書をとおして基本的な概念整理をすること。文献はとくに指定しない。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>テキストおよび教材は適宜紹介する</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>T. H.エリクセン『人類学とは何か』(鈴木清史訳)世界思想社 2008 T.H. エリクセン『エスニシティとナショナリズム』(鈴木清史訳)明石書店 2006 A.クーパー 『人類学の歴史』(鈴木清史訳)明石書店 2001年(特に第1章)</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業への参加 40%／期末レポート 60% 授業の進捗や展開の仕方によって小レポートによる課題などを実施し、授業への参加の評価として勘案します。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>授業で取り上げたり紹介したり文献以外にも触れることを心がけてください。授業の進捗具合によって授業展開を対応することがありますので、ご了解願います。</p>					

科目名	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）			選択必修	選択
担当教員	河口てる子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	土曜日 16～18時
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学と看護実践に有用な理論を構築するため、演繹的アプローチと帰納的アプローチを用いた理論構築方法、および理論の実践場面における活用方法について教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護実践モデルを構築するまでのプロセスと慢性疾患看護の実践場面における活用方法について、具体例を用いながら教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	理論開発の背景、レベル				河口
2	理論開発の要素、アプローチ、方法				河口
3	概念統合、概念統合へのアプローチ				河口
4	概念導出、概念分析、立言統合、立言導出、立言分析				河口
5	理論統合、理論統合の手順				河口
6	理論導出、理論分析、理論分析の手順				河口
7	理論の検証				河口
8	理論開発の具体例、活用例				河口
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（プレゼンテーション 50%、討議内容 50%）で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	臨床倫理論			選択必修	選択
担当教員	柳井圭子、石崎智子				
科目区分	共通科目	単位数	1単位	オフィス アワー	柳井：12：30 - 13：20(木) 石崎：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>臨床倫理に関する基礎理論から実践的アプローチを修得し、教育的・指導的立場に立って後進の育成および臨床倫理委員会において中心的な役割を果たせるよう倫理的課題を探究する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>臨床現場で遭遇する倫理的諸課題に対して、社会的ニーズの多様化に即した適切な対処ができるよう、臨床倫理および医療マネジメントの基本原則と重要概念を教授する。看護学の領域において、今後の医療における倫理的役割の重要性と必要性を理解し、医療倫理と医療マネジメントを応用実践できるように教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	臨床倫理に関する基礎理論から倫理的意思決定モデルを検討する				柳井
2	法制度状況から生じる倫理的課題を国内外の文献をとおして検討する				柳井
3	法的問題とその解決策から、臨床の倫理的諸問題を考察する				柳井
4	倫理コンサルテーションとしての看護者の役割を考察する				柳井
5	事例で考える臨床現場の倫理的課題1：医療・福祉施設で遭遇すること				石崎
6	事例で考える臨床現場の倫理的課題2：地域・社会のなかで看護者としてかかわること				石崎
7	事例で考える臨床現場の倫理的課題3：生命の始期と終期に関すること				石崎
8	「いのちの倫理的受託者」としての看護者の役割を見いだす				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>教員より提示される課題を文献リスト等を参考に準備の上、参加ください。プレゼンテーションを担当する場合には、教員および参加者に資料また必読文献を事前配付をし、活発でかつ実のある討議ができるよう配慮ください。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>指定はしません。受講者には授業開始前に参考文献リストを配付します。</p>					
<p>■ 参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮坂道夫：医療倫理学の方法－原則・手順・ナラティブ。医学書院，2005. ・藤野昭宏監訳：病院倫理入門－医療専門職のための臨床倫理テキスト，丸善出版，2011. ・福井次矢、浅井篤、大西基喜編集：臨床倫理学入門、医学書院，2003. ・Herman Wheeler, Law, Ethics and Professional Issues for Nursing, Routledge, USA,2012. ・その他、講義の内容毎に文献を紹介する。 					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>①授業への参加度・プレゼンテーション（50%） 討論への参加状況、プレゼンテーション内容を評価します。</p> <p>②課題レポート（50%） 課題に対して探究した内容であり、形式を踏まえ適切に論述されているか等、レポートとしての完成度を評価します。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>臨床は、さまざまな倫理的問題が日常的に発生している場です。その中から課題を見出し、互いに刺激しあい、知識を増やし倫理的課題について学際的な対話を行いましょ。そのような討論が、臨床ケア現場で活かされることを期待しています。</p>					

專門科目

科目名	看護人材開発特論			選択必修	選択
担当教員	小山真理子、本田多美枝、柳井圭子、山田聡子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	小山：17：00 - 18：00(火) 本田：12：10 - 13：10(金) 柳井：12：30 - 13：20(木) 山田：17：00 - 18：00(水)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について理解し、実践への応用について考察する 2. 看護の質を高めるための継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論について考察する 3. 看護・看護教育に関わる政策的課題を明確化し、政策立案を通じて質の高い看護を組織的に行うための方策について考察する 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力を修得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	人材開発についての諸理論と看護教育への応用				小山
2	看護人材開発に関する日本の研究の動向				小山
3	看護人材開発に関する海外の研究の動向				小山
4	看護人材開発に関する国内外の研究のクリティーク				小山
5	看護人材開発プログラムの開発				小山
6	継続教育システム構築の基礎となる諸理論（キャリア開発、組織学習理論等）				本田
7	エキスパートナース育成に関連する諸理論（リフレクション、熟達化、省察的实践）				本田
8	継続教育システムの構築、エキスパートナースの育成に関する研究の動向				本田
9	継続教育システムの構築、エキスパートナース育成のプログラム開発				本田
10	臨地実習指導者の育成に関する現状と課題				山田
11	臨地実習指導者に関する研究の動向				山田
12	看護実践能力を育成する臨地実習指導者の能力の育成				山田
13	日本の医療制度改革の考察と看護をめぐる政策的課題				柳井
14	医療・保健における政策決定過程に関する研究から見出される課題検討				柳井
15	看護人材育成のための政策的課題の明確化と新たな法政策案の策定				柳井
<p>■ 準備学習</p> <p>各教員から提示される文献リスト等を参考に、事前学習を行い、授業に参加する。院生がプレゼンテーションを行う際には、必読文献やプレゼンテーション資料を事前にメール等にて配布し、各自が主体的に参加できるように準備する。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>テキストは指定しない。最新の参考文献を授業開始時に紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>最新の文献を含め、適宜紹介する</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業への参加度・プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）から総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 討論への参加状況やプレゼンテーション内容から評価する （小山・本田：各15点、山田・柳井：各10点） ② 課題に対して探究した内容が適切にレポートとして論述されているか 					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>授業は、内容ごとに①諸理論と実践への応用、②研究の動向、③プログラム開発（システム開発、政策提言）に向けた検討、という構成で進めていきます。各自がクリエイティブに考え、現状と課題を踏まえ、新たな観点から看護人材開発のあり方について探究していくことを期待しています。</p>					

科目名	実践看護学特論			選択必修	選択
担当教員	植田喜久子、百田武司				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	植田：17：00 - 18：00(水) 百田：17：00 - 19：00(火)
開講時期	1・2前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 脳卒中後遺症における諸理論や既存の研究成果を概観し、ベストプラクティスを提供するための理論と方法論について学ぶ。さらに、患者・家族のアウトカムを向上させるための理論や方法の開発について探求する。</p> <p>2) がん看護領域で活用されている諸理論や研究成果を概観し、がん患者や家族の多面的な課題、診断・治療期、リハビリテーション期、終末期に対応した質の高い看護ケアについて探求する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>脳卒中やがんなど生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討①				百田
2	脳卒中後遺症における諸理論、歴史的変遷、概念の検討②				百田
3	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討①				百田
4	脳卒中患者に関する既存の研究成果についての検討②				百田
5	脳卒中後遺症患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求①				百田
6	脳卒中後遺所患者に対するベストプラクティスを提供するための理論と方法論の探求②				百田
7	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討①				百田
8	脳卒中後遺症患者のアウトカムの測定に関する検討②				百田
9	脳卒中患者の生活機能やQOLの向上に向けたに関する研究方法の探求				百田
10	がん患者の体験や生活課題に関する文献検討				植田
11	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討①				植田
12	診断・治療期、がんリハビリテーション期、終末期における課題の文献検討②				植田
13	がん患者や家族における倫理的課題に関する文献検討				植田
14	がん患者や家族に対する援助に有用な理論や概念の文献検討				植田
15	がん患者や家族における援助の体系化に関する検討				植田
<p>■ 準備学習</p> <p>授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>特になし</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>各授業の中で適宜紹介する</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>①授業への参加度と貢献度 (10%) ②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容 (60%) ③レポートの作成 (30%)</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>文献検討を深めることで、学生自身の研究課題や研究の方法論を探究していきます。</p>					

科目名	療養生活看護学特論			選択必修	選択
担当教員	河口てる子、石崎智子、中野実代子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	河口 土 16～18時 石崎 火 17～19時 中野 水 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>1) 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探求する。</p> <p>2) 健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する諸理論や研究成果を概観し、健康の捉え方を活用した看護実践について探求する。</p> <p>3) 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探求する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1～2	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する研究のクリティーク				河口
3～4	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する概念/理論の探究・分析				河口
5～6	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育に関する課題の明確化				河口
7	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究のクリティーク				中野
8～9	健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する研究における概念/理論の探究・分析及び課題の明確化				中野
10～11	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する研究のクリティーク				石崎
12～13	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する概念の探究・分析				石崎
14～15	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関するテレビ会議システムを活用したメディア教材の視聴と討議による課題の明確化				石崎
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業参加状況（討議・発表等：50%、レポート 50%）で総合的に評価する。</p> <p>①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

科目名	生涯発達看護学特論		選択必修	選択
担当教員	大西文子、安藤広子、野口眞弓、西片久美子			
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間	
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先端生殖医療や遺伝医療における患者とその家族への看護支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 2. 子育ての中核にある、出生直後からの母子を取り巻く母乳育児のアセスメントの実際と、母乳のケアを通じた乳児の健全な発育を支援する、地域の助産師・看護師の役割と実践について、理解できる。 3. 小児期のでんかんやネフローゼ等の子どもとその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 4. 認知症とともに生きる高齢者および慢性疾患とともに生活する成人とその家族の生涯発達支援に関する理論・概念、援助方法を理解できる。 				
<p>■ 授業の概要</p> <p>生涯発達理論を基盤とし、胎児期から老年期までの患者とその家族を対象に、それぞれの時期に生じやすい健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見を交えて教授する。</p>				
回	授業内容及び方法			担当
1	先端生殖医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。			安藤
2	遺伝医療における看護の現状からの課題をもちより、援助方法を討議する。			安藤
3	出産体験に影響をする要因および出産体験が及ぼす影響について検討し、出産時の援助方法について討議する。			野口
4	母乳育児を可能にするための援助方法について検討する。			野口
5	育児期のソーシャルサポートの効果について検討し、ソーシャルサポートのあり方について討議する。			野口
6	妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援 日本版「ネウボラ」構想を実現するための課題や方略について探求する。			野口
7	小児期にてんかんをもつ子どもとその家族を理解するための理論、概念、モデルについて、探求する。			大西
8	小児期にてんかんの子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。			大西
9	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族を理解するための理論・概念・モデルについて、探求する。			大西
10	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、討議する。			大西
11	糖尿病患者とその家族を理解するための理論、概念、モデルについて探求する。			西片
12	文献のクリティークを通してエビデンスに基づく糖尿病患者に対する援助方法を探求する。			西片
13	高齢者および認知症高齢者理解のための理論的基盤について探求する。			西片
14	エビデンスに基づく認知症高齢者に対する援助方法を探求する。			西片
15	高齢者の看取りをとらえる概念枠組みと援助方法について探求する。			西片
<p>■ 準備学習</p> <p>事前学習課題を提示いたしますので、科目を選択される学生さんは、授業開始の2週間前までにはご連絡をお願いいたします。</p>				
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適宜紹介する</p>				
<p>■ 参考書</p> <p>適宜紹介する</p>				
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>各担当教員からの課題（50％）に加えて、プレゼンテーション評価（20％）やディスカッションへの参加状況（20％）、参加度（10％）を合わせて評価とする。 配点は、大西担当分 27点、安藤担当分 13点、野口担当分 27点、西片担当分 33点の合計 100点である。</p>				
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>ライフサイクル全体を俯瞰し、看護の対象となる人の生涯発達上の課題を明確にしたうえで、その人なりの健康を維持・増進できるような方略をともに探求していきたいと考えています。主体的な学習を期待します。</p>				

科目名	広域連携看護学特論			選択必修	選択
担当教員	眞崎直子、高橋清美、鈴木聖子、小林裕美、姫野稔子				
科目区分	専門科目	単位数	2単位		オフィス アワー
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域におけるメンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケアを概観し、多職種の連携・調整の分析および課題の明確化のための理論や方法について検討する。 2) メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、重要と考えられる主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。 3) 地域で在宅療養する終末期の人々とその家族に対する支援と広域・多職種連携のあり方に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。 4) 在宅高齢者の療養生活および介護予防に関する研究のクリティーク、概念/理論の探究・分析および課題の明確化について検討する。 5) 地域で生活する認知症の人とその家族への支援・多職種連携に関する研究のクリティーク及び課題について検討する。 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>人々が地域・在宅において、心身の健康と質の高い生活を維持できるよう、状況に即した柔軟な看護ケアを継続的・シームレスに提供するための治療的環境整備の方法、地域社会連携の改善・変革、多職種との連携・調整の在り方についての問題や研究課題を探究する。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
1	メンタルヘルスケア、難病患者等在宅ケア等に関する文献検討				眞崎
2	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における多職種連携の課題に関する文献検討				眞崎
3	メンタルヘルスケア、難病患者等地域における社会連携の課題と改善に関する検討				眞崎
4	メンタルヘルスケア、難病患者等地域の継続的ケアに有用な理論や概念の検討				眞崎
5	メンタルヘルスケアにおける地域連携や教育に関する理論・方法論				高橋
6	メンタルヘルスケアに関する研究論文の動向				高橋
7	認知症の人のケアに関する文献検討				鈴木
8	地域で生活する認知症の人のケアの課題等に関する文献検討				鈴木
9	地域で生活する認知症の人のケアに関する理論の検討				鈴木
10	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する概念/理論の検討				小林
11	在宅療養する終末期の人々と家族に対する支援に関する研究のクリティーク				小林
12	在宅療養する終末期の人々と家族に対する多職種連携に関する研究のクリティーク				小林
13	高齢者の療養生活や介護予防等に関する研究論文の文献検討				姫野
14	高齢者の療養生活や介護予防のケア介入等に関する文献検討				姫野
15	高齢者のケアに有用な理論・概念の検討				姫野
<p>■ 準備学習</p> <p>授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>各授業の中で適宜紹介する</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>各授業の中で適宜紹介する</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>①授業への参加度と貢献度 (10%) ②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容 (40%) ③レポートの作成 (50%)</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>文献検討を深めることで、自己の研究課題や研究の方法論を多角的に探究していきます。 メンタルヘルスケアに対する問題意識や、自己の取り組みたい課題を考えて参加すること (高橋) 在宅療養する終末期の支援について、ともに検討できればと思う (小林) 主体的なとりくみを期待します (姫野) メンタルヘルス、難病患者支援等地域課題解決に向け考えて参加することを期待します。(眞崎)</p>					

科目名	災害救護特論			選択必修	選択
担当教員	中信利恵子、小原真理子、山勢善江				
科目区分	専門科目	単位数	2単位		オフィス アワー
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
■ 授業の目的 国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。					
■ 授業の概要 1) 災害看護領域における現象や看護実践の分析、活用されている諸理論や先行研究の研究成果を概観し、災害サイクルの各期の質の高い看護ケアを行うための看護の課題を探究する。また、災害が被災者や救援者に及ぼす影響、看護実践に活用できる理論や方法論について教授する。 2) 官・民・学が一体となり取り組む地域防災を基盤に、要配慮者の震災関連死を防ぐ対応、そして法・制度について探究し、看護の役割を検討する。災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する看護の課題について探究する。 3) 災害サイクルの急性期のケアに関する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。また、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	災害や災害看護領域における現象や看護実践に関する文献検討				中信
2	災害看護において活用されている諸概念や理論に関する文献検討				中信
3	災害が被災者や救援者に及ぼす影響に関する文献検討				中信
4	災害や災害医療・災害看護における倫理的課題に関する文献検討				中信
5	被災者に対する看護実践に必要な看護の方法論の探求				中信
6	災害看護を行う看護者への支援方法の探求（1）				中信
7	災害看護を行う看護者への支援方法の探求（2）				中信
8	官、民、学が一体となり展開する地域防災の意義や方法論の探究				小原
9	震災関連死の現状分析と災害時要配慮者を取り巻く法・制度に関する文献検討				小原
10	災害時要配慮者、避難行動要支援者の健康と避難生活支援方法の探究				小原
11	災害中長期における被災者支援と、被災者を取り巻く組織間連携に関する文献検討と現状				小原
12	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析（1）				山勢
13	災害サイクルの急性期ケアに関する諸理論や方法論に関する文献レビューと現状分析（2）				山勢
14	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用（1）				山勢
15	災害サイクルの急性期ケアに関する課題解決に向けた方法論の適用（2）				山勢
■ 準備学習 次回の授業内容や方法について、適切な文献を活用して事前に学習し、専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト 授業内容に関するPPT資料やDVDを提示すると共に、適宜、ミニシミュレーションを取り入れ、参加型授業を展開する。(小原) 適宜紹介する。					
■ 参考書 授業の中で適宜紹介する(中信) 授業の中で紹介する(小原) Rocert Power, Elaone Daily, et al. : International Disaster Nursing. Cambridge University Press. 2010 (山勢)					
■ 成績評価の方法及び採点基準 次の①～③で総合的に評価を行う。 ①授業への参加姿勢と貢献度（10%）：自発的な質問、発言などをして積極的に授業に参加したか ②文献検討に基づいたプレゼンテーションの内容（40%）：文献検討を行い根拠に基づいた資料を作成し、自己の意見を明確にしてプレゼンテーションが行っているか ③レポートの作成（50%）：レポートが課題に対して適切な内容でまとめられているか					
■ 教員からのメッセージ 文献検討とディスカッションを深めていく中で、博士論文の研究課題や研究方法論を探究していきます。(中信) 地域に暮らす災害時要配慮者の平時における健康・生活上の課題を理解することが、災害時の対応に繋がります。地域に根差した災害看護のあり方を探究していきます。(小原) 災害急性期は、個人および集団の心身に危機をおよぼします。この時期特有の看護を探究していきます。(山勢)					

科目名	健康科学特論			選択必修	選択
担当教員	島井哲志、佐藤満				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	オフィス アワー	島井 月17時-18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30時間		
<p>■ 授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団を対象とした健康増進のアプローチを理解する 2. 集団を対象とした多様なアセスメント法と介入法を理解する 3. 多職種による介入とそのマネジメントを理解する 					
<p>■ 授業の概要</p> <p>地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考案し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。</p>					
回	授業内容及び方法				担当
1	総論：ウェルビーイングの多面的評価				島井
2	健康増進とウェルビーイングを取り巻く諸要因				島井
3	健康科学の方法論①				島井
4	健康科学の方法論②				島井
5	地域の課題から地域政策の立案へ				島井
6	保健指導の課題と今後①				島井
7	保健指導の課題と今後②				島井
8	ワーク・ライフ・バランスと職場のメンタルヘルス				島井
9	国際社会及び我が国での健康増進への取り組み				佐藤
10	身体計測学とその理論				佐藤
11	身体機能測定の意味とその方法				佐藤
12	健康運動プログラムの作成①-メタボリック・シンドロームへの対応				佐藤
13	健康運動プログラムの作成②-ロコモティブ・シンドロームへの対応				佐藤
14	生活習慣病予防のための効果的な身体運動				佐藤
15	転倒・介護・認知症予防のための科学的な身体運動				佐藤
<p>■ 準備学習</p> <p>次回の授業範囲・課題などについて、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>特に指定しない。関係書籍・論文等を広く活用する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>適宜紹介します。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>授業へ積極的参加・討論 (30%)、プレゼンテーション (35%)・レポート (35%) により、総合的に評価する。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>健康の保持・増進には身体運動が欠かせません。医療従事者として、その正しい知識を身に付け多くの人々の健康の保持・増進に貢献できるようにしましょう！</p>					

演習科目

科目名	看護学演習			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、中野実代子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、乗越千枝、守山正樹				
科目区分	演習	単位数	2 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1 年次 通年	時間数	60 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学演習は、合同研究ゼミナール、特別研究へつなぐ授業科目と位置づける。国内外の文献検討やフィールドワーク、ディスカッションを行うことにより、研究テーマを絞り込み、明確にする。必要とされる理論と方法論、技法等を習得し、研究課題から研究方法を検討し、研究計画書を作成することを目的とする。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要なとされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
	<p>【授業の進め方】</p> <p>各担当教員と相談し、関心のある研究テーマについて以下の通り演習を行う。</p> <p>1～8 関心のある研究テーマに関する文献検討</p> <p>9～14 研究テーマの明確化</p> <p>15～20 研究テーマに関するフィールドワークとディスカッション</p> <p>21～28 研究テーマに関する研究デザインの検討</p> <p>29～30 プレゼンテーションとディスカッション</p>				
<p>■ 準備学習</p> <p>授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>文献レビュー、プレゼンテーション、討議内容から総合的に評価する。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

研究指導教員名と指導の概要

・河口 てる子

看護援助モデルや教育支援モデルなど実践看護に求められる教育・支援及び慢性疾患をもつ人とその家族への援助について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・石崎 智子

療養生活を送る人々やその支援者のメンタルケアに焦点を当てたメンタルヘルスの在り方について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・西片 久美子

糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる成人・高齢者とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・中野 実代子

慢性疾患とともに療養生活を営む人々の生活者としての視点を踏まえた健康の捉え方と看護実践への適用について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・安藤 広子

出生前検査や不妊治療など先端生殖医療や遺伝医療の現場における看護の課題、および先天性疾患患者（児）とその家族への看護支援の課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・鈴木 聖子

認知症の人と家族の医療、福祉、看護をめぐる現象や課題を明らかにするために国内外の文献研究を行い研究課題の明確化とともに研究方法を検討する。

・山田 典子

虐待や暴力被害にあった患者が増える昨今、人間と環境を統合的・創造的に捉え、人間の尊厳とは何か、看護とは何か考え、それぞれの持ち場で責任と役割を果たすために、国内外の関連領域の文献レビューを行い、自らの研究課題を焦点化することができる。

・大西 文子

てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・東野 督子

療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や教育プログラムに関する研究課題の焦点化と方法論の検討について教授する。

・山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法、および臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する研究課題の明確化と研究方法を検討する。

・野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・小山 眞理子

看護教育や看護実践における現象を分析し、課題を解決するためのエビデンスに関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・植田 喜久子

がん患者や家族およびがん医療や看護をめぐる現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、自己の研究課題および研究方法論を検討する。

・眞崎 直子

地域におけるメンタルヘルスと難病患者等在宅ケアに関する文献研究を行い、自己の研究課題の明確化及び研究方法論を検討する。

・ 中信 利恵子

災害サイクルの各期における災害医療や看護活動における現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、研究課題の明確化とともに研究方法論を探求する。

・ 百田 武司

特論で学んだ、ベストプラクティスを提供し、脳卒中後遺症患者・介護家族のアウトカムを向上させるための理論や方法について理解を深め、実際に研究として展開する際の計画書を作成する。

・ 小林 裕美

地域で在宅療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 高橋 清美

メンタルヘルス領域における摂食嚥下障害や摂食嚥下機能支援に関する国内外の文献レビューを行い、研究課題の明確化や研究方法を検討するとともに、摂食嚥下障害や摂食嚥下機能不全を解決するために必要とされる理論や方法論、技法について実証的に探究することを学修する。

・ 姫野 稔子

在宅高齢者に対する看護介入の効果ならびに看護介入モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 本田 多美枝

専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論、実践から学ぶ方法、実践能力の開発・熟達化に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・ 柳井 圭子

質の高い看護・人材開発を支えるための法政策に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・ 山勢 善江

クリティカルケアにおける家族看護の構造モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。

・ 乗越 千枝

急性期病院入院患者の退院計画や退院支援モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・ 守山 正樹

組織・集団、地域・コミュニティにおける健康生活支援に関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、課題に適切な研究方法を吟味する。

合同研究ゼミナール科目

科目名	合同研究ゼミナール			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、中野実代子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、乗越千枝、守山正樹				
科目区分	演習	単位数	1 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1 年次 後期	時間数	30 時間		
<p>■ 授業の目的</p> <p>学生が学籍を置く大学での個人指導と、5 大学の学生・教員が一堂に会して行う集合教育を組み合わせることにより、異なる専門性の観点から学生が現段階で考えている研究について、学生相互または教員とのディスカッションにより多角的に検討し、実現可能な研究に向けての方向性を見出せるよう教授する。</p>					
<p>■ 授業の概要</p> <p>学生個々が現段階で考えている研究テーマあるいは、関心のあるテーマに関する内容、方法、意義等について学生が学籍を置く大学で個人指導を受け、その成果を集合して、5 大学の学生・教員の前で発表することにより、学生が学籍を置く大学での個人指導がさらに深まり、博士論文作成に向けた糸口の発見や研究を遂行する過程での課題が抽出されるなど、今後の方向性が明確となる。また、対面による交流の場をもつことで、博士論文作成に引き続き取り組む上での研究者としての資質を培う。</p>					
回	授業内容及び方法				担 当
1～5	<p>【授業の進め方】</p> <p>6～13 回は、5 大学の中心地点にある日本赤十字看護大学（東京都）に集合して、2 日間の日程で、共同開催する。その前後は、主研究指導教員からの指導を受ける。</p> <p>研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する発表にむけた資料作成（各大学）</p>				
6～13	<p>研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容のプレゼンテーションとディスカッション （日本赤十字看護大学にて共同開催）</p>				
14～15	研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容の再検討（各大学）				
<p>■ 準備学習</p> <p>授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。</p>					
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>					
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>					
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>発表に向けた準備状況（30%）、プレゼンテーション（30%）、討議内容および討議への参加状況（40%）で総合的に評価する。</p>					
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。</p>					

特別研究科目

科目名	特別研究	選択必修	必修
担当教員	河口てる子、石崎智子、西片久美子、安藤広子、鈴木聖子、山田典子、大西文子、東野督子、山田聡子、野口眞弓、小山眞理子、植田喜久子、眞崎直子、中信利恵子、百田武司、小林裕美、高橋清美、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子、山勢善江、守山正樹		
科目区分	特別研究	単位数	8単位
開講時期	2～3年次 通年	時間数	240時間
		オフィスアワー	教員一覧参照
<p>■ 授業の目的</p> <p>看護学の構築に向けて専門領域における課題について、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成から実施、研究論文作成までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養い、博士学位論文作成に向けた指導を行う。</p>			
<p>■ 授業の概要</p> <p>関心ある専門領域の文献レビュー、研究の前提となる理論枠組みあるいは基盤を明確化し、テーマの選択、研究の目的、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセス及び研究倫理に基づいた研究の取り組みについて指導する。</p>			
回	授業内容及び方法		担当
	<p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門領域における課題について、先行研究のレビュー、フィールドワークから、研究課題と研究方法の明確化をはかり、研究計画書を作成する。 2 研究計画書の審査と研究倫理審査を受け、研究の実施に向けた準備を整える。 3 研究計画書に沿ったデータ収集および分析を行う。 4 研究の進捗状況に応じ、文献の裏づけ等を行いながら、結果の解釈を深める。 5 博士学位論文を作成する。 <p>【研究指導体制】</p> <p>年度末に特別研究報告書を用いて、主指導教員・副指導教員4名からゼミ形式にて指導を行うが、その間には専門領域の主指導教員から指導を受ける。</p>		
<p>■ 準備学習</p> <p>指導内容を踏まえ、次回の指導までに資料を作成しておくこと。</p>			
<p>■ 教材・テキスト</p> <p>適時、紹介する。</p>			
<p>■ 参考書</p> <p>授業中に、適時、紹介する。</p>			
<p>■ 成績評価の方法及び採点基準</p> <p>研究論文作成までのプロセスを研究報告書、研究計画書、博士学位論文から総合的に評価する。</p>			
<p>■ 教員からのメッセージ</p> <p>各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な参加を期待する。</p>			

研究指導教員名と指導の概要

- ・河川 てる子
看護援助モデルや教育支援モデルなど慢性疾患をもつ人とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・石崎 智子
療養生活を送る人々およびその支援者のメンタルケアや精神障がい者支援の課題を改善・改革し、療養生活を営む人々がより良い生活を送ることができるような支援に関する研究指導を行う。
- ・西片 久美子
糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる高齢者とその家族の支援に関する研究指導を行う。
- ・安藤 広子
出生前検査や不妊治療における看護、先天性疾患患者とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・鈴木 聖子
認知症の人と家族の QOL を高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。
- ・山田 典子
被害者や遺族のグリーフケアを促進するための効果的な看護について探求でき、フォレンジックな課題となる事象の予防やケアシステムの開発について研究指導を行う。
- ・大西 文子
てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の日常生活支援のための看護援助に関する研究指導を行う。
- ・東野 督子
療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や教育プログラムに関する研究指導を行う。
- ・山田 聡子
看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法に関する課題や、臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・野口 眞弓
在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究指導を行う。
- ・小山 眞理子
看護基礎教育や継続教育における人材育成の方法、新たな教育プログラムの開発、新たな教育方法の開発、組織の改善等についての研究指導を行う。
- ・植田 喜久子
がん患者や家族の療養生活の質の高い看護支援や教育支援モデルの開発に関する研究指導を行う。
- ・眞崎 直子
地域におけるメンタルヘルスや難病等在宅ケアに関する課題について焦点をあてた研究指導を行う。
- ・中信 利恵子
災害サイクルの各期において被災者や救援者に及ぼす影響、質の高い看護活動、救援者自身の支援に関する研究指導を行う。

・百田 武司

脳卒中患者やその家族の健康問題の解決や QOL を高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。

・小林 裕美

地域で療養する終末期の人を看取る家族に対する看護支援モデルや教育支援モデルの開発に関する研究指導を行う。

・高橋 清美

精神科領域における口腔ケアシステムに関する研究、地域におけるうつ病教育に関する研究指導を行う。

・姫野 稔子

老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行う。

・本田 多美枝

キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行う。

・柳井 圭子

医療安全・医療過誤訴訟を含む看護に関する法政策に関する課題、看護の倫理的問題に関する課題に焦点を当てた研究指導を行う。

・山勢 善江

クリティカルケアにおける生命の危機状態の患者や家族への看護に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。

・守山 正樹

組織・集団、地域・コミュニティにおける健康生活支援の課題について、研究方法を選択、研究計画書を作成して研究を実施し、学位論文を作成するための研究指導を行う。



日本赤十字豊田看護大学

〒471-8565

愛知県豊田市白山町七曲12番33

TEL 0565-36-5111

FAX 0565-37-8558

ホームページ <http://www.rctoyota.ac.jp/>